

き

きあげ (切上)【名詞】 季節漁の終わる事 切上 今年の漁の終わる事 きりあげの訛 きりあげ 参照
[会話] 九月のついちち (一日) ん (に) 締切ん となると、きりあげや (だ)、期限な (が) 来て キアゲや 言うて。

きあらい (気荒)【形容詞】 気性が激しい 気が荒い
[会話] キアライ言うて、気な (が) 荒いにげ (人間) はなあ。

きい きと発音されるものは、きいと二拍化する

きい (木)【名詞】 1) 薪 主として割って細かくした 薪 ぼん よつ 参照 き (木) の二拍化 (志 (布施田)、鳥、伊、松、桑郡、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、亀、安、久、一、度、上、阿、張、名、度、北、尾、南、熊) 2) 木 [会話] ₁₎ 割木、軒の割木 軒の割木も さと (砂糖) つけや (つければ) うまいよ言うて。そして 薪にして来るのを はぎ (葉木) でも、何でも、キや (だ)。たきもん (焚物・燃料) を、きよくばの中い (に) 入れといて (ておいて)。きよくば言うて キイ置くとこ (所)、くど (かまど) の横に、昔や (は) きよくばな (が) 有って、きよくばい (へ) へしこんどけ (押し込んでおけ) 言うて。キイオキバ言うの (のを) きよくば言うんやろな (言うのでしょう)。

きい (気)【名詞】 1) 感情 気持ち 気分 2) 注意 心配 3) 精液 又は射精 [会話] ₂₎ こまかし (細かい) 事 キイつけて

きい (黄)【形容詞】 黄色 黄の変化した語 [会話] 黄色言うのなあ (です) あや (あれは) キイや (だ)。訛な (が) 違うね (違います)。

きい (生)【形容詞】 混ぜ物を加えて無い事 人手が加えられて居ない もとのままで有る 精製してない純粹で混じり気の無い 新鮮な [会話] 混ぜもん (物) な (が) してない き一本、酒でもこや (これは) キイやなあ (だなあ) 言うて、灘の生酒言うやんかい (言います)。

きいいる (黄色)【形容詞】 黄な色 (三重県全域)

きいいる 気持ちを入れる 意気込む する気になって物事をする [会話] キイイレル 言うな (のは) 力入れてしっかりせえ (しなさい) 言うて、しっかりせんかあ (しろ) 言うて、自分もいっしょけんめ (一生懸命) ん (に) なって。

きいおった 来ました 来て居た [用例] あれも(彼も) よお (よく) キイオッタけど (が) 此の頃は 来やせん (来ない)。

きいおとす 落胆する 元気をなくす 失望する [会話] キイオトスなよ言うて、力、落すな言うのなあ (です)。親が死んだとか、子供が 死んだとか、するとなあ 力、落としてしとる (している) やんない (でしょう)。力、落しとんのをな (ているのを) キイオトス言うの (のです)。キイオトス言うのも力、落す言うのも 一緒やわいな (です)。

きいかくれんぼ【名詞】 高い木の上でするかくれんぼ [会話] きい (木) で かくれんぼ してなあ、あっちゃ (あちら) の枝い (に) 渡り、こっちゃ (こちら) の枝い (へ) 渡りして、どいらい (大きい) きいやもんで (なので) おおぎ (大木) やもんで いつでも キイカクレンボ しよおった (して居ました) きい 渡って かくれんぼしよおったんなあ (して居ました)。

きいかける 他人に対し、気を使う いつも注意して居る [会話] キイカケル。あれもして、これもして、おもて (思つて) 気にかけてとんねけど (ているのだが)、そんな (それが) 出来やせんねてや (出来ないのです) 言うてな。気にかけてとんねけど 言うて、訪問も せんならん (しなければいけない) おもて 気にかけてとても (ていても) 訪問も出来やせんとか (出来ないとか) 言うてな。

きいかねた 来るのが精一杯だった。やっと来た。 [会話] どおやらこおやら (どうにか) これい迄 (此処迄) キイカネタ。

きいきい【名詞】 気持 気分 病気 幼児語 (上、阿) [会話] こや (これ) キイキイな (が) わりか (悪るいか) 言うてなあ。気持な (が) わりか 言う事をキイキイな わりか 言うて、子供ん (に) 言うもんで (言うので)。

きいきい (来) 何度となく訪れる事 [用例] キイキイしとると (して居ると) 慣れて来る。

ぎいぎい【名詞】 海魚 ひいらぎ科の魚 全長15cmに達し、体は側扁した楕円形で、鱗の棘が鋭い、体色は白っぽく、背の縁が褐色で、頭部の後ろに大きな斑紋が有る。ぎらぎら参照 (南、熊)

きいきかす 相手の立場や状況に応じて、それにふさわ

しいように行動する [会話] 人な (が) 来るよって (から) 言うて、キイキカシテ、はよ (早く) おらも (私達も) 出て来た言うてな。キイキカシトシネ (ているのだ) こんでも (これでも)。彼女と逢引きしとる (している) とこん (所に) おると (居ると)、キイキカシテ 行くとか、そいな (そんな) 時も使うしな (使います)。はよ キイキカシヤ (せば) ええけど (よいが) おもて (思って)、居る人も、気な (が) のて (無くて) まあ、人な (が) 来る時や (は) 其処らも掃除もして、キイキカシヤ ええけど 言うてな。

きいくたむしみたよんしとる【俚諺】 無愛想で有る仏頂面をしている [会話] 笑顔せんとなあ (せずに) ぶつとしとるとなあ (していると) キイクウタムシミタヨシトル 言うて、なつとも (なんとも) 言わんと な (言わずに) いちんち (終日) ぶつとしとる 人をなあ、ものも言わんと 人をねがめて (睨めて) おる (居る) 人をなあ。

きいくたばり。きいくたぶれ【気草臥】【名詞】 気疲れ 気を使って疲れる事 いろいろ気を配って神経が疲れる事 [会話] 気草臥、きい (気) つこて (使って) あの人な (が) おって (居て) きい (気) つこて 気疲れな (が) したよお (しました) 言うて キイクタブレナシタ、むつかし (むつかしい) 人のとこん (所に) おると (居ると)、自分できい (気) つこて。

きいこ【黄粉】【名詞】 黄色の染料 たくあんなどを漬けるときに用いる。

きいこむ【着込】【他マ下一】 沢山、重ね着する。[用例] キイコンで、ふくら雀みたよんしとる (のようにして居る)。

きいこめる 意気込む 物事に対し心を集中させる。[会話] キイコメル言うものも。きいいれると一緒や (です)、意味わなあ。

きいじるし【名詞】 精神に異常の有る人 (員)

きいしづめる【気静】 気持を落ち着かせる。精神を安定させる。[会話] 苛ら苛ら言わんと、キイシズメまあ言うてな。あんまり (あまり) 苛ら苛ら言うて、おとっしやまあ はた (側) のもんも (者も) 苛らついてくられ (来る)、ひとばか (少しばかり) 落ちつけ、キイシズメマア言うて。苛ら苛ら言うて やせつびい 蚤な (が) 入ったよおん (ように) 言うて。苛ら苛ら、苛ら苛ら言うて、まあ、いらぎ (あわて者) で

ぎいす。ぎいすちん【名詞】 うまおい 直翅目 キリギリス科の昆虫 体長35mm内外 淡緑色 成虫は

7～8月頃出現し日没頃から2～3時間の間スイッチョンと泣き泣き声から (方言俗語語源辞典) (志 (鶴方、立神)、鳥、伊、北、尾、南、熊) [会話] ギイスチョン 言うんかい (のですか)、あや (あれは) 夏の虫やんない (でしょう)。ぎいす 言うと、ちよん言うて鳴くのおな (のが) 有るやんかい (有ります)、ああおい (青い) のおな (のが) ギイスチョンや (です)、よおなあ (よく) 家の中いも (へも) 飛んで来る。

ぎいすちん【名詞】 やせた人

きいたい 来たい (南) [会話] 此処え来たい言うのを、キイタイなあ、此処い (に) きいたかったんけど (来たかったのだが) きやれんで (来れなくて) 言うてな。きとおても (来たくても) お前らな (が) おって、気使いで (心苦しくて) てな (というような) 事 言う人も有るしなあ。此処い (に) 来たかったんけど (来たかったが) 言うのを、キイタカッタンケド (来たかったが) 言うの (のです)。

きいたい 着たい [用例] うつくしきもん な (綺麗な着物が) キイタイ。

きいたかった 来たかった

きいたかったんけど 来たかったのですが [会話] 来たかったのだが 来たかったが 此処え来たい言うのを、きたいなあ (来たい)、キイタカッタンケド きやれんで (来れなくて) 言うて。

きいたふう【利風】【形容詞】 生意気な事 知ったかぶり よく理解して居ないのに、よく知って居る振りをする事。(尾) [会話] なんも (少しも) 知らんとおってな (居て)、誰ん (に) でも、キイタフウして、知ったかぶりしてすんのを (するのを) 言うんやろなあ (言うのでしょうか)。キイタフウする言ううななあ (のは)。

きいたろか 聞いてやろうか

きいつかう【気】 注意をする 気をつける 気苦労する [会話] 人な (が) おって (居て) キイツコテ、きづかい いななあ (心苦しい) 言うて、キイツカウ言ううな (のは) 人にキイツコテ (気を使って) まあ言うて、人な (が) おるもんで (居るので) こげんも (こんなにも) したいけど (したいが) ま、止めとけおもて (思って) キイツカウのなあ (です)。

きいつけ【来】 いつも来て居ること。

きいて【来】【名詞】 来る人。

きいて【聞】。きいていえ。きいてえ。きいてえな【女性語】 聞いて下さい。

きいていえ。きいてえ。きいててえ 聞いて行って下さい 聞いて下さい

きいてこお 聞いてこよう

きいとく 聞いておく

きいとし 聞いて居ましょう。

きいとしん 聞いて居ましょう (多)

きいとしん 聞いて居る

きいなさく 1) さっぱりした気性 2) さっぱりしている

きいなせく 心せわしい 物事を早く実行にしたいくて心が落ちつかない [会話] キイナセク あしこい (あすこに) 行かんならん (行かなければならん) おもて (思つて) はよ (早く) 飯喰うて 気な (が) せけて (急いで) かさかさ喰うて来た言うて。

きいななる (気) 苛々する。気分を害する。

きいなわり (気悪) 気分が悪い 快くない 面白くない [会話] キイナワリ、そいな (そんな) 事 言うて、キイナワリがる (悪るがる) 言うてなあ、気の毒 がる よおな事をなあ 現金 (あからさま) に言うて、そげん (そんなに) 言うたら (言ったら) あの人な (が) キイワリがる 言うて。現金に ぼんと言う人をなあ、そいな (そんな) 事 言うたら はざんてや (駄目だ) キイワリがる 言うて、よお (よく) 言うやんかいな (言います)。

きいなわりなる (気悪) 不愉快になる。気分を害する 気持が悪くなる [会話] キイナワリナル言うなだ (のは) 知らん事でも言われたり、言わん (言わぬ) 事をあげん (あんなに) 言うた 言うて、きいわりするのをな、なんでも (何でも) 嘘事でも、ほんと (本当) みたよん (のように) 言うてさいごなあ (その時)。

きいのもん (気物) 気持の持ち様

きいはる (気張) 緊張する 頑張る 元気を出す (阿、張、名) [会話] 頑張つて キイハッテ、力、落とさんと (さずに) しとれよお (しておりなさい) 言うて。キイハル言うて、頑張る事をなあ。仕事でも、いっしよけんめ (一生懸命) する事を、キイハッテせえ (しなさい) 言うて。元気出しとれ (ておれ) 言う事やわいな (です)。元気出さな (なければ) いかん 言う事やな (です)。しおれとらんと (ていなくて) 元気出して、わり (悪い) こた (事は) 忘れて、言うよおな意味やわい。偉い人のとこん (所に) おると、どんな (下手な) 事したらな (してしまわなければ) ええやか (よいのに)、なんか (何か) 気になる事 言う

たらな (言つてしまわなければ) ええか (よいのに)、おもて (思つて) キイハッテ かつとお (堅く) なつとんのなあ (なっているのです)。おおた まあ、キイハッテ くいしばつてたよお (ていった) 言うて、偉い人のとこい (所へ) 行くと、いっしよけんめ (一生懸命) きい (気) 使うのをなあ。

きいほど (気程) 気持程 少し [会話] 気は心やな あ (です)。ちよいとの (少しの) もんやけど (物だが)、キイ ホドケ (程) の、もんやけど 取つてくれるかい (くれますか) とか、そいな (そんな) 時使うなあ (使います)。僅かなもん (物) や (とか) 粗末なもんを、やる (あげる) 時なあ、こや (此れは) まあ、ほん (本当に) 気持ちだけやけど 言うてな。よけ (沢山) もてても (持っていっても) そげん (そんなに) 言うわな (言います)。その言葉やよつて (だから)。そして、なんか (何か) 食べるもん (物) もてくと (持っていくと)、ほん (本当に) 口汚しやけどなあ (だが) 言うて、よお (よく) 言うやんかい (言います)。よけ もててもなあ ほん 口汚しやけど、ま、此れ食べてくれるかい てな (と言う様な) 事言うてな。

きいまぎらかす。きいまぎらす 他の事をする事により、不快な気持を忘れるようにする。[会話] 悲し事やな あ (とか) 辛い事な (が) 有つても、此処に来て、おもしろい (面白い) こと言うて、キイ (気) マギラス、忘れる言う事やな (です)。

きいもたす (気持) 相手をそそのかして、その気にさせる。[会話] キイモタシテ 言うて、なんやかやほしらめる (欲しがらせる) 様な事 言うとな、キイモタス 言うやんかいな (言います)。キイモタシテ まあ、ほしらめて 言うて。

きいはあ (木葉) 【名詞】 木の葉 [会話] 木の葉 木の葉散る如く言うて、キイノハア な (が) よけ (沢山) 落ちて、きい (木) のもと (根元・近く) は、どもならんなあ掃除すんのん (するの)に えろおて (大変で) 言う。

きいやむ (気病) 1) 心配する 気苦労する 2) 病気でないのに自分で病気のように思い込む [会話] 1) キイヤム 神さん え どげんも (どんなにも) せんとおつて (せずにいて) 罰な (が) 当らせんかいな (ないか) とかな、参いらんとおつて 罰な 当つて、具合 な (調子が) わりんかいな あ (悪るいのだろう) か おもて (思つて) キイヤムのなあ (です)。神経質のもん (者) は 今日は神さんの ひい (日) や

(だ) のん (のに) なんも (なにも) お供えもせんと まあ、なつとも (なんとも) 無いんかいなあ (のだから) おもてなあ そいな (そんな) 時ん (に) キイヤムのなあ。そして、人ん (に) 言われた時でもなあ ちよつと (少し) 変な事言われると あの人な (が) あいな (あんなに) 言うたけど (言ったが) あやまあ (あれは) なとしたんかいなあ (どうしたのだろうか) おもて キイヤム そおゆう時も、使うしな (使います)。思い込むのをなあ きいよおで (病んで) こげん (こんなに) なって来やせんかいなあ (来ないか) ま、癌に ならせんかいなあ (ないのかなあ)、なんに (何に) ならせんかいなあ (ならないか) おもて きいやんで、一人で心痛めんの (るのを) キイヤム。

きいよい (黄) 【形容詞】 黄色である 黄色をしている
[会話] キイヨイ言うのは 黄色い。キイヨイのおや (のとか) あっかい (赤い) のおや言うて。黄疸や (で) ないんかい (ないのだろうか) えらい (大変) きいよ (黄色) なって来た、顔つきも なんやら (なにか) キイヨイ よおななあ (ようだ) 言うて。キイヨイ腹巻すると 石ケのあにんこ (若衆) みたよななあ (ようだ) 言うて。

きいよい (着) 着やすい 着るのに楽である (北) [会話] キイヨイ 言うて 着やすい

きいよい (来) 来やすい 来るのに容易だ

きいろい (黄色) 【形容詞】 黄色である (志、鳥、伊、員、四、一、多、上、阿、張、北、尾、南) [会話] キイロイ櫻桃 言うて。

きいわりする 気分を害する。不愉快になる。きいなわりなる 参照

きうつり (気移) 【名詞】 気の移り変わる事。あちらこちらに興味を持ち、いずれも長続きしない事 むらき

ぎえ 【名詞】 いとまきえい 胸鰭の一部が頭部前端に突き出し、互いに広く離れた頭鰭を形成する口は頭部腹面に位置し、両顎に歯がある背鰭は一基で、その後部に鋸歯状の一棘がある (志、度、南、熊)

きえうせる (消失) 【自下一】 消えて無くなる。

きえとる 消えて居る

きおう (きほう) (気負) 【自ワ五】 いきごむ。自分こそはと言った考えや態度をする [会話] いきごんでする事がい (ですか)、あや (彼) キオトラレ 言うな あ (言います)、ちよいと (少し) 激しい言うよおな 言葉やんかな (です)、キオウ言う事は、えらつそぶって (偉そうにして) すんねどお (する・して居

るのだ) 言うよおな意味や (です)。そやけど (それだが・しかし)、あのひた (人は) キオトルやんか (て居るではないか) 言うて、ちよいと (少し) えらつそぶつとる きどるとも違うんてや (のです)。生意気な (だ) 言うんかいなあ (言うのでしょうか)、人より先い (に) なんかしよおおか まんがちな (負け嫌いの) よおな 気性のにげ (人間) を、言うんかいなあ (言うのでしょうか)。

きおき (気置) 【名詞】 気を使う事 心遣い 遠慮 [会話] 気遣いな (だ) 言う事やわいな (です)。気遣いも なんも (少しも) せんと (せずに)、まあ 気な (が) おけんでええ (よい) 言う事を、えんりよ (遠慮) せんでも (しなくても) ええ 言う事な (です)。キオキな (が) 無い言う事をな キオキのお (無く) 来たよお (来ました) 言うて、えんりよ せんと (せずに) 来たよお 言う時も使うな (使います)。あの人な (が) おつて (居て) キオキで ほん (本当に) 言う時も有るわい (有ります)。堅苦し人な (が) おるとなあ (居ると) おおた あの人な (が) 居って、キオキやなあ (だ) 言う時な (が) あんなあ (有ります)、気にかかる きい (気) 使う事やわい (です)。気遣いする言う事やわいな (です)。

きおき (着置) 着物の内、よい物をいざというときのため、しまっておくこと。[会話] きもん (着物) も、キオキもせんと (せずに) 皆 ありだけ (有るだけ) 着て ばあばあでまあ ありたけさん (浪費家) で、買うとすぐん (すぐに) 着たて (着てしまつて) 言うてな。

きおち (気落) 【名詞】 落胆する。元気がなくなる。

きおとる 勢い込んで居る

きおも (気重) 【名詞】 進んで事がしたくない事、嫌な事、気が沈んで居る事。

きかいば (機械場) 【名詞】 1) 船の発動機器の備えてある所 (熊) 2) 機械の設置して有る所 [会話] 1) キカイバ 機関士のキカイバも有るしなあ (有ります)。なんやかや (いろいろ) 2) 工場のキカイバも有るしなあ。機械な (が) 置いて有るとこな (所です)。搗屋でも搗機械な (が) 置いてあるとか (所は) キカイバや (だ) 言うしなあ。

きかいぶね (機械船) 【名詞】 発動機の備置して有る船 漕ぎ船に対して [会話] ぼんぼんぶね ぼんぼん船 昔 漕ぎ舟でなあ 機械せらつたけど (しなかったが) 今しや (今は) 皆、発動機や (だ) なんや (なんだ) 言うて、機械 据えとんね (ているのです)。伝

馬い(に)でも、船外機して、まいこましてく(走って行く)。どお(櫓)漕ぐ言うこた(事は)ないねもんなあ(無いのです・有りません)。どお漕ぐ舟は漕ぎ舟 機械のかかつとな(設置して有るのは)キカイブネ。

きがえ(きがへ)(着替)【名詞】 衣服を着かえる事 又着かえるための衣服 [会話] きもん(着物)を、風呂入って、キガエ、せんだくもん(物)とキガエル。何処かい(に)出てく~~のん~~(のに)キガエル~~な~~(のは)こざっぱりしたのキガエて言うてな。

きがかり(気掛)【名詞】 気にかかる事 心配なこと 心配 [会話] キガカリ~~な~~なあ(だ)今日は雨~~な~~(が)降ってこ~~な~~(来なければ)ええ~~な~~(よいのに)おもて(思つて)、せんだくもん(洗濯物)干しとい~~て~~(ておいて)来たや(ら)キガカリ~~ん~~(に)な~~つて~~、降~~つて~~来やせんかい~~な~~なあ(来ないだろうか)取り込ま~~な~~(なければ)はざん~~な~~なあ(いけない)おもて、心~~ん~~(に)掛け~~とんのな~~あ(ているのです)。キガカリ~~ん~~(に)なる言うの~~な~~(です)。そして あの子~~な~~(が)まあ来る時分や~~のん~~(だのに)おっそ~~おて~~(遅くて)おおたまあ キガカリや~~わ~~(だ)。事故でもしやせんかい~~な~~(しないのか)おもて キガカリ~~ん~~(に)な~~つて~~ 来る迄。

きがきやない。きがきやねえ 気になって仕方がない。落ちつきがない。(志(布施田))

きがけ(来掛)【名詞】 来る途中 いきかけ 行く途中 [会話] 来る途中に見つけたとか言うやんかい(言います)。キガケに あれ(彼)な(が)来て、どおたらや(どうだ)とか言うて。何処かに行こ(行こう)思~~とんのん~~(思つて居るのに)いきかけ言うの、帰りがけの駄賃にも~~ろて~~(貰つて)来た言うて。

きがさくい(気) きさくな あっさりした きさく [会話] きさく。キガサクイ 言う事は、さっぱりとした にげ(人間)。あっさりとし~~とる~~(して居る)に~~げ~~を きさくな にげや(だ)。よ~~け~~(多く)ごちやごちや 嫌な事 言~~わんと~~(言わずに)、あっさりとして 気~~な~~(が)きいと~~る~~(きいて居る)人を きさく~~な~~に~~げ~~や(だ)あや(彼は)言うて。

きかして 1) 聞く 聞かせて下さい (三) 2) 聞かせて教えて有る [会話] 1) なんでも(なにでも)お前~~な~~(が)知~~つとること~~(ている事)キカシテくれ~~え~~(下さい)言うて、あの家から こげ~~ん~~(こんなに)言うて来たら、また、わし~~げ~~(私の家)も キカシテ~~え~~(下さい)言う時も有るしなあ。あの子~~な~~(の)と

こ~~から~~(所から)なん~~か~~(なにか)便り~~な~~(が)来たら お~~ら~~も(俺も)キカシテ~~え~~(下さい)言う時も有るし、聞かせて下さい言う事 キカシテ~~え~~言うて。

きかす(聞)【他サ五】 聞かせる 注意する

きかす(利)【他サ五】 利かせる 働かせる 効果を出させる

きかせん 聞かない 利かない 用に立たない

きがとがめる 心やましく思う

きがまい(きがまえ きがまへ)(気構)【名詞】 気構え ある事をしようとして、また予想して、心の準備をすること、心構え [会話] 心構えし~~とけよお~~(しておきなさい)言うの~~な~~あ(のです)。キガマエや~~わい~~(です)。あの子~~な~~(が)いつな~~ん~~どき、こ~~お~~(子)もおけるや~~ら~~(産むか)判~~らせん~~よ~~つて~~(ないから)そや、心構えして、なん~~も~~か~~も~~(すべて)し~~とけよお~~言う時も 有るしなあ、何処~~そこい~~(そこに)行~~かん~~なら~~ん~~ね(行かなければならないのだ)よ~~つて~~ それ迄 そや なん~~も~~か~~も~~ え~~ご~~つ~~として~~(十分に)して)調え~~とけよお~~(ておきなさい)言うて、気掛~~りん~~(に)な~~つて~~な~~あ~~、そ~~げん~~(そんなに)言う時も 有るし。

きかな 聞かなければ 聞きなさい (三重県全域) [会話] 言う事 キカナ はざ~~んどお~~(駄目だ)、と~~おや~~ん(お父さん)な(の)言う事 キカナ、お~~とし~~ど~~お~~(怖いぞ)言うなあ。キカナ 言うのは、聞きなさい言う。“な”で切~~つた~~る キカナはざ~~んどお~~言うて聞きなさい言う事や(です)。ものを教えて下さい言う時でも 先生に そ~~げ~~な(そんな)こ~~た~~(事は)キカナ はざ~~んどお~~言うて言うの~~な~~あ(です)。ものを聞かして貰~~う~~時も、キカナはざ~~んど~~言うて。

きがね(気兼)【名詞】 気にかける事 他人に対し気を使う事 遠慮 心遣い [会話] キガネ言うて、氣づかいで、あの ひ~~た~~あ(人は)偉い人や~~のん~~(なの)に)、お~~ら~~(私)こ~~い~~な(こんな)事 喋~~つて~~な~~あ~~言うて、キガネする事や(だ・です)。わしら まあ普通は、こんにやくの拍子木で 音~~無し~~(おとなしい)や~~けど~~(だが)、喋~~ら~~な(喋らなければ)しゃあ~~ない~~(仕方ない)もん~~な~~あ(のです)。

きがる(気軽)【形容詞】 物事を深刻に考えず、こだわ~~り~~なく事をする様、又 その人

きがるい(気軽)【形容詞】 簡単に引き受けてくれる事 さっぱりしている事 心安い [会話] 先生、今日はまあ、体~~な~~(の)調子~~な~~(が)わり~~いて~~(悪くて)、お~~お~~ いた~~る~~わ(行つてやる)言うて、キガルウ言う

て、返事おもとお（重く）しとらんと（していなくて）キガルウして呉れて言うて、喜ぶ事を そしてまあ なんやかや（いろいろ）してくれえ（して下さい）言うても そや（それは）したるわい（してあげます）おんな（俺が）そいな（そんな）こた（事は）言うて、キガルウすんのをなあ（するのを）。

きがろお あまり深く考えないで心安く 遠慮無しに
〔会話〕 無理を頼む時 むしんに来たよお（来ました）、気の毒なけど（だが）言うて、キガロオ言う時や（は）貸してくれえ（下さい）

きかんき（不聞気）【名詞】 きかぬ気 誰の言う事にも従わない きかんき 聞かん気 利かん気 きかぬきの転 人に負けたり、言いなりになるのを 嫌う性質又、そのような性質であるさま（鳥、桑市、上、阿、張、名）〔会話〕 言うたてて（言った所で）人の言うこたあ（事は）聞かねなし（聞くのでない）、負け嫌いな人の事やわ（です）。キカンキで 人の言うこた聞かせん（聞かない）。なっと（何と）言うても（言っても）人の言うこた 聞かんと（聞かずに）わが（自分の）意向ばっか（のみ・だけ）通すにげ（人間）、あや（彼は）キカンキで言うて。

きかんこ【名詞】 頑固な子供 目上の人の言うことを聞かない者（志）

きかんこ 聞きなさい

きがんさい（祈願祭）【名詞】 漁の開始前 又は新年に大漁を祈願し、同時に海上の安全を願って漁師、海女の組合が神社に参詣すること 〔会話〕 キガンサイ言うて、なんやかや（何、彼）を、願う事な（です）。網掛けのキガンサイや（とか）、海女さんのキガンサイや（だ）言うてするのなあ。まめで（健康で）働くよん（ように）言うたり、潮な（が）わりと（悪るいと）潮な（が）直るよん 言うて、大般若経 繰って、石ほりこんでする あれも祈願なあ（です）。

きかんし（きくあんし）（機関士）【名詞】 船の機械を取り扱う人 又、運転する人 〔会話〕 キカンシ 機械をなぶる人 キカンシ。言う事 聞かんもな（者は）ゆうことキカンシ。ゆうことキカンシよ言うてな、言う事聞かへんと（ないと）子供ら叱る時ん（に）

きかんし【名詞】 言うことを聞かない人、言う事キカンシ、きかんし 参照

きかんぱ（機械）【名詞】 船の機関の設置して有る場所 機械場 〔会話〕 機械場 言うのを、キカンバ 言う人らもあんなあ（有ります）。キカンバえ入いて、そや（それ）油させえ（さしなさい）言うて。

きかんふり 聞かない様子、聞こえない様子

ききあるく（聞歩）【動詞】 1）あちらこちらと訪ね回る ききまわる 2）方々で内密の事を捜し回る（志（布施田））〔会話〕 あっちゃい（あちらに）行き、こっちゃい（こちらに）行きして、なんやかや（いろいろ）あれん（あれに）問い、これん（これに）問いなあ、なんもかも（いろいろ）問いん（に）歩くのを。今日はまあ じょおし（漁師）な（が）何処そこい（に）いたや（行ったら）大漁やかなあ（だろうか）言うてな、聞きん（に）いき、こっちゃ い いたや熊野の方い（に）いた（行つた）言うな（のは）ほんと（本当）かいなあ（ですか）言うて。あっちゃい行き、こっちゃい行き さいら（秋刀魚）舟な（が）行くとなあ そげんして（そんなにして）キキアルキョおったわい（て居ました）。そして 今日はまあ 熊野い（に）いたかして（行つたとみえて）あっちゃ、ほお（帆）まいて（あげて）行きよおつたどお（行つたぞ、行つて居たぞ）、こちらん（に）さいら な（が）おらせんねなあ言うて（居ないのだ言つて）、そすと（すると）あっちゃい 聞きん（に）行き、こっちゃい 聞きん（に）、熊野い（へ）いたんでわれ（行つたそおだ）こつちゃん さいら な（が）おらんで（居なくて）言うて、キキアルイテなあしよおつた（して居ました）。

ききあわせ（聞合）【名詞】 1）下仲人が両方の意を聞くこと（松）2）問い尋ねること 問い合わせ

ききおさめ（ききおさめ）（聞納）【名詞】 それが聞くことの最後で、もう聞けなくなる事

ききおぼえ（聞覚）【名詞】 以前に聞いた記憶が有る事 聞いたように感ずる事 〔会話〕 じっきん（すぐに）忘れたて（てしまつて）キキオボエな（が）のおて（無くて）言うてな。キキオボエのええ（よい）にげ（人間は）なん（なに）言うても ちよいと（少し）言うても（言つても）覚えとる（ている）けどな（が）、キキオボエのわり（悪い）にげ まあ じっきん 忘れたてなあ 言う。キキオボエな（が）ええにげはなあ、何時迄も覚えとるけどな（ているが）その時ん（に）言うた事、今しん（今に）なると忘れたんね（てしまうのです）皆、キキオボエな（が）わりいて（悪くて）物忘れな（が）ええ 言うんな（言うのです）。

ききがく（聞学）【名詞】 聞き学 耳学問 みみがくもん 自分で学んだものでなく 他人の話だけから得た知識。聞き齧りの知識（志（布施田））〔会話〕 キ

キガク言うな (のは)、なんやかや (何彼) おせても
ろて (教えてもらって) こんだ (今度は) 他のにげ
(人間) ん (に) 聞いた事を話すの (のです)。キキ
ガクで 受け売りして言うて、わがと (自分) 知らん
とおって (知らないのに、知らずに居て) 聞いたの
(のを) そのまま 流す (のです)、それを 受け
売りして言うて、キキガクで なんも (何にも) 知ら
んとおって 言う。

ききぐるし (聞苦) 【形容詞】 聞いて不愉快で聞くの
に耐えられない

ききさがす 1) あちらこちらと聞き回る 2) 執念深
く聞く

ききさし (聞止) 【他サ五】 途中で聞いてやめる さ
しは途中でやめる意 [会話] はんぶ (半分) 聞いて、
はんぶ 聞かんと (聞かずに) おんのかい (居るので
すか)。キキサシなあ。キキサシ言うななあ (のは)
えごつと (完全に) 聞かんと おんねてや (居るので
す) 言う時ん (に)、言うんやろなあ (言うのでしょ
う) キキサシ言うてなあ。

ききさらして (聞) 聞いての卑語

ききさらす (聞) 聞くの卑語

ききさらせ (聞) 聞けの卑語

ききずて (聞捨) 【名詞】 聞いた事を心にとめない事
人の言葉など無視する事 聞き流し [会話] キキズ
テん (に) せえまあ (しなさい)。 そいな (そんな)
わり (悪い) こた (事は) 何時迄覚えとらんと (てい
なくて) 言うてな、ええ (よい) 事なら、いつ迄覚え
とや (ておれば) ええけど (よいが)、そいな 嫌な
こた はよ (早く) 忘れるよん (ように) して言うて
な、聞いて聞かんふりして、まあ忘れたらんかれ (て
やりなさい) 言うてな。

ききずてならん 聞いた以上放置する訳にはいかぬ (志
(布施田))

ききそこない (ききそこなひ) ききぞこない (聞損)
【名詞】 聞き誤り 聞き違い

ききそこなう (ききそこなふ) (聞損) 【他ワ五】 聞き聞
違える

ききそこねた。ききぞこねた (聞損) 聞き損じた 聞き
漏らした 聞き間違えた

ききそここのう 聞き間違える 聞き損じる

ききそここのた 聞き損じた 聞き間違えた ききそびれ
た参照

ききそびれた 聞けなかった 聞き損じた [会話] キ
キソビレタ言う。聞き漏らす事を、キキソビレタ言う

ねやろな (言うのでしょうか)。聞き損じたとかな、キ
キソコノタ 言うのも言うし (言います)。 そして
(そうして) 他の事ん (に) とってく (間違って行
く) のも、キキソコノタ 言わせんかい (言いません
か)。

ききそり 聞き取り

ききたがりや 【名詞】 何でも聞きたい人 (阿、張)

ききたくる さかんに聞く 聞き回る

ききたない。ききたねえ 聞きたくない [用例] 人の
わりこた (悪い事は) キキタネエ。

ききちがえ (ききちがへ) (聞達) 【名詞】 話の内容を聞
違えて聞く事 聞き誤り [会話] キキチガエ、今日
は来る言うたけど (が)、来やせんない (来ません)。
おんな (俺の) キキチガエやったんかいな (だったの
か) 言うたりなあ。

ききつける (聞付) 【他カ下一】 1) 聞きなれて居る
2) 聞いて知る

ききつたえ (聞伝) 【名詞】 聞いて伝える事 文書など
に残さず聞いて伝わっている事 伝える事 言い伝え

ききづらい (聞辛) 【形容詞】 1) 音声のはっきりしな
くで聞き取りにくい 2) 聞くに耐えない 聞き苦し
い 3) 問いたくない [会話] 3) キキヅライわい
(です)。 そいな (そんな) 事言うて、嫌な事聞くの
ん (のに)、おた そいなこと キキヅライのん (の
に) よお 聞かんわれなあ (聞きません)。 お前げや
(お前の家は) こおやないかい (ないのでか) 言う
て問うのを、おた、そいな (そんな) 事 おら (私
は) キキヅロオテ (らくて)、よお 問わんわれ (問
えません) 言うて、言いのくい (にくい) 事をなあ
問う時ん (に)。 2) あいな (あんな) 事言うて、キキ
ヅライなあ 人のわり (悪るい) 事 ばっか (ばかり)
言うとて (言っていて)、その場における人な (が)、
あえん (あんなに) 人のわりことばっか 言うて キ
キヅライわなあ (です) 言うて言う場合も有るなあ
(有ります)。相手に聞くのに よお 聞かん (聞か
ない) 時と、悪口ばっか (ばかり) 言うとるもんで
(言っているので) 聞きたない (聞きたくない)。言
うたよおな事ばっか 言うて 人の悪口言うもんで
つちも打たれやせんもんで (相槌も打てないし) キキ
ヅロオテナア (らくて)、あいなな (あんなのは) 聞
きたないなあ言うてな。

ききて (聞手) 【名詞】 人の話などを聞く立場の人 [会
話] キキテ、なんでも ぼやいて、あんな (彼が)
どげな (どんなのだ) こんな (これが) どおで (どう

で)言うて、ぼやくのをな 聞いとる (ている) 人のことを キキテ。

ききどおい (効達) 1) 薬剤などの効果が表れない

2) 調味が薄い (志 (布施田))

ききどおい (聞達) 耳に入れるのが遅い

ききどこ (聞所) 【名詞】 聞く値のある所 聞かぬば大変な事になる所 ききどころ

ききどこ (利所) 【名詞】 大切な所 急所 [会話] キキドコ 言うのはなあ、急所どこ (所) の事を言うんやんか (言うのです)。大事のどこ (所) を言うことな (です)。大切などこ 言うことやな (です)。もの言うとても 一番 効きめのところ を言うのな。大切なところ やよって (だから) まあ、聞き漏らさんよん (ように) しとかな (しておかなければ) いかんよな (いけないような) ばやい (場合) の時を言うんな (言うのです)。

ききとり 【名詞】 感じ方 [会話] おだてる言うのと、そやす言うのと、ちよいと (少し) キキトリな (が) 違うけど、意味は一緒や (です)。

ききどりなわり 聞くのが嫌だ 噂が悪い 聞こえが悪い きこえ参照 (志 (布施田))

ききとれてく (聞惚) 聞き惚れて行く 一心に聞いてうっとりして行く [会話] 声な (が) ええ (よい) 人 おおたまあ、あの人な (の) 声な (が) キキトレテク 様な声やなあ (だ) 言う人な (が) 有るし、あやまあ (彼は) 口跡 (声) な (が) わりいて (悪くて) ドラム罐 え さざえがめ (栄螺の殻) あける様な声やなあ 言うて。

ききなつたえて 尋ね尋ねて

ききのくい 1) 聞くのが嫌だ 問うのが嫌だ 2) 聞くにくい 聞くことが出来ない [会話] ¹⁾ 言いのくい (にくい) 事を問う時に そいな (そんな) ことおら (俺は) キキノクイ よお聞かんわれ (聞かせせん) キキノクウテ言うて。

ききのつたえ 【名詞】 聞き伝えに同じ 習慣などが文書として残らず言葉として伝えられること 言い伝え

ききばん (聞番) 【名詞】 話を聞く人 人の話を聞いて居る人

ききみみ (聞耳) 【名詞】 盗み聞き、他人の話を密かに聞き窺う事

ききめ (利目) 【名詞】 効果 効力 他に働きかける事によって起こる効果 大切な所 [会話] キキメい (に) 釘打とけ (ておけ) 言うて、キキメ、キキメえ まち (目印) 打とけ、杭打とけとか、キキメ

を、ばらけてかんよん (ばらばらにならないように) 縛とけ とかなあ そやよって (それだから) 大事のところ (所) を、気をつけてしとけ 言う事やろな (でしょう)。大切な所を言う事やろな。これも急所どこや (所です)。

ききもて 聞きながら もては動詞について動作をしなからの意を表す (志 (布施田)) [会話] 聞きながら言うのを、キキモテ言うののお (です)。話、キキモテ、仕事してとか、歌をキキモテ 仕事しいとか、言うのを キキモテ。そして どこか 知らん とこえ (所に) 行くのを、あれに聞き これに聞きして 行くのを キキモテ いた (行った) 言うてな。所、所で聞いて、医者い (に) 行くねけど (のだが) どお行くとええんかいなあ (よいのですか) 言うて、わしげ (私の家) で聞くと、またこんだ (今度は) 次の人ん (に) どこ通ってくと (て行くと) ええんかいなあ 言うて、あっちゃ (あちら) で聞き、こっちゃ (こちら) で聞きして行くのをな、キキモテ行く言うのな (です)。

ききやく (聞役) 【名詞】 人の話を聞いている人 ききばん

ききよい (聞善) 【形容詞】 1) 聞いて気持ちがいい 人聞がよい 2) 音声がはっきりして居て聞き取りやすい 3) 尋ねやすい、問いやすい [会話] ³⁾ キキヨイ 言うな (のは) 言いやすい人な (が) 有って、なん (何) 言うても、機嫌よお (よく) して呉れるもんで (ので) あの人には、キキヨいなあ言うてな。尋ねた時に機嫌よお おせて (教えて) 呉れるので キキヨイ。 ¹⁾ 話し しとでも (していても) じょおんな (上手) もんで (ので) あの前生話、キキヨいなあとか、そいな (そんな) 時も使うしな (使います)。

ききんこや 聞きに行きましょう

きく (利、聞) 【自カ五】 感覚の鋭い事 感覚を働かす事 その能力、働きが十分に発揮される 鼻がキク 味をキク 目がキク [会話] 聞く言うのは、話、こおやって (して) 聞いとんの (て居るのを)、鼻な (が) キク、めえな (目が) キク、耳な (が) キク、耳な (が) よお (よく) きいて。耳や (は) 聾やけど (だが)、さと (砂糖) が よお きいとる (て居る)、鼻はキク、よお キク、へえ (屁) のかざ、一番にキク。

きぐ (着具) 【名詞】 衣類 [会話] 物置言うのな (のが) 一部屋あつて、今しや (今は) 布団や キグ (着具) を入れるけど、昔や (昔は) 麦や豆を、そいな

(そんな) 穀物を入れおったの (入れて居たのです)。
きくいし (菊石) 【名詞】 あばた面 [会話] キクイシ
言うな (のは)、いもくさ (あばた面)、あばたな
(が) 今し (今) でも 有るやんない (有るでしょ
う)。キクイシ、穴な (が) よっけ (沢山) あいとる
(あいている) 石、あれを キクイシ。そやよって
(だから) にげ (人間) の顔も、いもくさん (に) な
ったら、あれん (に) よお (よく) にとるわい (似て
居ます)、ぶつぶつな (が) へっこんで (ひっこん
で) しとんの (して居るのを) そやもんで (だから)
キクイシや (だ) 言うの (のです) あばたを。

きくざ (菊座)。きくざら (**菊皿**) **【名詞】** 肛門 尻の穴
菊の花の様に、皺が見える事から (方言俗語語源辞
典) (志 (布施田、国府)) [会話] 肛門 尻の事 キ
クザラ、キクザラやわい (です)。尻のキクザラ 言
うて、十六すじ (條・筋) の菊水言うやんかい (言っ
ております)。キクザラのふち (縁・まわり) ん
(に) 髭な (が) はえんのも (はえるのも) あんね
(有るのです)。

きくさった 来たの卑語 (松) [会話] キクサッタ、此
処い (へ) 来た事を 言うんけどなあ (言うのです
が)。此処い (に) うしゃがって (来て) 言うてなあ、
すかん (嫌な) 人やもんで (なので)、此処い 来る
と、キクサッタ 言う人も有るし うしゃがって 言う。
キクサッタとか うしゃがって とかなあ、汚い言葉で
言うとな。

きくさって 来たの卑語 [会話] 来やがって (来た)
とか、キクサッテ (来た) とか うしゃがって とかな
あ、汚い言葉で言う

きくされ (来腐) 来いを卑しめて言う語 [会話] キ
クサレ 言う、と、此処い (え) 来い言う事をなあ 言
うと、うしゃがれ (来い) 言う事と キクサレ言うの
と一緒やわい (です)。

きぐすり (生薬) 【名詞】 1) 完全に製品になって居な
い薬、成分は含んで居るが精製されていない薬 2)
薬草などの採集したままの物

きくたびれ。きくたぶれ (気草臥) 【名詞】 心の疲れ
気疲れ [会話] キクタビレ きいつこて (気を使っ
て)、あの人ら どげなやかなあ (どんなだろう) か
おら (自分達) こげって (こんなにして) 喋って、あ
の人らな (人達は) ごおなわくやろなあ (腹が立つだ
ろう) とか 言うて、きい (気) 使うのなあ (ので
す)、キクタブレ てや (とわ)、疲れたなあ キイク
タブレやなあ (だ) 言うて。

きくね (聞、利) 利くのだ、聞くのだ

きくねなし 聞かない 聞き入れない [用例] あや
(彼は) 人の言う事 キクネナシ。

きくばり (気配) 【名詞】 配慮 人にかけて注意する事

きぐみ (木組) 【名詞】 木造建築で材木を一度、組み合
わせて見る事

きぐらい (気位) 【名詞】 気持ちの持ち方。特に自分を
偉いと思って居る時に、他の人から、さげすまれる時
に使われる。

きこえ (聞) 【名詞】 世間に対する体裁 世間の思惑
世間体 外聞 うわさ。動詞きこえる (聞) の連用形
の名詞化 [会話] キコエな わり (悪るい) のにおに
(のに) あいな (あんな) 事言うてな、ききどりな
(聞いた感じが) わり (悪るい) とか、そいな (そん
な) 事言うと、ききどりな (が) わりわれ (悪いので
す) 言うて。

きごえ (生肥) 【名詞】 便所から汲み取ったばかりの大
小便、肥料にする [会話] キゴエ 言うな (のは)
こやし (肥料) でなあ、言う、と、大便をそのままやる
言うのを キゴエ言うてな。なんか (なにか) それい
(それに) せせなげ (下水) やたら (とか)、水、ま
あして (加えて) すんのは (するのは) 言わせんねけ
ど (言わないのですが)、なんも (なにも) まあさん
と (加えずに) そんなりをなあ (そのままを) すんの
を (するのは) キゴエ 言うて。たあるごえ でも う
めんと (薄めずに) そんなりなあ 掛けると、キゴエ
そのまま掛けて、枯らしたんど (てやるぞ) 言うて、
薄めずに そのまますんのを キゴエ言うのな (で
す)。

きこえがし (聞) 【形容詞】 当人が傍に居るのに気付
かないふりをして、あてこすって皮肉、悪口を言う事

きこえやん 1) 聞く事が出来ない 2) 承知出来ない
(志) (立神))

きこえよがし (聞) 【形容詞】 きこえがしに同じ 動詞
きこえる (聞) の命令形に接尾語「がし」のついたも
の [会話] おおた キコエヨガシん (に) 大きな声
で言うて、あの人な (が) いつも わしらん (私達
に) キコエヨガシん 大きな声で、人のいなん (いら
ぬ) 事 言うたんよお (言ったのだ) 言うて、わざと
(故意に) 聞える よおん (ように)

きこえる (聞) 【自ア下一】 1) 世間に広く伝わる
評判される 2) 耳に入る [会話] 2) キコエルよお
に言うな (のは)、そいな (そんな) ちっさい (小
さい) 声で言うとらんと (言っていないくて) おっきい

(大きい) 声で、キコエルよん (ように) 言えまあ (言いなさい) 言う時も有るし、₁₎ あの人な (が) あいな (あんな) 事したたね (していたのだ) 言うて、キコエテキタンヨオ (来ました) 言う、評判な (が) 耳に入いつて 評判な (が) 立つ事な (です)。こいな (こんな) 噂な (が) キコエル 言う時な (が) あんなあ (有ります)。

きこえん 1) 承知できない 2) 耳に入らない

きこく (枳殼) 【名詞】 からたち ミカン科の落葉低木、幹は高さ2〜3mにもなり、枝には稜角が有り、やや扁平で長さ3〜6cmの刺が互生する。葉は互生し、三小葉からなる複葉で、各小葉は卵形で縁に細かい鋸歯が有り、葉柄には狭い翼が有る。晩春、葉に先立って経5cm程の白色の5弁花が葉腋に單生する。果実は経約5cmの球形で黄熟して芳香が有るが食べられない。中国原産で古くから生垣に用いられる。(志 (鶴方、神明、立神)、鳥、伊、桑市、上、阿、張、名、度) [会話] 針な (が) 有る、今し (今) あいな (あんな) 木 植えとる (て居る) うちや (家は) ないなあ (ないです)。あいな 木、昔や (は) よお (よく) 植えとて (ていて)、あれを、わしら はりこ (張り子・手毬) ん (に) はよおったの (張って居たのです)、よお あがって、キコクのもの も (実) や (だ) 言うて、あれ取って、はりこん (に) しよお たてや (して居たのです)。

きごころ (気心) 【名詞】 性質や考え方 心持ち 気前 [会話] キゴコロな (が) 判って、キゴコロな (が) 判ととるし (ている)、心な (が) よおてなあ (よくて) 気安すうて (くて) 言うて、キゴコロな (が) 判ととる 言うてな、心な (が) 判ととる 言う事な (が) 心安い言う事やわいな (です)。キゴコロな (が) 判ととる よつてん (ているから) 言うてな。

きごづち 【名詞】 土の色が、少し赤味を帯びた畑の土 (志 (布施田)) [会話] キゴヅチ言うな (のは)、ちよいと (少し) あつかい (赤い) 様な おで (ので) きじ (粗さ) もええしなあ (よいし) なんもかも (すべて) キゴヅチのもん (物) は、美味いし美しく (のです)。

きこなし 【名詞】 着物を着た様子 着物の着方 [会話] きもん (着物) も上手に着ると、キコナシな (が) ええなあ (よい) 言うて

きこなす (着熟) 【他サ五】 着衣を完全に自分の物として着る。上手に着る。こなすは思うままに扱ひ馴らす事。

きこむ (着込) 【他マ下一】。きこんどる 何枚も重ねて着物を着ている。

きざ (気障) 【名詞】 【形容詞】 1) きざわりの略 服装、態度やものの言い方が気取って居て嫌味な事、又、そのさま 気掛かりな事、又、そのものや さま 2) 相手に嫌な感じを与える事、又、そのさま [会話] ₁₎ きどりやを 言うんかい (言うのですか) キザ言うて。

きざい (木材) 【名詞】 木材、建築用の木材 [会話] キザイ 言うな (のは) 材木、家、建てんのん (てるのに) キザイ、キザイを ととのえて言うな (言います)。建築する前ん (に) キザイから先い (に) ととのえとかな (ておかなければ) 言うてな。

きさいたた 裂いてしまった 破ってしまった [会話] なんやかや (色々) キサイタたてやら (とか) 言うて、二つん (に) わからかすのをなあ (分けるのを) キサイタ 言うてな。

きさがす いろいろと着る [会話] 着るもん (物) あれ着い、これ着いして、キサガス言うけどな (言います)。きもん (着物) あれ着い、これ着いして キサガシテ、みなまあ 掛けてぶらぶらと まあ言うて、よお (よく) 下がらかしとる (ぶらさげている) 家な (が) 有るやんかいなあ (有ります) あれも着い、これも着いして ひそめんと (片付けずに) してまあ、あやあれ あれも着い、これも着いして、みな ぶらさげとられ (ぶらさげている) 古手屋 (古着屋) い (に) いたよおん (行ったように) 言うて。

きさく 【形容詞】 気のさっぱりした きがさくい参照 (志 (布施田)、張) [会話] キサク言うな (のは) さっぱりとしとる (して居る)、毒気 (嫌味) の無いあつさりした人を、言うけど、キサクな 人やなあ (だ) あや (彼は) 言うて、あんまり (あまり) くだど言わせん (言わない) キサクな ええ (善い) 人 やなあ (だ)。

きさく (刮、削) 【他カ下一】 破る 破れる 裂く (志 (布施田、御座、志島)) [会話] 紙、キサク、きれ (布) をキサク きしやる、きさける言うんなあ (言います)。引っかけて きさける 言うて、きしやいたた (てしまった) 言う人も おるなあ (居ます)。あや (あれは) ちよいと (少し) ものな (が) あぜつとんのかい なあ (舌たらずでしょうか)、キサク言うの (のを) きしやいたた 言う人な (が) おるてや (居ます)、引っ掛けて きさいたたれ (てしまった) 言うて。キサク言うんけど (言うのですが)、

きしゃいたた (てしまった) 言う人な (が) あんねて
や (有るのです)。

きさくい (気) 【形容詞】物事にこだわらない 淡泊だ

きさくもん 【名詞】物事にこだわらない性格の人。淡泊
な性格の人

きさけとる 破れて居る (志 (布施田))

きさける 破れる [会話] きもん (着物) キサケル。
てえ (手) でなあ、破ることを きさく、きさいたる。
知らんとおったや (居たら) きさけとたんよお (てい
ました) 言うて、何処かで 引っ掛けて 破れとると
(ていとう)。へえ (屁) ひつても びいびい言うとう、
かいけ (甲斐絹) きさく様な音やなあ (だ) 言う。

きざし (兆) 【名詞】 徴候 前兆 キサス (気札) 義
(大言海) [会話] キザシてきた もよおして来た、
お産する時でも、ちよいと (少し) キザシて来たよお
なあ (ようだ)。もよおして来た事言うんかいなあ
(言うのでしょうか)。天気とか台風が来る時も 使
うみたいなあ (使うようです)。

きざし 【名詞】 気前 性格 (志 (布施田))

きざしなええ 気前がよい 気がよい

きざしなきた 前兆が来た 前兆が表れた [会話] お
産する前でも ちよいと (少し) キザシナキタ。

きざしなよおて 気前がよくて 気がよくて

きざす (兆) 【他サ五】 病気などある状態を起こし始め
る、又ある考え、気持ちなどを持ち始める、事が起こ
ろうとして居る。[会話] きざして来た言うなあ
キザス言うのは、こお (子) な (が) 出来た時でも
ちよいと (少し) きざして来た言うて言うし、お産す
る前でも、ちよいと きざしな (が) 来た。

きざな 気に障る、生意気な

きさま (貴様) 【代名詞】 お前、対稱 もとは尊稱の代
名詞、後、口語として一般化し、江戸時代以後は同等、
またはそれ以下の者の用いる。天保年間 (1830~44)
になると、もっぱら目下の者に用いられる様になり、
ののしり言葉へと下落し、近世末には完全に上流社会
では用いられなくなり、ぞんざいな言葉、もしくは目
下に対する卑稱の代名詞として現在に至っている (志、
松、桑市、阿、名、南)

きざみ (刻) 【名詞】 葉煙草を細かく刻んだもの きざ
みたばこ 煙管で吸う [会話] キザミ 吸う人らは
今しや (今は) ないわれ (ありません) 言うて、刻み
煙草 言わんと (言わずに) キザミや (だ) 言うて。
萩や あやめや 言うて、萩はええんけど (よいのだ
が) あやめはいっち (一番) 安いんやんかい (安いの

です)。

きざみいれ 【名詞】 刻み煙草を入れる物 (熊) [会話]
煙草入れ 煙草のキザミイレ 煙草入れのかます
(吠) だ 刻み煙草言うてなあ 四角の紙ん (に) い
つとんのを (入っているのを) その、かます (吠) い
(に) 入れよおってなあ (入れて居ました)。

きざむ (刻) 【他マ五】 削る 小さく切る (南) [会話]
切干し 切るとか、せんぎり (千切り) キザムとか、
なあ (菜) も、おつけのみい (実) 入れんのん (るの
に) キザンドケよお (でおきなさい) 言うしな。こま
こお (小さく) 切んのを (切るのを) キザム 言うな
(言います)。おつきい (大きく) 普通に切んのは
(切るのは) 切つとけ (ておけ) 言うねな (言うので
す)、そして、キザム言うな (のは) こまかあく (小
さく) 切るのを キザム。

きざら 【名詞】 粗い結晶をした赤砂糖 ざらめ参照 (志
(布施田)、鈴市、上、阿、張、名、南、熊) [会話]
さとの (砂糖の) あらきたい (粗い) あかざと (赤砂
糖) の事、キザラ言うんやんかい (言うのです)。あ
つかい (赤い) ぼつぼつしとんのおな (して居るの
が) キザラ言うの (のです)。あつかい のおは (の
は) げじろ (下白) 言うんなし (言いますし)、キザ
ラ 言うのは ちよいと (少し) つぶつぶん (に) な
ってしとんのを (して居るのを) キザラ。

きさらぎ 【名詞】 菓子 小さな棒状の菓子 (伊) [会話]
キサラギ 言うのは美味しい、ほっそい (細い) のを、
あられみたよん (のように) してあんのを (有るの
を) キサラギや (だ) 言うて。伊勢のてえしやば (停
車場、駅) のなあ 横に売つとんねけどなあ (売っ
ているのだが)、伊勢のステイショ (駅) のねき (側)
のとこん (所に) 売つとんね (売って居るのです)。

きざらし (着晒) 【名詞】 着漂し、長く着て悪くなっ
たもの [会話] きもん (着物) を、洗いさらしたる
と (てやると)、キザラシてまあ、ほったるよおな
(捨ててしまうような) のおや (のだ) 言うて、洗い
さらし言うの、キザラシ言うの (のです)、着て洗い
さらしたんのを (てやるのを)。一つばっか (ばかり)
着て着て、着いさらしたんの (てやるのです)。
一つのをばっか 着てな (は) 洗い、着てな 洗いし
て 着いさらしたんなあ (たのだ) 言うて、そすと
しゃれてくやんない (されて行くでしょう) 色もみな
褪せて、そいな (そんな) のおを (のを) キザラシ
言うのなあ (です)。

きさらす (来) 来るの卑語 [会話] キサラス ほん

(本当に) あんな (彼が) キサラシテ 言うて、くん
のをなあ (来るのを) 来たのを うしゃがって (来
た) 言う時も有るし、キサラス言う時も有るし。

きさらす (着) 着つぶす

きざわし (きざはし) (木酢) 【名詞】 木で甘く熟す柿
甘柿 きざらし (木晒) こねり (木練) 渋柿に対し、
樹に置きながらサハす (酢) 意 (大言海) (志 (布施
田)) [会話] 柿のキザワシ、きい (木) ん (に) な
つとる (て居る) うちん (間に) なかな (が) 小豆飯
炊いとる (て居る) 言うて、赤色ん (に) なつとんの
おな (なつて居るのが) キザワシ。

きざわり (きざはり) (気障) 【形容詞】 1) 相手の態度
などが不快に感ずる事 気になる事 2) 心配事

きさんじ (気敬) 【名詞】 気晴らし (松、津)

きし (岸) 【名詞】 1) 土地の切り立った所 がけ (志
(船越、安乗)) 2) きしのはな 岸の端 (志) [会
話] 1) 海のキシ、川岸 キシのはな (岸の端)、キシ
まで来たれ (来た・来ました) 言うけど。キシノハナ
迄 いたら (行ったら) あぶないど (ぞ) 言うて。へ
き病院 (隔離病院) の、キシノハナ見ると、おとし
(怖い) よおななあ (だ) 言うて、あの崖つちよ (崖
の先端) みたよな (のよな) とこ (所) キシノハナ
や (だ) 言うて。

きじ (きぢ) (生地) 【名詞】 布地。もともとの性質 状
態 素質 [会話] 木綿のキジや (だ) とか (とか)、
絹のキジやとか (だとか)、人間の性質 言うんかい
(言うのですか) あや (彼は) キジな (が) わり (悪
るい) 言うて。

きじ 【名詞】 テンジクザメ科の鮫 オオセ 体の前方
は縦扁する。鼻ひげの付属板は、単一形 頭部 側面
には多くの皮 質突起があり、その多くは単一形で有
るが、いくつかは2分する。眼の上には乳頭状の突起
が無い。体は褐色で多数の暗色横帯と、縁の白い斑紋
が有る。全長1m、卵胎性、浅海の底層に住む。

ぎし 【名詞】 むくどり 鳥の名前 全長27cm内外で
大きさはツグミ位 [会話] ギシ ギシのかあ (皮)
剥いだよおななあ (だ) 言うの (のです)、禿げとん
ねやかな (て居るのでしょうか) あっこお (赤く) し
とると (して居る) さいご (その時)、あや (あれ・
彼) ギシのかあ (皮) 剥いだよおななあ 言うやんかい
(言います、言うで有りませんか) 知らんねけど
(知らないのだが) ギシは。知らんけどだ (けれど
も) ゆいぐさ (言種・よく言う言葉) に、あっこお
むけとると (むけて居ると)、ギシの皮むいたよおな

言うねてや (言うのです)。

きじいも 【名詞】 館芋 薩摩芋の一種

きしえろ 【名詞】 煙管 (鳥)

きじつ (期日) 【名詞】 期限 約束の日限

ぎじつ 【名詞】 技術 (員) [会話] ギジツな (が) え
えよってん (よいから) 言うてな、歯医者でも あの
人 ギジツな (が) ええ とかな、珠入れすんのでも
(するのでも) 上手なと (だと)、あや (彼は) ギジ
ツな (が) ええ もんで (ので) ええ珠 出す言うて
な。そいなのおを (そんなのを) ギジツ、なんでも職
人な (が) てえ (手) な (が) ええと あや (彼は)
ギジツな (が) ええ よってん (から) 言うてな。

ぎしと 【形容詞】 隙間なく詰まっている (阿、名)
[会話] ギシット 詰まった 言うて。ギシット 詰
めとけ (ておけ) ぎっしり 詰めとけよ (ておきな
さい) 言うてな。なんやかや (いろいろ) へし込む
(押し込む) のおをなあ (のを) ぎっしり詰めとけよ
お (ておけ) 言うて。

ぎしづみ、**ぎしづめ** 【名詞】 【形容詞】 隙間なく詰ま
て居る事 又、その状態 ギチヅメ [会話] ギシヅ
メ 言うな (のは) 詰めて、詰めて、ぎちづめやなあ
(だ) 言うなあ (言います)。ぎちづめ 言うな (の
は) 詰めて、詰めて、まあ、はいらせん (入らない)
言うのをな ぎちづめ ん (に) しや (それ) して、
へし込んで (押し込んで) 言うてな。押し込むと へ
し込んで 言うてな はいらせんの (ないのを) 無理か
らん (に) 入れんのを (入れるのを) ギシヅめんして
(にして)。

ぎしで 滑らかでない

きしな (来時) 【名詞】 来る時 来るついでに 来る途
中 しなは時の意を言う古語 しだの転 (大言海)
(志、員、阿、張、名) [会話] キシナ 言うな (の
は) 家を出しなのことなあ。キシナに家い (に) 来る、
家い (へ) いて (行つて) おもとる (思っている) と
こを (所を) キシナ 言うて、家い (へ) かえろかい
なあ (帰ろうか) おもとるとこ (思っている所) キシ
ナに、また、誰やら来て、まあ、おつそなつた (遅
くなつてしまった) 言うてな、出しな言う時も有るし
なあ (有ります)。そして、かいつて (帰つて) 来る
時や (は) かいりしな 言うてな、行く時や (は) 出
しな言うて、でしなと、かいりしなとか 言うて。

きしのはな 【名詞】 岸の先端 きし 参照 [会話] が
けつちよ みたよな (のよな) とこ (所) キシノハ
ナや (だ) 言うて

ぎしむ(軋)【自マ五】滑でない[会話] ギシム 何か 引っ張ると、すうっと してこんと (して来なくて)、つまる (停滞する) よおなのおを (のを)。人引っ張っても、なんやらすると (何かすると・何とかすると) ギシデ来やせん (来ない) 言うて。すうっと 来んと (来ずに)、つまる事をギシム 言うなあ。今日は糸な (が) ギシム、針な (が) ギシム 言うて、つまる事を。戸やどけ (など) でも、すべりな (が) わり (悪い) と、ギシデ (軋んで) 開かせんわれ (開かない)。

きしめん(基子麵)【名詞】 平打ちのうどん [会話] うどん、名古屋のキシメン

きしやいたた 破ってしまった きさく参照

きしゃく(きさく) 布、紙等を裂く 破る [会話] 善の綱 引っ張つといて (て行って) 墓で、キシヤイテ皆ん (に) くれよおった (くれました)。

きしゃける(きさける) 破れる(志(甲賀))[会話] 鉄で切らんと (切らずに) てえ (手) でなあ、やぶん (破ぶる) のを、きさく言うの。キシヤケル 言うのは、破れる言う事や (です)。

きじゅつない【形容詞】 気の毒だ 恐縮だ 気づまりだ 気苦労だ 気づつないの訛 づつないは、せつない 苦しい つらいの意(方言俗語語源辞典)

きじよい【名詞】 生醤油 [会話] 味噌ん (の) 中ん (に) 籠な (が) 突っ込んであつて、それん (に) しよい (醤油) な (が) たまんね (たまるのです)。それを、たまりや (だ) 言うて、それま キジョイや (です)。

きしょお(きしゃう)(気性)【名詞】 生まれつきの性質 心だて 気立て 気質 [会話] キショオな (が) 荒い言うのかい (ですか)、あのひた (人は) 男気みたよななあ (のようだ)、キショオが あろおて (荒くて)。おなご (女) でも 男みたよおな (のような) 活発な人を、キショオな (が) 荒おて 男みたよななあ。

きしょお(きぢやう)(気丈)【名詞】 心がしっかりして居ること 気の強いこと、又、そのさま

きじょおい(生醤油)【名詞】 生醤油 味噌から出る液を火を通さず そのまま醤油として使う時に言う [会話] キジョオイや (だ) 言うて、味噌しこで (仕込んで) 味噌いなあ (に) たて 言うて味噌しのざあ (ざる) を、ふつかい (深い) の (のを) 突っ込んでくね (でおくのです)。そすと (すると) それいな (それに) しょおゆな (が) たまんね (溜まるので

す)。そすと、キジョオイや (だ) 言うて、きだまりや (だ) 言う人も有るし、醤油を炊かんと (炊かず) に 使うことを、キジョオイや (だ) 言うて、ほんと (本当) では、いったん (一度) 炊いたると (てやると) 味噌臭ないけどな (のだが)、キジョオイや (だ) 言うと、ちょいと (少し) 味噌のかざ (嗅い) な (が) するけどな (します)。うまいのは 美味いけどな、豆そのままのおやよってんなあ (のだから)。味噌 ふたあ樽 (二樽) も みい樽 (三樽) もして たて しといて (しておいて) 掬って 味噌な (が) かつとおなると (硬くなると) かつとお (硬く) なつたよって (から) ひとばか (少しの間) すくらんと (掬らずに) 置いとけ (ておけ) 言うて そげんして (そんなにして) やいこい (軟かい) うちや (間は) たて 入れて、その、たまりを 使いおったの (使つて居たのです)。

きじょおもん(気丈者)【名詞】 気持ちのしっかりして居る人 [会話] 気な (が) 強い人をな、キジョオモン言うのな (です)。あの人 まあ きづおて (気強くて) 男 みたよな (のような) 人やなあ (だ) 言うて、女の人な (が) 気づおいと あや (彼女は) 男みたよな 気性やな (だ) キジョオモンで 言う。

きじょおゆ(きじやうゆ)(生醤油)【名詞】 調味料 水などを混ぜない、又、煮たりしない、しばらくのままの醤油 きじょおい参照 [会話] キジョオユ 言うんかい (言うのですか) きじょい言うて、味噌しこで なあ (仕込んで) 味噌いなあ (へ) たて 言うて、味噌しのざあ (策) を、深つかいの(深い) 突っ込んでくね (でおくのです)。そすと それいなあ (それに) 醤油な (が) たまんなあ (貯ります)。そすと (すると) キジョオユや (だ) 言うて、きだまりや (だ) 言う人も有る。

きしよく(気色)【名詞】 きそく 気分 気持ち 気味 具合 顔などに表れた心の内面の様子 快、不快の気持ち 物事や他人に対し抱く気分。体の状態、又、病状、意向、意志、あたりの様子(志(浜島、布施田、鵜方、神明、立神、志島、甲賀、国府)、鳥、伊、松、員、鈴市、安、津、上、阿、張、名、北、尾、南) [会話] キシヨクな (が) ええ (良い) 言うて、気持ちな (が) ええ 事を。肩叩いてもろたら (貰ったら) どいらい (大変) キシヨクな (が) ええわれ (良いです) 言うて。キシヨクな (が) わり (悪い)、体の気持ちな (が) わりい (悪い) 言うのを、体のキシヨクな (が) わりいて (悪くて) 言うの。今日は、腹

のキショクな (が) わりいて、腹な (が) くだる (下痢する) てら (とか)、ごろごろ鳴って、キショクな (が) わりわい (悪いです)、今日は まあ (もう) 言うて。頭が痛いとか、気分が悪い時に気分なあ (です)。ええキショクやなあ (よい気分だ)。キショクな (が) よかった 言いまくったて (言いたい放題を言って・思う存分に言ってやって) 言う時も あんなあ (有ります)、言うて 言うて 言いまくったたや (てやったら) キショクな (が) よかった。人やりこめといて (ておいて) こんだ (今度は) キショクな (が) よかった言う時もあんなあ。キショクな ええ やりきったて (てしまつて) 言うて。仕事よけ (沢山) しても キショクな (が) よかったなあ、よけ (沢山) 仕事な (が) 出来た時でも、何かうまい事出来た時に キショクな (が) ええわ (よい) 言うて。
きしよくええ 気分 気持ちがよい [会話] 気持ちな (が) ええ (よい) 言う事を、キショクエエ。今日は よお (よく) 照って よお 乾いて、キショクな、エエひい (日) やなあ (だ) 言うて、日な (が) かんかん照るとなあ 今日 かんかん照って、キショクエエひい (日) やなあ 言うて。

きしよくなええ 気分がよい 気持ちがよい 体の調子がよい きしよく参照

きしよくなわり 1) 体の調子が悪くて気分がすぐれない 不愉快だ 気分が悪い きしよく参照 (松、津、上、阿) 2) 気味が悪い

きじり (木尻) 【名詞】 1) 薪の燃えさし (志 (立神、甲賀、国府、安乗)、南) 2) 木炭の充分に炭になって居なくていぶる物 (鳥、一、多、上、阿、北、尾、熊) [会話] 1) キジリ 火な (が) 消えた後のちよいと (少し) 残つとんの (て居るのを) キジリ。火を燃えた後を消し炭入れか 水で じゅつとしたりして、きい (木) な (が) まだ ちよいと 残つとんのを、キジリな (が) 残つとるやんか (残って居るではありませんか) 言うて。キジリえごつと (よいように) しとけよ (しておけ) 言うやんかい (言います)。木の尻が 残つとる (て居る) 燃えて残ったとかあ (所は) 尻にすんねやろなあ (するのでしょうか)。 そんで (それで) キジリ。

きしる (軋) 【自ラ五】 1) 物と物とが強くこすれて、きしきしと音を立てる ぎしむ参照 (志 (甲賀)) 2) きしきしと音を立てて噛む (志 (浜島、布施田、神明、立神、国府))、度 [会話] 2) なんやかや 齧ん (る) のを、キシル。鼠な (が) 齧ったて (てしま

つて) 言うのを、鼠な キシッタテ こやあれ (これは) 言うて。1) 戸がすうつと 滑らんと (滑らないと) ぎしむ言うの。キシムのを ぎしむ 言うて、キシル言うのやなしに (言うのでなくて) ぎしむ。齧ん のおを (齧るのを) キシル言うて。

ぎしる 滑らかでない ぎしむ、きしむと同じ [会話] 便でも なんでも 出ぬくい時に ギシル

きしろ 【名詞】 ねずみの仔。はつかねずみ (志 (布施田、片田、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)) [会話] キシロ 言うななあ (言うのは) こんだけばか (これ位・体長5cm以下) の、ちっちゃあい (小さい) の、ほんとん (本当に) ちっさいの (小さい) 見ると、キシロみたよな (のようだ) 言うね (言うのです)。おつきい (大きい・大きく) ならせん (ならない)、おつきい ならんと (ならずに) こんなりで (このままで) わりこと (悪い事) すんの (するのです)。どいらい (大変) きしんのは (齧るのは) 大人より えらいの (大変です)。倉やどけい (などに) 入れたたら (入れてしまったら) ごぼち (罌) かけても (仕掛けても) 捕られやせんもんで (捕れないので)、水飴こおて (買って) 来て、飴で 捕らな (なければ) はざんね (だめなのです)。かしん (菓子) 屋い (へ) 行て (行つて) 水飴こおて 来て 板い (へ) 流しとくと (ておくと) それい (に) 引付くと、よお出やんで (出れなくて)、そして、とらな (とらなければ) 捕られやせんの (捕られません) 飴で捕らな (なければ)。

きしろ 【名詞】 きせる 煙管 (志、伊) [会話] けしろ や (です) 煙管言わんと (言わずに) キシロ、煙管な (が) ほんとやけど (本当だが)、キシロや (です)。金山 (かねやま) 越して、竹山越して、金山越して その先 火 ちょぼちょぼ なあに (何ですか) 言うと、わしらな (私達が) ちっさい時分 (小さい時) きせる 言よおった (言っていました)。けしろやわい (です)、きせるならええんけど (よいが) キシロ。こんこんと こついても憎うて叩くと思うなや、かわいきゃ (可愛ければ) こそ 又、口で吸え

ぎしんどる 軋んで居る

きず (生酢) 【名詞】 果物 (柑橘類) をしばつて出た汁 (熊) [会話] くだもん (果物) の汁、しばったのな あ (のです)、キズで喰おやんかれ (食べましょう)。

きず (傷) 【名詞】 1) 怪我 (桑郡、久、張) 2) 損傷 器物の損傷

ぎず 【名詞】 やせて居る人 やせギス (志 (布施田、浜

島、神明、立神、志島、甲賀)、多、南)
きずがい【名詞】採取時に貝の肉に傷をつけてしまった
鮑
きずがつく 悪影響が残る
きずぎず【副詞】 1) 愛敬がなくかどがあつて親しみに
くいさま 2) 痩せている [会話] 2) 痩せてギスギ
スやなあ (だ) 言うて、やせぎずやなあ あや (彼
は) 言うて、痩せとる (ている) 人をな。
きずぎずする 親しみが無い かどがある 威張る
きずぐすり(傷薬)【名詞】 傷につける薬
きずごろ 傷だらけ (志(布施田)) [会話] 嬢を傷に
なる程 くらわして (殴って)、どいらい目 (大変な
目) におおて (あって)、キズゴロになって来る人な
(が) 有るやんかい (有ります)。
きずつな。きずつない(気術無)【形容詞】 心苦しい
気苦労だ 気詰まりだ ずつない 術無い ずちな
の転 どうしようもない 苦しい つらい (志(布施
田、浜島、鶴方、神明、国府、安乗)、鳥、松、鈴市、
安、多、上、阿、張、名、北、尾) [会話] キズツナ
イ言うて、おもおもし (重々しい) しとて (して居
て) キズツナイなあ (です) 言う時ん (に) 使うなあ
(使います)。気兼ねする事 気遣い、キズツナイ
時ん (に) 使う言葉やなあ (です)。あの人らえらい
もん (ので) キズツナイなあ。
きずとかんすないっしょ きたら かんすかえしてきず
とねた【俚諺】 好きな人と嫌な人と、一緒に来たので
嫌な人を帰して、好きな人と寝た。
きずとがめ(傷咎)【名詞】 傷が治らず、化膿する事
きずやみ
きずなとがめる(傷咎) 手当しないとか、手当が悪かつ
たりすると化膿したりして悪くなる
きずもん(傷物、傷者)【名詞】 1) 傷物 傷のある物
傷者(熊) 2) 処女を失った未婚の女性(上、阿)
きずやみ(傷病)【名詞】 外傷が化膿する事 治りにく
い事 [会話] 傷な (が) 膿んで来る事なあ (です)。
昔や (は) キズヤミしよおったわい (して居ました)。
黴菌な (が) 入ってすんねやろ (するのでしょうか)。
畠い (に) いても (行っても) 鎌で切ったり、かやで
刈ったりしても、薬も何も 付けやせん (付けない)
やんない (でしょう)。そすと (すると) 家い (へ)
来ると ふち (周り) な (が) 腐肉なついてして来る
わい (来ます)。おおた (ああ) キズヤミしたんなあ
(したのだなあ)、すんねな (するのだろう) 言う
て。そすと (すると) 十七夜さんな (が) 出て来るの

拌むと、キズヤミしやせん (しない) 言うて、よお
(よく) 拌みん (に) 出よおったわい (出て居まし
た)。十七闇な (が) 出て来る時分に (時に)、お月さ
んを キズヤミ せんよおん (しない様に) してお
くれ 言うて 拌みよおった (拌んで居ました)。キズ
ヤミしよおった (して居た) 言うのは 黴菌入れんね
(入れるのです)、鎌で切っても 消毒もせんと (せ
ずに)、そんなり (そのまま) 土こねて しとるもん
で (しているのです)、家い (へ) 来て、あろて (洗っ
て) すると、明日め (翌日) 位ん (に) になると、ふち
(周辺) い (に) 腐肉な (が) ついて来て、すと (す
ると)、キズヤミして、膿んで来たれ (化膿して来
た) 言うて。黴菌な (が) 入ってすんのを (するの
を) キズヤミ。十七闇に拌む時に、キズヤミもなんも
(何も) せん (しない) よおに さして下さい (させ
て下さい) 言うて拌むね (拌むのです)。十七闇な
(が) そや (それ) 出て来る時分やどお (頃だ) 言う
て、外へ出て拌みよおったの。キズヤミも、なんもさ
して下さいますな、言うて、

きせこむ 多く着せる 着重ねさせる

きせたる。きせたるわい 着せてあげます 着せる
[会話] 着せる言うて、着せてあげる事 着せてやる
キセタル言うてな キセタルワイ言うね (言うので
す)。

きせろ【名詞】 きせる 刻み煙草をのむ器具の一つ 語
源はカンボジア語のクシエルに由来すると言う 日本
語では喜世留、希施婁という漢字を当てて居た きし
ろ けしろ参照 (志(片田・布施田)、鳥(坂手・国
崎)、伊、松、員、三、鈴市、鈴郡、安、久、一、多、
上、阿、張、名、度、南)

きぜわし(きぜはし)(気忙)【形容詞】 気ぜわしい。心
にせかれる事が有って、落ちつかない。気分的に落ち
着かない (志(布施田)) [会話] 心忙し (しい)、言
う事を、キゼワシ。節季な (が) 近寄って来て、キゼ
ワシなあ言うて、しよながつ (正月) な (が) 来たよ
つて (から) あれもして、此もして言うてな。餅も搗
かんならんし (搗かなければならない)、煤も掃かん
ならんし (掃かなければならない)、心忙しなあ言う
の (のを) キゼワシなあ言うのなあ (のです)。

きぜわしない(きぜはしない)【形容詞】 気ぜわしい
気忙しナシ(甚)の意(大言海)

きそう(きそふ)(競)【自ワ五】 互いに張り合う 競争
する 争う [会話] キソウ 言うな (のは) 競争す
る。

きぞだ (刻) 刻んだ 小さく刻んだ

きぞで 刻んで [会話] むに膏 言うて、小麦粉のこお (粉) へ くちなあし (くちなし) を入れて、とんがらし (唐辛子) も、キゾデ 入れて、卵とこねて (混ぜて)

きぞどいた 刻んでおいた、切っておいた [会話] 刻む言うな (のは) 今し (今) 刻ざんどんのをな (でいるのを) 言うなし (言うのですし)、キゾドイタ言うな (のは) 刻ざんで置いてあんのを (有るのを) キゾドイタ言うの (のです)。

きぞむ (刻む) きぞむの訛 ギザギザ (段段) を活用した語 (大言海) [会話] 刻んで置いてといた (ておいた) 言う事を、きぞどいた言うてな。きぞだ言うのは刻んだ 切った言う事や (です)。キゾム言うな (のは) 今し (今) きざんどんのをな (でいるのを) 言うなし (言うのです)。

きぞめ 刻め [会話] キゾメ 言うな 切れ言う事や なあ (です)。

きぞめ (着初) 【名詞】 新しい着物を始めて着る事 ゑめは初めて行う事 消防の出初め等 [会話] きもん (着物) のキゾメ、初めてきもん 着る時 キゾメして言うのなあ (のです)。キゾメもせんと (せずに) あんのを (有るのを) くれたて (呉れてやって) 言うて。わがと (自分) 肌ささんと (着ずに) あんのを なあ キゾメもせんと あんのを くれたたね (呉れてやったのだ) とかな、取られたたね (てしまったのだ) とかな。

きぞらし 着たまま崩してしまう 着崩し、着物をしどけなく或いは着流しに粋に着て居るさま。 [会話] きもん (着物) を、キゾラシ 言うな (のは)、昔や (は) 裏返したり、そそくったり (繕ったり) して着よおったわい (着て居ました)。それを なんもせんと (何もせずに) そんなり (そのまま) 着て、裏返しもせんと そそくり (繕い) もせんと 着て、そんなり (そのまま) ぼお (放って) したる (してやる) 事を キゾラシ。昔やだ (は) あや (彼は) なんも (何にも) 手入れせんと (せずに)、キゾラシて言よ おったわい (言っていました)。

きた 【名詞】 北風 (志 (片田)、鳥、松、桑郡、三、四、津、鈴市、一、度、伊、北、尾、南、熊) [会話] キタと思えばふりごころ言うて 北風。

きだおれ (きだふれ) (着倒) 【名詞】 衣服に多額の金銭を使う事 最後にそれに依り、財産を失ったりする。倒るは、片寄り 倒る義 偏重の意 (大言海)

きたかじえ (北風) 【名詞】 北風 (志 (越賀、波切、国府、鶴方)) [会話] きたかぜ 言うの、キタカジェ。北風びゅうびゅう吹いて来た言うの。

きたかったんけど 来たかったのだが

ぎたぎた 【副詞】 油脂の多いさま (魚など) [会話] ぎらぎら、あぶらつこおて (脂濃くて・脂が多くて)、あぶらな (が) 浮いて、ギタギタしとる (している)。あぶらな (が) あぶらぎって浮くのをギタギタしとる。

きたぐち (北口) 北側の出入り口にある板の間 (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府) 多) [会話] キタグチ 言うて だいどこ (台所) の西北に 板の間一枚敷き (畳一枚) ばかの (程の) 板の間があつて。

きたこ 来ましたか (志 (越賀)) [会話] キタコ 言うな (のは)、来たかい言う事を。此処い (へ) 来ると、キタコ言うて 来ましたか言うのを。キタコてや (と云えば) あてらあ 言うて、おお (はい) 言う事を あてらあ言うて。

きたごち (北東風) 【名詞】 北東の風 こち 東風 東から吹く風 (志 (安乗 志島 立神)、鳥 (堅子、相差)、度、鈴市、北、南、熊、尾) [会話] キタゴチ 北から吹いてくんの (来るのを) キタゴチ。

きたごち 着たまま

きたす (来) 【他サ五】 来る 表れる

きだすかり (気助) 【名詞】 安心なこと 気苦労の少ないこと

きだすけ (気助) 【名詞】 安心させること 元気づけること [会話] キダスケ言うな (のは)、気休め言う事を、キダスケなあ (です)。キダスケん (に) まあこげん (こんなに) 言うて、そげん (そんなに) 言うてもな そや (それは) こおやよってん (こうだから) あきらめとれよおとか (ておりなさいとか) 言うてな 気休め 言うのなあ、キダスケ言うなあ (言います)。

きたっぱ 【名詞】 北風 (志 (的矢、鶴方、神明、立神、国府、安乗、甲賀、志島、浜島、波切、船越、片田、布施田、御座)、鳥 (坂手、石鏡、加茂、菅島、白木、小浜、相差、千賀、堅子、答志、浦村)、伊、四、鈴市、安、津、一、多、度、北、熊) [会話] キタッポ 言うな (言うのは) 北から吹いてくんの (来るのを) キタッポ、キタッポな (が) 今日は吹いて。

きだて (氣立) 【名詞】 心の持ちよう 気質 性質 [会話] キダテな (が) よおて (よくて) おとこまい (男前・美男) で 言うて、心な (が) ええ (よい) 言う事を、キダテな (が) ええ 言うのなあ (で

す)。
 きたてない。きたてわい。きたてわな。きたてわら。きたてわれ 1) 来たそうだ 2) 着たそうだ
 きたどお 来ました [会話] 今し (今) キタドオ言うて 来ました 言うのを
 きたどよ やって来た 来たの卑語 [会話] ひとりどん (あの人) キタドヨ言うて なんか変わったよおな人な (が) 来ると
 きたな 1) 来ました 2) 来たのは
 きたな 着たのは
 きたな (汚) 気に入らない時に言う語 女性語
 きたな。きたない (汚) 【形容詞】 1) いさぎよくない 決断がおそい おきギタナイ 2) 汚れた事 感動的表現に用いる (志) 3) 欲深い けちだ 出しギタナイ (志、北) 4) うるさい うつとうしい (志) [会話] 2) キタナイ 汚れた事 キタナイ。おおた (ああ) キタナイそいな (そんな) 事言うて、おおた (ああ) いやらし言うて、おおた いやらし、ばた餅くれんのこ (くれるのですか) 昔や (は) 言よおった (言って居た)。いやらしのな (が) 流行って、なん (何) 貰ろて (貰って) うれしておって (嬉しいのに) いやらし言うて、うれしておって おおたいやらし ばた餅くれんのかい おおきん (有り難う) 言うて、誰やら (誰か) そげん (そんなに) いやらしかったら持てこ (持って行こう) 言うて もてた (持って行った) 人もあった。いやらしより キタナイ 自分が気に入らん (入らない) 時にも キタナイ、おおた (ああ) キタナイ言うて、気に入らん事 言うて すかん (気に入らない) 事言う時に キタナイ、ウスギタナイ言うて。1) キタナイやけど (だが) 寝ギタナイ 薄ギタナイ、起きギタナイ。起こすのん (のに) 起きよ (起きなさい) 言うても 起きにくい (起きにくい) にげ (人間) を、起きギタナイとか、寝んのん (寝るのに) いつまで 寝ても目ばちばちしとると (して居ると) 寝ギタナイ。うすギタナイ 言うな (のは) 汚い言う事を、すぐく汚い言う事を、ウスギタナイ。3) 欲がふっかい (深い) 出しギタナイ 言うけど、けちくさい、けちなもの、あの人もおきタノオテ (汚くて) 出しギタノオテ (汚く) 言うて、なんやかや 出すのを嫌いなにげは (人間) 出しギタナイとか こんじよ (根性) ギタナイとか 言うて。こんじよギタナイ言うななあ (のは) あげん (あんなに) なんやかや 有っても、おらん (私に) なんも (何も) くれんと (くれずに)、おらん (私に) ちっちゃい (小

い) くれてとか 言う時ん (に) 言うなあ。こんじよギタナイ 言う事は、おらん (私に) ちっちゃあいの (小さいのを) おこして (よこして) わがと (自分) おつきい (大きい) の (のを) したとか 言うのを、こんじよギタノオテ (なくて) 言うわい (言います)。
 きたない 1) 来た 来ました 2) 着ました (志)
 きたながり 着たまま
 きたならし (汚) 【形容詞】 1) よごれて いかにも汚いと言う感じである 形容詞きたないの語幹に接尾語らしのついたもの 2) 嫌だ [会話] 1) べつんも (特に) だめない (汚い) うるさいよん (ように) しとるとなあ (していると)、キタナラシなあ言うて、さっぱりとしとると (していると) ええんけど (よいのだが) 落ちぶれて うるさいよん しとると キタナラシなあ言うて。
 きたなり (着) 【名詞】 着たまま [会話] 北国の雷でキタナリ 言うて 北で鳴つとるもんで (ているので) 北国の雷で 北鳴り。着て そんなり (そのまま) 転んで (寝て) キタナリころで (横になって) なんどお (なんだ) 言うてな、寝間着と着かえんと (えずに) キタナリころで あやれ (あれ) 言うてな。キタナリ そんなり (そのまま) 寝ると おおた着のみ着のまま 寝てな そやれ (それ) 言うて。
 きたなり (来) 来たまま 来てすぐ [会話] 其処えキタナリ使われて、其処い (に) 来たもん (者) を使うと お前もちよいと (少し) それしてくれえ (して下さい) 言うて まあ、キタナリ使われたよお言うて、来たや (ら) すぐに使われた言うのを まあ、お前もつんでん (ついでに) それちよいと (少し) してくれえ 言うてな。
 きたにし 【名詞】 北西の風 (志 (志島)、鳥 (今浦・小浜)、熊) [会話] 西、北から吹いてくんの (来るのを) キタニシ 言うなあ (言います)。
 きたのおけ。きたのおこ 来たのですか [会話] キタノオコ言うて 来たかい (来ましたか)、来たんかな (来たのですか) 言う事を キタノオコ言うのな (です)。
 きたのかじえ 【名詞】 北風 かじえは風の訛 じえはぜの訛 (志 (越賀))
 きたのかぜ 【名詞】 北風 (志 (神明、浜島、御座、畔名、志島、名田)、度)
 きたのこ 来たのですか 来ましたか [会話] キタノコ 言うて、いて (行つて) キタノコ言うて、来たんかな (来たのですか) 言う事を、キタノコ 言うのな

(です)。いて (行つて) キタノコ言うてな あてら
あ (はい) 言うて そすと (すると) 言うの (の
です)。きたんこも一緒や (です)。

きたのしとつばし【名詞】北極星 (志 (志島)、南)

きたのななつばし【名詞】北斗七星 (志、島)

きたのひとつばし【名詞】北斗星 北極星 (志、南)

きたのみよおじょお。きたのみよおじん【名詞】北斗星
(志、北)

きたべた【名詞】北側 (志)

きたべつとお (北別当)【名詞】北東の方から吹く激し
い風 (志 (国府)、鳥 (国崎 答志)、鈴)

きたまくら (北枕)【名詞】1) ふぐ 河豚 キタマク
ラ科のふぐ 全長約20cmになる。食べると死ぬと
言う俗信からこの名が出た。皮膚は強毒、肝臓と腸は
弱毒、卵巣と肉は無毒。体色は暗褐色で背方に多くの
青緑色の不定形細線が有る。(志) 2) 死者の頭の位
置 [会話] 2) キタマクラ 死んだ時ん (に) 北向い
て寝ると キタマクラ。死んだ人みたよん (ように)
キタマクラん (に) 寝て言うて、當 (普段) 寝ると
嫌うわい (嫌います)。死んだ人も 死んでくと (行
くと) 北、向いて寝やすやんない (寝させるでしょ
う)。まめ (健康) なもん (者) が 北、向いて寝る
と 北向きん (に) 寝て言うて 嫌うわい。死んでか
ら寝やす (寝させる) もんで (ので) やかなあ (でし
ょうか)。永平寺の大和尚な (が) 来たおりん (時に)、
その尼さんも 女中付けて八十 (八十歳) もなつとた
(なっていた) やるなあ (のでしょうか) そんな (そ
の人が) 来て 松田へ泊まって したおりん (時に)、
北向いて床取ってくれ言うて その和尚さん 北向き
に取らな (取らなければ) 寝やれやせんね (寝れない
のだ) 言うて、北向きん (に) 床、取ったんよお (取
りました) 言うた事が あるわい (有ります)。お釈
迦さんな (が) 寝る時ん (に)、キタマクラで 寝ん
ねもんで (寝るもので) 一番 ねぶりな (眠りが) つ
きよいね (つきやすいのだ) 言うて。そやよって (そ
れだから) 北向きん (に) 床取れ言うて。その和尚さ
んは 北向きはお釈迦さんな (が) 往生したよって
(から) そんな (それが) 一番安らかん (に) 寝やれ
る (寝れる) 言うて 北向きん (に) 床取って。1) キ
タマクラフグ 言うの あるなあ (有ります)。そげ
な (そんな) ふぐな (が) あんのなあ (有るのです)。
ふぐのきも (肝臓) 食うて死んだ言うて。つらまして
(つらくて) おら (俺は) ふぐの肝なと (でも) 食う
て、死のかいなあ言うて言う人らな (が) あんね (有

るのです)。昔の人らは 死ぬ事を他に知らんもんで
(知らないもので) ふぐのきも くや (食べれば) 死
んでかれる (行かれる) 思て (思つて)。

きだまり【名詞】味噌からしぼったままの醤油 生醤油
味噌から出る液を火を通さず そのまま醤油として使
う きじょい参照

きたらざ 1) 来てあげます 2) 着てあげます

きたらざった。きたらだった 1) 来てやらなかった
2) 着てやらなかった

きたれ 1) 来た 来ました 2) 来てやりなさい
[会話] 1) あれせしめて (盗んで) キタレ

きたれ 1) 着ました 2) 着なさい

きたわれ 来ました [会話] おれげ (俺の家) い
(へ) 来いえ (来なさい) 言うて、おおキタワレ 言う
て。

きたわれ 着ました

きたんか。きたんかい 来たのですか 着ましたか
[会話] よお (よく) 来てくれました言うんけど (の
だが)、昔や (は) キタンカイ言うて。

きたんかな (女性語)。きたんかれ 1) 来たのですか
2) 着たのですか

きたんこ 1) 来たのですか 2) 着たのですか

きたんてない。きたんてわい。きたんてわな。きたんて
わら。きたんてわれ 1) 来たそうです 2) 着たそ
うです

きたんや 1) 来ました (阿) 2) 着ました

きたんやろ 1) 来たのだろう 2) 着たのだろう

きちがいびより (きちがひびより) (気違日和)【名詞】

天候 晴雨定まらない天候 [会話] キチガイビヨリ
や (だ) 言うな (言うのは)、ばあつとして来てな
(は)、ばあつと又、降って来いして、照ったり曇つ
たり、さあさあと早変わりすんの (する) 言う時な
(が) あるけど。天気な (が) 早変わりする時を、キ
チガイビヨリやなあ (だ) こや (これは) 言うて。

きちがいみず (きちがひみず) (気違水)【名詞】酒 飲
めば時に正気を失う事から [会話] キチガイミズ
酒飲みな (が) よけ (沢山) 酒、飲むとなあ あや
(あれは) キチガイミズやれ (だ) キチガイミズやも
んで (だので) 気な (が) あるおて (荒くて) 言うて
な。酒のおで (飲んで) 酒乱になるとなあ キチガイ
ミズや (だ) よってんなあ (から) 言うて、にげ (人
間) な (が) つねや (平素は) おとなし (おとなし
い) しても 酒乱になって来ると、キチガイミズやも
んでなあ (だから) 言うて。

きちきち【副詞】 1) きちんと きちよう面 丁度よい
2) 物が一杯につまって居るさま ぎっしり ぎっちり 時間に余裕のないさま ぎりぎり (志 (布施田)) 3) 窮屈なさま (上、阿) [会話] 2) キチキチ一杯 言うんかい (言うのですか)。丁度ええ (よい) 言うの (のです)。きちんとおおた (合った) 言う事 キチキチ言うの (のです)。1) 勘定したや (ら) 丁度おおたれ (合った)、キチキチやったなあ 言うて、キチキチ一杯やったなあ (だったなあ) 言うて。勘定したりする時ん (に) 丁度ええとさいご (最後・その時)、今日もキチキチやった (だった) 丁度キチキチ一杯で 丁度よかったれ (よかった)。丁度ええわれ (よろしい) 十三銭三厘三毛や (だ) 言う昔の勘定や。きちと (正確に) 勘定のおおた 事を言うんやろなあ (なのでしょう)

ぎちぎち【副詞】 1) 物一杯つまって居るさま きちきちの濁音化 (志 (布施田)) 2) 生活に、ゆとりの無いさま [会話] 1) ギチギチ言うのは、ものすこいきつつい (きつuit) 事んかい (です)。ギチギチ言うて なんもかも (なにもかも) 詰め込んで、詰込んで、身動きな (が) 出来やせん (出来ない) 言うのを ギチギチ。物一杯詰めても ギチギチ詰込んだ言うて、にげな (人間が) 席一杯ん (に) なった時でもギチギチ。

きちと【副詞】 正確に 丁度 (志 (布施田)) [会話] キチットかんじよ (計算) のおおた (合った) 事、うんやろなあ (言うのでしょうか)

きちと。ぎちと【副詞】 1) 十分に詰まっている状態 2) しっかりと 堅く 完全に

きちとじん【名詞】 几帳面な人 物事を正確にする人、規則正しく礼儀正しい人

ぎちつまり【名詞】 完全につまって居る状態 満員 満杯 (志 (布施田))

ぎちづみ 満員 一杯になった時 [会話] ギチヅミ言うな (のは) 一杯つんだ (混んだ) 時、にげな (人間が) 満員 言う事や (です)。舞台の事なら 満員やなあ (だ) 言う事やなあ (です)。なんやかや 物詰める時や (は) 一杯詰めたると (てやると) ギチヅメで まあ (もう) 入らせんわれ (入らない) 言うて。

ぎちづめ 一杯につめる事 [会話] ギチヅメも ギチヅミも一緒や (です)。ぎっちり詰めんのを (るの) を ギチヅメ。

ぎちむけ 完全に剥ける事 [会話] ちんぼ (陰茎) の かあ (皮) ギチムケン (に) なって、痛いと言うて、

ちんぼ (陰茎) 綿で巻いてしとた (していた) 事な (が) あんね (有るのです)。

きちようめんにする (きちやうめんにする) (几帳面)
整理する (志 (国府)、鳥) [会話] なんもかも (すべて) あのひた (人は) 几帳面で 言うて、きちんとする事を キチョオメンニスル。几帳面になんもかも 整頓して、きちんとしとられ (して居る)、なんもかも 几帳面な人やなあ (だ) 言うて。きちととする事を キチョウメンニスル。

きちんきちん【副詞】 物事が規則正しく整って居るさま
きちんと【副詞】 正確に 正しく整って居て乱れの見られないさま よく整頓されて居るさま きちんはきちきちの音便 [会話] キチント其処らも せえとん (整頓) せえ (しなさい) 言うことを キチントしとけまあ (しておけ) 言うてな、其処らも掃除して、キチントせえまあ (しなさい) 言うのを、えごつと (完全に) 掃除してせえとん せえ 言う事を キチントせえまあ ひろげさがしとかとん (ておかずに) 言うてな。

きちんとすわる 正座する (志 (鶴方、浜島)、松、四、亀、津、上、阿、名、度)

きちんとむかう 正座する (志 (片田、鶴方)) [会話] ちんと座れ言うてな かしこまんのを (正座するのを) キチントムカウ言うてなあ、正座する言うのな (です)。かしこまる 言うのをな、今し (今) では、正座する言うし、昔の人 かしこまれとか ちんとすわれとか言うてな。おなし (同じ) 言葉やけど (だが) かしこまれ 言うのも、ちんと座れ言うのも、正座の事をそげん (そんなに) 言うの (のです)。

きつui【形容詞】 1) きつuitに同じ 強い 甚だしい (志、伊、松、桑市、員、三、鈴市、安、久、上、阿、張、名、南) 2) つらい、大儀だ 3) 小さい、窮屈だ [会話] 2) キツイ えらい (大変な) 仕事するとキツイ仕事してなあ 言うし (言います)。3) きもん (着物) でも、ちっさい (小さい) と、キツイ言うてな、足袋な (が) きつuit はかれやせん (履けない) とか 言うてな 小さい事をキツイ言うて。

きづおい (気強)【形容詞】 1) 気が強い 2) 強情だ 3) 頼もしい

きづかい (きづかひ) (気遣い)【名詞】【形容詞】 心にかける事 心配する事 気のおける事 気づまりな事 [会話] そげん (そんなに) キヅカイすんなえ (するな)、こいなもん (このような物) ただで (無料) こさえた (作った) もん (物) やったのん (あげたの

に)、気の毒がってすると、そいなもん (そんなもの) あんた (貴方) キヅカイ (きずかい) せんでも (しなくても) ええねんなあ (よいのです) 言うて キヅカイ。キヅカイして、来たかったねけど (のだが) 言うのは キヅカイな (だ) 言う事やわい (です)。心遣い言う事やわいな (です)。心使う言う事やな (です)、心配するとか

きづかいない 間違いない 心配しなくてもよい (伊、上、阿、張、名、北、南) [会話] なんも (何も・少しも・全く) キヅカイナー (有りません) 心配せんでも (しなくても) 言う事を、きい (気) 遣わんで (なくて) ええ (よい) 言う事や (です)。気遣いせんでも 大丈夫や (だ) 言う事。キヅカイナー、大丈夫やわい 言うて、何でも頼んできると、ええんかい (よいのか) 思て (思って) 心配して言うとか、キヅカイナー じよおと (上等) やわい。

きづかいなひと【**名詞**】 1) 気をつかわなければならぬ人 2) 堅苦しい人

きづかう (きづかふ) (気遣)【**動詞**】 心配する (張)

きっかけ (切掛)【**名詞**】 1) 物事の始め 出だし 最初 2) 機会 チャンス [会話] ₂₎ なんかのキッカケで、あの人と一緒ん (に) なって、あの時に、こいな (こんな) キッカケで あのひと、こんして (こんなに) 仲よお (良く) なった、キッカケな (が) 有って言うやんかい (言います)。つて (手掛かり) な (が) 有る事を 言うんやろなあ (言うのでしよう)。

きっかり【**副詞**】 数量などに端数のないさま 丁度 きっちり ぴったり [会話] キッカリ 言うのは 全部 言うよおな意味や (で) ないんかい (ないのでですか)。きっちるなあ、うまい事 (いた) (上手に出来上がった) とか、きちんといた (いった) 言うて。ぴたりといた (いった) 言うよおな意味かい (ですか)。うまいこといたな (いった) ぴったんこや (だ)、きちんと いたれ (いった) そごい よおいた (都合よく行った) 言うよおな事やろな (でしよう)

きづかれ (気疲)【**名詞**】 気を遣って疲れる事 精神の疲労 [会話] きい (気) つこて (使って)、きい (気) くたぶれん (くたびれに) くたぶれた (疲れた) 言うのなあ。あのひとな (が) おって (居て) きい (気) つこて (使って) キヅカレな (が) したよお (した) 言うて むつかし (気むつかしい) 人のとこん (所に) おると、きい (気) つこて (使って) あのひとな (が) こげん (こんなに) おもとるやろなあ

(思っているだろう) どげん (どんなに) しとる (している) やろなあ (だろう) おもて (思って) すんの をな (するのを) きづかい (気遣い) でまあ言うて、キヅカレな (が) したの、気遣いであの人な (が) おったや (居たら) くたばった (疲れた) 言うて。

きつき【**名詞**】 病気 気分 幼児語 [会話] 病気な (です)。この子、今日は きい (気持ち) な (が) わりんかして (わるいのか) ぐずぐず と言われ (言う)、もんなおこて (熱が出て) 言うてな、額い (に) てえ (手) 当てて、もんなおこられ (熱がある) 言うてなあ、熱な (が) すんのを (するのを) もんなおこられ言う。虫な (が) 出とんねやろど (出ているのだろう)。こや (これ) キッキわりか (悪るいか) 言うて、気持ちな (が) わりか 言う事を、キッキな (が) わりか 言うて、子供に言うもんで (ので)。

きづき (木付)【**名詞**】 流木に集まって居る小魚を食べようとして集まる鯉の群れ さめつき参照 (志、北、熊)

きづく (気付)【**自カ五**】 気が付く 感じてさとる [会話] 気な (が) 付く言う事を はよ (早く) 気な (が) ついて よかったなあ 言うて、病気でも先生な (が) こや (これは) きいつけな (なければ) はざんど (駄目だ) 言うて、今日は病院え、つれてかな (連れていかなければ) はざんわれ (駄目だ) 言うたや (言ったら)、先生な (が) はよ キツイテくれて よかったなあ 言うて。

きつけ【**名詞**】 きつけぐすりに同じ (北)

きづけ【**名詞**】 付け 付け届け

きつけぐすり (気付薬)【**名詞**】 1) 気付けに用いる薬 2) 酒 [会話] ₁₎ キツケグスリ言うて 昔、まごたろ (孫太郎) 虫や (とか) なんやかやなあ (いろいろ) ひきつけてきよおって (行きました) 恐怖の虫な (が) おこった言うて、ひきつけてく (て行く) のをなあ。

きつき【**名詞**】 斜面の急な事 [会話] がつこ (学校) い (へ) 上がてく (て行く) とこ (所)、キッサん (に) なつとて (なつて居て) すべてく (て行く) もんで (ので) ずべり坂

きつさい 急である 傾斜が強い [会話] 坂な (が) きつつい (急だ) とか 言うとか、勾配な (が) キッサイな (だ) とか、土堤のキッサイな (の) とこ (所)、勾配な (が) きつつい (急だ) とか言うて。

きつさか (切坂)【**名詞**】 勾配の急な坂 傾斜地 (志

(片田) [会話] キッサカ言うと、きったてとるとこを(切立って居る所を)キッサカやなあ(だ)言うんかい。勾配な(が) なるいと(ゆるやかだと) おんべりとしとるけど(して居るが)、おおた どいらい(大変な)キッサカやなあ(だ)。こおしとると(勾配が強いと)キッサカやなあ(だ)言うて、きつい事を。おんべりしとる(して居る)言うな(のは)、だらだら坂みたよん(のように) しとん(して居る)のを言うし、キッサカ言うな(のは) きったてとる(ている) とこ(所) なあ(です)。

きっさかさま 山や崖が急なこと [会話] 険しい言う事 使かわんと(使わずに) きっさな山やなあ(だ)言うてな キッサカサマやない(だ) あやまあ(あれば)言うて。

ぎっし。ぎっしぎし。ぎっしり 【副詞】 隙間なくつまって居るさま

きったてる 傾斜を急に立てる [会話] あんまり(あまり) キッタてとかんと(ておかずに)、なぜえ(斜め) ん(に) しとけよお(しておきなさい)、キッタテルと、かえってくよってん(ひっくり返るから)。

きったる 切ってやる

…**きったる** …してしまふ。強くその行為を行う きった、きったた、きったた (志(布施田)、北、尾、南) [用例] 怒りキッタル。泣きキッタル。

ぎったんぱったん 【名詞】 シーソー (志、一)

ぎっち 【副詞】 隙間なく詰まっている [会話] ぎっしり、ギッチに詰まったよお言うてな 皆、一緒の事やなあ(です)。一杯ん(に) なった言う事やなあ。

ぎっちぎち 【副詞】 一杯に詰まったさま。動きの取れない様。[会話] 借金でぎっち詰まった言う時もあるしなあ(有ります)。借金よけ(沢山) したて(してしまつて)、にっちもさっちもいかず ギッチギッチや(だ)言うて。ギッチギチン詰まったよお言うて。ぎちぎち一杯やれ(だ)言うて一杯ん(に)なる事を。

きっちむすび。きっちやむすび 【名詞】 解けないように強く結ぶ 吉弥結びの転か [会話] キッチャムスビ言うな(のは)、きちんとひきほどき(引き解き) せんと(せずに)、きちつと 男結びなあ(です)。蝶結びん(に) すんな(するのは) おなご(女) 結びや(だ)言うし、ひきしめたんな(てやるのは) 男結び。キッチャムスビしてあやれ(あれ)言うて、ひきしめたと(てやると) 言うやんかい(言います)。ひきほどき言うな(のは) 蝶結びん(に)してあんの(ある

の) ひきほどきん(に)して、きちんと むすだると(結んでやると) 男結びで、きっちゃん(に) 結んで言うて。

ぎच्चよ 【名詞】 1) 左利き ひだりギッチョ(志(浜島、片田、国府、甲賀、鶴方、布施田)、鳥(桃取・坂手・答志)、松、津、久、一、飯、多、上、阿、張、名、度、北、南) 2) 肩 3) 歩行の正常でない人 (びっこ) [会話] ¹⁾ 左ギッチョや(だ)言うて、左のにげ(人間) ギッチョや(だ)、あや(あれば) ギッチョやなあ(だ)言うて。³⁾ びっこや言う人も有るしなあ、ギッチョひいて 言う時もあんね(有るので)。

きच्चり 【副詞】 1) 物がよく整って居て乱れない状態 2) 時間、量が正確で端数のない状態 (志) 3) 正確に、堅く [会話] ³⁾ キच्चり縛つとけよお(ておけ) そや(それ) 解けてかんよん(ていかないように)言うてな、ひぼ(紐) 縛ん(縛る)のでも しつかり縛つとけ(ておけ)言うのを キच्चり、きちんと縛って きच्चむすび(玉結び) ん(に) しとけよお言うたり、かけむすびん(に) しとけよお言うたりな。きच्चや結び やとか(だとか) かけ結びやとか言うて きちんと縛つたと(てやると)。¹⁾ キच्चりは きちんとしとけ。

ぎच्चり 【副詞】 丁度一杯に 隙間なくつまり 余裕のないさま きच्चり (志(布施田)) [会話] ギच्चり言うな(のは)、こげん(こんなに) きच्चり一杯詰めた、一杯詰まる事をギच्चり 言うね(言うのです)、ギच्चり 積んだ言うて。ぎच्चりも一緒の言葉やなあ(です)、意味は一緒やけど(ですが) 言いよな(言い方が) 違うだけで ぎच्चりも ギच्चりも きच्चりも。

ぎच्चりいっぱい ぎच्चりに同じ 隙間なくつまっている事

ぎच्चん 隙間なく一杯に。満杯の状態。[会話] ギच्चん言うて一杯ん(に) なった言う事やなあ(です)。

ぎच्चんちゃん 隙間の全くない事

きच्चい 【形容詞】 1) 強い 甚だしい きच्चい 2) 隙間やゆとりがなく、きゅうくつである 耐えられない程激しい 3) 苦痛な程厳しい 性格が強い 勝気だ 刺激の度が強い 程度が甚だしい 並々でない大したものだ 素晴らしい (松、多、北、尾) [会話] ²⁾ キच्चイ言うな(のは) 穴でも 何でも入らせん(入らない)のを、へし込む(押し込む)のを キच्चウテ入らせんてや(と云えば) へしこんどけ(で

け) 言うて。足袋でもちっちゃおて (小さくて) 入らせわれ (入りません) キツツウテ 言うて。キツツイ 言うの (のは) ぎちぎちの事をキツツイ。³⁾ あの人はいどいらい (大変) キツツイ人や (だ)。どいらい こんじょ (根性) な (が) わり (悪い) 人 や (だ)、きむつかし (気難しい) 人 や なあ (だ)、言う事を言うけど。あんまり (あまり) 几帳面過ぎる人を キツツイ、あのひたあ (人は) ほんと (本当に) キツツイなあ 羨でも なんでも言うて。

きつてく【接尾語】 動作の激しく行われている状態 (北、尾、南) [会話] まいキツテク言うて、此処い (え) きたや (来たら) 入いらんと (入いらずに) まいきつてた 言うて、そんなり (そのまま) いた (行った) 言うのを、まいきつてた言うて

きつと【副詞】 必ず きの急呼 キはキハ (除) のキはやかなる、俄かなる意にも、慥なる意にも用いられる (大言海) (伊、阿) [会話] キット来る、キット行くよってん (から) 言うてな、必ず言う事をな キット言うてな、必ず それは するよってんなあ (から)、キットするわい (します)、賭するわい (します) 言うよおなもんやなあ (言うようなものです)。

きつとる 1) 一生懸命にして居る (志) 2) 前の動詞を受けてその状態の甚だしい事を示す [会話] ¹⁾ まいキットル しいキットル いキットル たらなあ (とか)。あの人いきつとんねなあ 言うて 勢いよお (よく) しとんのを (しているのを)、あや (彼は) まあ、いきつとんねなあ 言う人も有るしなあ。そして 怒つとんのも (ているのも) あやまあ (彼は) どいらい (大変) いきつとんねどお 言う時もあるしなあ。

きつね (歯鯨)【名詞】 魚名、はがつお さば科 鯨に似て居るが体がやや側扁し、背方に数ヶの縦走線があり、口が大きく上下の歯が強い 全身小鱗で覆われて居る (志 (志島、甲賀)、鳥、北、尾、南、熊)

きつねずし。きつね (狐鮓)【名詞】 いなり鮓 おいなりさん 甘く煮た油揚げの中に鮓飯をつめたもの (阿、張、名、南) [会話] あげずし いなりずし、おいなりさんやもんで (なので) キツネズシ。

きつねつき (狐付)【名詞】 狐の霊が人に乗り移り、その人が異常な行動をする事 又その人

きつねのよめいり。きつねのよめどり。きつねのよめり【俚諺】 日が照って居るのに雨が降る天気 (志 (片田、立神、甲賀・よめり…越賀・船越・片田・浜島)、鳥 (長岡)、松、津、多、上、阿、張、名、尾、南) [会

話] キツネノヨメイリ言うな (のは)、日な (が) 照つとんの (て居るのに) 雨な (が) 降ると キツネノヨメドリ (結婚式) や (だ) 言うて、ちっさい (小さい) 時、ひなてりあめ (日照雨) して来ると、キツネノヨメドリや (だ) 言うて、なんも (何も) めえんとおって (見えないのに)、おおた みえとんねよお (見えて居るのだ) 花嫁さんな (が) 言うて言よおったの (言って居たのです)。日な (が) 照っておって (いながら)、雨な (が) 降る時な (が) 有るやんない (有るでしょう)。キツネノヨメドリや (だ) 言うて、一生懸命掘って (土に穴を掘って) 覗いて、何んも (何にも) めえんとおって キツネノヨメイリ やよお (だ)、嫁さんな (が) 来たんよお (来た) 言うて。

きつねはも【名詞】 はも ハモ科の海魚 全長2mに達す。形はうなぎ状で、細長く、鱗は無い。背鰭、臀鰭の基底は長く尾鰭に連なる。吻は尖って口は大きく、鋭い歯を持つ。背方は紫褐色で、腹側は白い。砂泥地や岩礁に住む。おながうつぼ うつぼ科 体は長く側扁する。尾部は非常に長く、端から肛門迄の1. 5〜2倍以上、体高は頭長の三分の一以上、体は一様な褐色、日本産のうつぼでは最大 全長3m

きつぱり【副詞】 完全に 見事に さつぱり きつぱりは、きはやかな急呼 リは助辞 (大言海) (張) [会話] キツパリ あきらめて、キツパリも さつぱりも 一緒やなあ (です)。キツパリ あきらめたんかい (たのですか) とかな、キツパリせな (しなければ) はざんわれ (駄目だ) 言う時もあるしなあ (有ります)。なんか きちんとせな はざんわれ 何時もかも ぬべこべ しとらんと (だらだらしてなくて) 言うてな はつきりせえ (だらだらしなさい) 言う事を。

きづまり (気詰)【名詞】 気持ちがのびのびしない事 気がね

きづよい (気強)【形容詞】 1) 頼もしくて心強い 安心である 2) 気丈である 勇気がある

きて (来手)【名詞】 来てくれる人 [会話] 今しや (今は) 兄貴のとこ (所) い (に) 嫁のキテな (が) 無いの。

きてもおた 来てもらった

きてもおたら 1) 来て貰ったら (依頼) 2) 来て貰ったら (希望)

きてもおて 来てもらって [用例] 遠いとこ (所) キテモオテ おおきんえ (有難う)。

きど (木戸) 【名詞】 芝居など興業場に設けられた客の出入り口、又、その時払う入場料 (きどせん) [会話] しばや (芝居) のぞきん (に) いこや (行きましょう) 言うて、キド出すの、ぜんな ((銭が) ないやんな (ないでしょう) そやよって (それだから) のぞきん (に) 行くね (行くのです)。

きとおても 来たくても (四) [用例] キトオテモ 遠いもんで (ので) よお来んで (来れなくて)。

きどき (来時) 【名詞】 来る時 来る時間 (志 (布施田)) [会話] キドきな (が) おっそいやんかあ (遅いではないか)、時な (が) 過ぎる事な (です)。今日は夕方かいって (帰って) 来る言うのん (のに) キドきな (が) おっそいやんかあ とか、キドきな (が) 早いやんかあ とか、時間の事やなあ (です) キドキ。

きどぐち 【名詞】 興業場に設けられた客の出入り口 きどに同じ (多) [会話] 芝居のキドグチ、切符買うとこなあ (所を) キドグチや (だ) 言うて。

きどころね (着所寝) 【名詞】 普段の着衣のまま、その場に假寝する事、いどころね

きどせん (木戸銭) きどちん 【名詞】 興業を見物するため木戸口で支払う金銭。入場料 見物料

きとた 1) 来ていた 類語 見とた 聞いとた と 格助詞 動作、作用の相手、共動者を表す 動作、作用などの帰納の結果を表す比較の基準を表す 動作、作用状態の内容を表す た 古語 完了の助動詞たりの連用形たるからの転 動作、作用が過去の事である事を表す 動作、作用が完了した事を表す 物事が実現する事を表す 物事や事態の確認を表す 動作、作用が済んでその結果が状態として存在する事を表す (…とた …して居た …とる …して居る) 2) 着て居た [会話] 1) ここい (に) キトタやんか (来ていたではないか)、ここい (に) 来とるやんか (です)、ここい (に) キトタ言うて。私らな (が) 家い (に) 帰ってて (て行って)、あんた (あなた・貴殿) な (が) キトタ言うう (ののです)。2) 着物をキトタ。ええ (良い) きもん (着物) 着とるやんか (着ているではありませんか)、服、着とるやんか、言うて、着とるやんか、着たやんか言うて。

きとて 1) 来て居て 2) 着ていて [用例] 1) 先生な (が) はよ (早く) キトテ おらな (俺達が) 遅なった。

きどばん (木戸番) 【名詞】 興行の木戸で見張る人

きどふだ (木戸札) 【名詞】 興業の入場料を支払った証しに貰う木札 入場券の代り

きどら 【名詞】 着物道楽 又、その人 (志 (布施田)) [会話] 着るもん (物) あれ着い (着てみたり) これ着い (着たり)、買うのな (が) 好きで、派手なふう (格好) する人、キドラ。

きとらせん 1) 来て居ない 2) 着ていない [用例] 2) 服の下へ シャツ キトラセン

きとられ 1) 来て居ます 2) 着て居ます [用例] 1) おや (俺は) はっよおから (早くから) キトラレ。

きどり 【名詞】 建築に当って用材を準備し、切ったり削ったりする事

きどりや (気取屋) 【名詞】 体裁ぶる人 [会話] きどキドリやを言うんかい (言うのですか)。

きとる 1) 来ている 2) 着ている (津) [会話] 2) キトル言うな (のは) きもん (着物) キトルも有るし、1) 此処え来ておんのを (居るのを) キトル言う。

きどる (気取) 【自ラ五】 体裁をかざる もったいぶる 偉そうにする。[会話] べつんも (特に) わしや (私だ) まあ わしや 言うて かしこぶとんのをな (偉そうにふるまうのを) キドットル (ている) 言うて、威張とんのをな キドル言うてな。

きどる (木取) 【他ラ五】 家を建てるために、木材を切ったり、削ったりすること [会話] 大工小屋できい (木) を、キドルのを、小屋組しとる (して居る) 言うし。

きとれ 1) 来ていなさい (鳥 (浦村)) 2) 着ていなさい [会話] 1) 其処い (え) キトレよお おんな (俺が) 行くよって (から) 言うたりな、2) わたこ (綿入れ) キトレよ、さぶい (寒い) よって 言うたり、今日はどいらい (大変) さぶいよって オーバキトレよとか 言うのも、キトレ言うのな。

きとんの 1) 来て居ます 来ているのです 2) 着ています 着ているのです

きなある 関心が有る 心が傾く 恋心を抱いている [会話] キナル言うな (のは) ちょいと (少し) 人ん (に) 惚れとて (ていて) 気な (が) あってまあ言うてな。 ちょいと 惚れとんのをな (ているのを)。有れど心は いや心言うて。

きなおぼたい 物事をするのに、気が進まない 億劫である [会話] キナオボタイ、気な (が) 進まん事をな、今日は まあ、キナオボトオテ (たくて) 言うてな 気な (が) おもとおて、今日は、なんも (少しも) したないんよお (したくない) 言うて。

きなきく よく気がつく

きなきれた 気前がよい

きなきれる 気前がよい さっぱりしている [会話]

気前な (が) ええ (よい) 言う事 キナキレル

きなくさい【形容詞】 1) 紙、布、綿などの焦げる匂い
がする。こげくさい (志 (鶴方、浜島、布施田、甲賀)、鳥、桑市、安、北) 2) 戦争や事件など何か物騒な事が起こりそうだ なんとなく怪しい うさん臭い [会話] 1) キナクサイ言うな (のは)、着るもん (物) を焼くと 変なかざ (匂い) がするわい (します)。これのかざは 又、ほか (他) の焼くのと違うの (のです)。そやもんで (それで) この匂いな (が) すると キナクサイなあ (でないか)、焦げ臭いのと違うんてや (違うのです)、キナクサイのおは (のは)。着るもんを焼いた時のかざ なあ (が) 違うの (のです)。そやもんで (それで) この かざ な (が) すると キナクサイやんか (でないか)、そや (それ) ええんか (良いのですか) 言うて。キナクサイ言うな (のは) 着物やどけな (など) 焦げるキナクサイ。焦げるかざ は (が) すかん (嫌な) ねてや (のです)、着るもん (物) な (が) ちょいと (少し) ひいな (火が) 飛んで 焼けると、どいらい (大変な) かざ な (が) するわい。それを キナクサイ。ほかの焦げ臭いのや (で) なしん (なくて) 着物が燃えとんの (て居るの) キナクサイ。着るもんな (着物が) 焦げんのは (焦げるのは) 違うんてや、そやもんで (それだから) キナクサイやんか (ではありませんか) 着るもん (物) へ 火、飛んどらせんか (飛んで居ないか)。磯 (海女作業) 行くと火な (が) ぱちぱち 飛ぶと、キナクサイやんか きもん (着物) な (が) 燃えとらせんか (燃えていないか) 言う。

きなきれん。きなきれんなあ 吝だ 気前がよくない

きなこまめ (黄粉豆)【名詞】 大豆 [会話] 豆のこお (粉) でも、家で、キナコマメ言うの (のを) 作って ああおいのおを (青いのを) そや (それは) 黄粉専門にする豆で、匂いな (が) ええんてや (よいのです)。

きなさおぐ 胸さわぎがする 悪い予感がする [会話] キナサオグ 今日は まあ なんやら (なにか) わり (悪い) ことな (が) あるかして (有ると思えて) 心さおぎ (さわぎ) な (が) して。 むなさおぎ (胸さわぎ) な (が) して 言うのも一緒やわい (です)。 なんか (なにか) 気掛かりん (に) なる事な (が) 有るとなあ、あんな (彼が) どげないかいなあ (どんなのだろうか) 言うて 心配事な (が) 有る事なあ (です)。気掛かりん (に) なって、むなさおぎ な

(が) する言うてな 心騒ぎな (が) するとかな キナサオグ。

きなさおんで 心さわぎがして

きなし (気無)【名詞】 気の利かない者 その気の無い者

きなすすまん 気乗りしない 何かの刺激を受けても、気分が引かれない [会話] キナススマンで なんも (少しも) したないのと (したくないのと) 気なな (が) おもとおて (重くて) まあ 言うのも一緒。

きなすすむ 心がはやる やる気になる [会話] キナススム 言うな (のは) 今日は 物凄い (く) 気持なな (が) よおて (よくて) あれも したろかいなあ (してやろうか) 此もしたろかいな おもて (思っ) すんのを (するのを) キナススム。

きなせく 心ぜわしい 物事を早く実行したくて、心が落ち付かない [会話] 今日は あれせなはさんのん (しなければいけないのに)、夕方まで あしこい (あすこえ) 行かんならんのん 言うて 気な (が) せける (急ぐ) 事をなあ キナセク言うなあ (言います)。

きなちる 気持が一つの事に集中しないで、いろいろの事に心が引かれる。注意が散漫になる [会話] 勉強しとんのん (しているのに) あんな (彼が) 来て、喋り こんな (これが) 来て、喋りする キナチッてまあ言うて。

きなとがめる 良心の呵責が有る 心にかかる (志 (布施田))

きなはる 緊張する

きなふってこよおな 気が狂いそうだ

きなふる 気が狂う

きなない する気持がない

きなもめる 気持ちが苛立つ 心配だ [会話] キナモメル言うて、はよ行かな (早く行かなければ) 仕事なな (が) 出来やせん (出来ない) とか、時間な (が) 来るとか、言うて きい (気) だけ、もむのなあ (のです)。 きいな (気が) あせる事を キナモメル、あれ したらな (しなければ・してやらなければ) はさんのん (いけないのに)、はよ (早く) 雨な (が) 降って来ん (こない) うちにせな (しなければ) キナ モメンナア言うて、そいな (そんな) 時使うやんかい (使います) キナモメル言うな (のは)。 早よせな 雨なな (が) 降ってくられ (来るぞ) きい (気) もおでせな (もんでしなければ) 言うて、キナ (ガ) モメル言うのなあ (のです)。

きなり(着形)【名詞】 着姿 着物を着た格好 様子
[会話] 着た格好 キナリ言うやんかい(言います)。
キナリな(が) わりなあ言うねんなあ(悪い言うのです)。

きななる 気持ちがいらいらする [会話] いらいら
すんの(するのを) いらいらしてくんのを(来るの
を) キナワナル。

きにあたる 気に障る [会話] 人な(が) キニアタル
とも 何とも思わんで(思わなくて)、ぱっぱつと言
う人 ゆうたいこいゆい。

きにくわん 気に入らない 腹立たしい [会話] わが
と(自分) ちょいと(少し) キニクワン事な(が) 有
ると、それを ねたんして(原因にして) したい放題
しとると(していると)、あや、ぐれとんねど(彼は
ぐれているぞ)。

きにとまる 気になる

きにとめる その事に こだわって忘れないで居る 心
にとどめておく [会話] そいな(そんな) 事 キニ
トメンと(止めずに) 聞き流しときやええわれ(てお
けばよろしい) 言うて よけ(あまり) 心配せんと
(せずに) 言うのを キニトメント 言うのなあ。キ
ニトメントとかな(ておかずに) 聞き流しんしときや
ええわれ そいな こと キニトメント 言うてな。

きにとめん 無関心 心配しない 気に掛けない [会
話] わいげの(お前家の) しゃじまのおこな(爺い
が) おるわい(居ます) 言うたら、爺やん なんも
(少しも) キニトメン人やけど(だが)、俺ん(に)
しゃじまのおこや(だ) 言うた言うて。

きによお(きによふ)(昨日)【名詞】 昨日 きのうの
訛 キス(昨日)の日の略転(大言海)(志、鳥(坂
手)、一、松、上、阿、張、熊) [会話] キニョオの
事 きんによや(だ) 言うて くいぎったる(食い切
ってやる) よおな言い方して。

きぬい(きぬひ)(着縫)【名詞】 着物を着たままでほ
ころびなどを縫う事 [会話] きとておって(着てい
ながら) 縫うのなあ(です)。ごおじ(小使)の嬢な
(が) こおもおけて(子産んで) やれ 忙しや(忙し
い) キヌイする言うて、きとて(着ていて) 縫うのを
キヌイや(です)。なつとも言わんと(なんとも言わず
に) 縫うと はざん(いけない) ので ちょいと(少
し) 言うと 災難を逃がれるよおな意味で それを言
うてわな(言うそうです)。

きぬいと(絹糸)【名詞】 二枚貝が岩礁につくため、ま
たは、互いに結びつくため出す青い繊維質の物。[会

話] キヌイと言うななあ(のは)、貽貝の尻いなあ
(に) 島い(え) むしりつくの(とり付くのを)。キ
ヌイト 島い(に) ひつついとたら(ていたら) なか
なか、いっしょけんめで(一生懸命で) 力でも取
れやせんね(取れないのです)。貝な(が) 岩え 付
くのん(のに) 青いよおな ほっそおい(細い) キヌ
イトみたよんしとるわい(のようにしています) キヌ
イトみたよなのおな(のようなのが) びたつと ひつ
ついでくねよって(て行くのだから)、のみでつつか
な、切れやせんね(なければ切れないのです)。

きぬてぐさ【名詞】 天草 きぬくさ 濃紅色。体系は
細線状、あるいは糸状、太さ1mm内外、枝打ち少な
く2~3cm間隔に互生、又はやや叉状に分布。手ざ
わりは柔らか、体高25~30cmに生育。寒天材料
として優良種。[会話] キヌテグサ言うな(のは) 絹
糸みたよんしとるやんない(のようにしてしていしょ
う) そすと、おばは、ひらくとおなとるやんか(平
らになっています)。おばは ふかり(深い所)に生
えんのなし(るのですし)、キヌテグサ 今しや(今
は) 種つけるもんで(ので) あさみん(浅い所に) 生
えるやんない(でしょう)。そやもんで(それで) そ
ればつか(そればかり)で、おばは ふっかいんやん
かい(深いのです)。こげた引きん(に) 行くと お
ばな(が) よけかかりおったけど(沢山掛って居た
が)、おばは 生えとるとか(所は) ふっかいね(深
いのです)。キヌテグサは 今しや(今は) 種付けす
んねやんかい(するのです)。そやもんで(それで)
あさみい わがとらな(自分達が) 好きなとこい(所
に) 種付けるやんない。そやよって、今しや(だから
今は) キヌテグサばつか(ばかりです)。

きぬぶるい(きぬぶるひ)(絹篩)【名詞】 底に絹の布
を張った目の細かな篩 ふるい すいの

きねんさい(祈念祭)【名詞】 大漁を祈って、海女、海
老網漁師、一本釣りの漁師等、各々の仲間が漁の解禁
前、或いは年の始めに神社で祈願する行事 [会話]
祈願祭と一緒やなあ(です) キネンサイも。

きのおきよお(きのふけふ)(昨日今日)【名詞】 まだ日
の浅い事を例える つい最近 近頃 [会話] そいな
こた(そんな事は) キンニョヤ(昨日や) キョオの事
やろかれ(でない) 昔の事やれ(だ) キンニョヤ、キ
ョオ始まった事やろかれ。そやなあ(それは) ずっと
昔の事やれ(だ)。キノオキョオ言うのは 最近のこ
と。

きのきれた 気前のよい [会話] 施し言うて 死んで

も、金持ちやもんで（なので）皆 施しする。金持ちのキノキレタ家やなけな（でなければ）、金持ちでも欲な家はしやせん（しません）。

きのくい 1) 来るのがむづかしい 2) 着るのがむづかしい

きのどく（気毒）1) 恐縮です 2) 心配 心痛 [会話] 1) そえんよけ（そんなに沢山）もおて（貰って）キノドクななあ（です）。

きのどくなことで。きのどくに 凶事の挨拶（阿）

きのないやまぶしや せんちゃでほらふく【俚諺】気の無い山伏は便所で屁をする、する気のない人を卑しめて言う。屁の音と、法螺の音とをかけて有る [会話] 山伏や（は）山いいて（に行って）法螺吹くやんない（でしょう）、ぶうぶう言うて。そやけど（しかし）気の無い山伏や（は）せんちゃ（便所）で、ぶうぶう言うて へえひとつんのを（屁しているのを）法螺吹く言うんやんかいのお（言うのです）。キノナイヤマブシヤ センチャデホラフク言うて あの気の付かんもん（付かぬ者）らは 気な（が）きかんもんな（者が）おると 嫌味みたよん（のように）気の無い人を なあ そげん言うて 言よおったけど（言っていました）が 気のきかん人を。

きのまま 1) 思うように 2) 着ているそのまま [会話] 2) きとる（着ている）まま 着のみ キノママで逃げた言うてな。1) 心の儘言うのも有るしなあ 心の儘言うのもな キノママ言うし、割木（薪）の上い（に）まま（飯）すえて きまま、木飯。

きのめ【名詞】山椒の若芽（志、鳥、張、伊）

きのめづゆり【名詞】木に新しい芽が出る頃（三、四月）に降る長雨 [会話] きい（木）のめえな 出よと（芽が出ようと）する時んなあ（に）長雨な（が）降ると、こやまあ（これは）キノメヅユリやれ（だ）言うてなあ。キノメヅユリや（は）三、四月やわいなあ（です）。きい（木）のめえな 出る時は 八十八夜ん（に）なると 皆、ふいて来るよおなもん（もの）でなあ。そやよって（それだから）そいな（そんな）時ん（に）長雨な（が）降ると キノメヅユリや（だ）とか なたねづゆりとか言うて。

きばい（きばひ）きばえ（木灰）【名詞】木を焚いた時に出来る灰 あく抜きなどに使用する（南、熊）[会話] よごめのあく抜く時は キバイでも 藁灰でも ええの（よいのです）。きい（木）の灰。

きばえ（着映）【名詞】身につけた時、衣服がすばらしく見えること [会話] キバエな（が）する言うな

（のは）、きもんきとて（着物着ていて）着晴れな（が）する言うのを キバエな（が）する言うて。きもん 着ると 物凄いよおにおて ええなあ（よく似合ってよい）言うのをな キバエな（が）する。せんだくもん（洗濯物）着ても きばれなしてなあ言うて 着晴れとか 着映えとか言うのな（です）。映える言う事やもんなあ（だから）キバエ言う事。

ぎはぎ【名詞】海魚 かわはぎ（四、鈴市、伊）

きばこ（木箱）【名詞】1) 火を焚く所の側におく、つけ木を入れる箱 2) 木で作って有る箱 [会話] 2) きい（木）の箱 キバコ てばこ言うよってんなあ（手箱言います）。葉箱、手箱、きい（木）の箱い（に）櫃もきい（木）でこさえて（作って）あつてなあ。

きばさみ（木鋏）【名詞】剪定用の鋏（上、阿）[会話] きい（木）鋏む キバサミ 植木鋏の事な（です）。キバサミ。

きはづかし（きはづかし）（気恥）【形容詞】何となく恥づかしく感じる きまりが悪い 面映い [会話] キハズカシ言うな（のは）恥づかし事をな うれしはづかし（嬉しい恥づかしい）言うんかい（言うのですか）。

きはだ（黄肌）【名詞】きわだ きはだまぐろ サバ科の海魚。全長3m、体重200kgに達す。体は紡垂形、背面は青黒色で、腹面は白く、体側は黄色味を帯びるが、鮮度が落ちると消える。第一背鰭以外の鰭は濃黄色で第二背鰭と尾鰭は鎌状に伸びる事が多い。肉は桃色で刺身などにする。死後あまり時間の経過しない間は体側に黄味があり きわだ（きはだ）の名が適当と考えられるが 普通市場に出て居るものにはこの黄色は殆ど見えない（志、鳥、南、熊）

きはだいろ【名詞】黄色がかった色 きはだ参照 [会話] きい（黄色い）よおな肌しとると（して居ると）キハダイロ しとんなあ（して居る）。

きばたらき（気働）【名詞】時に応じて心が敏速に働く事 気が働く事 機転（志（布施田））[会話] あのひた（人は）キバタラキな（が）よおてなあ（よくて）気な（が）きいとて（ていて）言うてな。 あや（彼は）うとんぼ（のろくて）で キバタラキな（が）のおて（無くて）あれもしたやええのん（したらよいのに）おもてまあ、しやせんし（思ってももしないし）もおちよいと（少し）あれすやなあ（すれば）おもとても したる（してやる）言う気持ちなないのな キバタラキな（が）無い。口で言わんでも

(言わなくても) する人は あや (彼は) キバタラキ な (が) 有る言うしな それ言わな、せん (なければ
しない) 人はなあ キバタラキな (が) 無いねよっ
ん (のだから) 言うてな。

きはつ (揮発) 【名詞】 揮発油の略 [会話] 揮発油
キハツ言うて 揮発油な (が) 有りおったやんかいの
お (有りました) きもん (着物) 襟 汚すと拭く キ
ハツ。

きばってくれ 1) 努力して下さい 2) 気前よく金を出して下さい [会話] 1) もおちよいと (少し) キバ
ッテクレエ (下さい)。今日は、おそおなってく
けどのお (遅くなって行くけれど) 言うてな、まあ 決
り仕事やよって (終わる仕事だから) もおちよいと
キバッテクレルかい (くれますか)。努力してく
れ (下さい) とか、もおちよいと 仕事して呉れ (下
さい) 言う事をな キバッテクレエ。2) もおちよいと
よけ (沢山) 出して呉れ言うのも キバッテクレ ち
ん (賃金) を気張って貰うのな (です)。

きばむ (黄) 【自マ五】 色が黄色がかって来る ハムは
ハ (端) の活用。様子がそれと見える意 (大言海)

きばや (気早) 【名詞】 気のはやい人。人の意見を最後
迄聞かず早合点して行動する人。

きばらし (気晴) 【名詞】 うさばらし 不愉快な気持ち
をさっぱりと取り除くこと 気さんじ [会話] キバ
ラシん (に) いてこおか (行つてこようか)、まあ
伊勢参りん (に) 行てこおか キバラシん (に) 其処
らい (え) いて (行つて) 遊んでこおかあ (こよう
か) 言うてなあ。キバラシん (に) いて (行つて) 一
杯やって来るとええね (よいのだ) 言うて 男ならな
あ。

きばる (気張) 【自ラ五】 1) 励む 精出す がんばる
よく働く 元気を出す 努力する (志 (浜島、布施田、
鶴方、神明、立神、志島)、松、員、桑市、安、多、
上、阿、張、名、度、伊、北、南) 2) はずむ (賃金
などを) 気前よく金を出す (志 (布施田、浜島)、上、
阿、名) 3) 威張る (鳥、松、桑市、員、鈴市、安、
津、多、度、伊、北、南) 4) 言い張る [会話] 1)
キバル言うな (言うのは)、仕事してきばってしたろ
や (してやりましょう) 言うのも有るし、何かして
いきずんだりすんのなあ (息詰めたりするの) キバル
言うやんかい (言います)。便秘しとて (して居て)
いくら、いきずんでも (力入れても)、キバッテモ、
出やんで言うやんかい (出なくて言います)。いきず
む言うな (のは)、力仕事する時 キバッテ 力入れ

過ぎて、うんと持つの (のです)、力入れてすると、
キバッテ しょんべん (小便) ちびったたれ (てしま
った) 言うて よおうわい (よく言います) おなご
ら (女) は、2) キバル 気前よおんやかや (よく何
か) 物くれるのに ひよ (給料・日雇いの給金) でも
キバッタルワ (てやる)、ねえよお (値よく) やる事
を。五千元やけど (だが) キバッテ七千元やる。ぱっ
と はりこんで なめみそしるで きばって 七千元
はるたれ (払ってやれ・支払ってやれ) 言う事を キ
バル言う。

きばれ 1) 努力せよ 大便、お産などの時、腹に力を入
れて頑張れ 2) 金銭を多く出せ [会話] 1) キバ
レ言う と 仕事をキバレとか 2) 賃キバレとかな 努
力せえ (しなさい) 言う事やなあ (です)。

**きばれ (着晴) 着物を着た時、衣服がすばらしく見える
こと** きばえ [会話] でたちな (が) ええ (よい)
事なあ キバレなして言うて。

きび (気味) 【名詞】 気味 心身に感ずる事 その感じ
た心持ち 気持ち 感じ キミ (気味) の転 (大言
海) (北、尾)

きびし (厳) 【形容詞】 人に対する要求などが激しく容
赦がない [会話] 仕事な (が) キビシなあ。そげん
したらあかん (そんなにしたらいけない) それは、こ
おせなあかん 言うて、きぶい (きびしい) のおも有
るしなあ、仕事よけせえ (沢山しなさい) 言うて、こ
れもしてくれ あれもしてくれ言うて 追い掛けんの
を (るのを) 仕事な (が) キビしい言うのも有るし、
勉強すんの (するの) でも 勉強せえ (しなさい) せ
え 言うて キビシク言われるとかなあ。

きびしょ。きびす 【名詞】 急須 土瓶 煎茶器の一つ
急焼、或いは急備焼とも書き これをきびしょう 又
は、きびしょとも言つて居る。元々は酒の燗をするも
のであったが、江戸時代日本に伝わって以来煎茶器と
して用いられるようになった 急焼の唐宋音 きゅう
しゃ の転 急須、きゅうす 煎茶をいれるのに用い
られる器具 葉茶を入れ湯を注いで煎じ出す 普通小
形で横に取つての付いたものを言う。もと中国で燗に
用いた器で日本に伝わって煎茶器になったと言う 急
場の時に用いるさま。急場に必要なもの (志 (浜島、
鶴方、神明、立神、志島、国府、安乗)、鳥 (鳥羽)、
桑市、員、三、四、鈴市、安、津、一、多、上、阿、
張、名、度、北、南) [会話] キビショ言うな (の
は) お茶をたてる時ん (に) 小さいの、きゅうすを
キビショ。きゅうすの事を キビショ言うのなあ (の

です)。

きびす (鱈) 【名詞】 かかと、くびびすの音転、きびびす 再転じてきびすとなる (大言海) くびびすは、くびびは、クビクビ (縊頸) の約、スハスエ (居) の下略 (志 (神明、志島、国府)、鳥、松、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、亀、安、津、一、飯、多、上、阿、張、名、伊)

きびって 惜んで 吝って

きびなご (吉備奈仔) 【名詞】 きみいわし ウルメイワシ科の海魚 全長10cmに達す。体はイワシ型で細長く、頭部は鋭く突き出る。全体に黄白色で、背部は青みを帯び、体側に幅広い銀白色の縦帯が有る。食用にする。他、釣り餌にもする。(三重県全域)

きびなわり (気味悪) 【形容詞】 気持ちが悪い なんとなく恐ろしい [会話] 気味な (が) わり言うて 気色な (が) わり (悪るい) 言う事を あの人、なんやら (なにか) 気味な (が) わり (悪るい) 様な人やなあ (だ) 言うて なんやらすかん (なにか嫌な) 様な、嫌味言うたり 人の気になる様な事言う人 キビナワリ人やなあ (だ) 言う。

きびや (木部屋) 【名詞】 薪を入れる小屋 又は屋根裏の薪を入れる所 (志 (片田、布施田、立神、甲賀、安乗)、鳥 (国崎)、南) [会話] 家ん (の) 中ん (に) 有るとこ (所) を きよくば言うだけで、あの納屋やどけい (などに) きい置いとくところを (木置いておく所を) キビヤ。ひらき (開き戸のある物入れ場所)、押し入れみたよなとこい (のような所へ) 割木積んだりすると、キビヤいて (行つて) 割木出して来いとか言うて、だいどこ (台所) にあんの (あるのは) きよくば、外ん (に) 有んのは キビヤ。

きびよお (きびやう) (気病) 【名詞】 心配事や、気ふさがもとおきる病氣 [会話] あんして (あんなに) すると、罰な (が) 当たるとか、こげん (こんなに) してしたや (したら)、神さんのたたりが有るとか言うて キビョオ病むのを おはらいかずき。

きびよおやみ (きびやうやみ) (気病疾) 【名詞】 気病を病む人 気の病にかかつて居る人 わずかな事を気にする人 (志 (神明、立神)) [会話] キビョオヤミ言うな (のは) 神さんの事でも なんでも 気にする人な (です)。キビョオヤミ。神さんえ 今日是指るひいやのん (日だのに) 指いらつたのん (なかったのに)。おとっしや 墓いも (にも) 指るのん 指いらんとおる言うてな、きい (気)、病む人 キビョオヤミな (です)。気にする人をな キビョオヤミ あの

人 キビョオヤミで ちょいとした (少しの) 事も気にして言うてな。

きびる 物惜しみする けちけちする きびしと関係有る語 [会話] 物キビル、惜しむ事、くれ (下さい) 言うても 惜しむのおを (のを)、キビル言うね (言うのです)。

きびる くくる [会話] あらなあ (粗縄) で キビツテあんね (有るのだ)。

きぶい 【形容詞】 1) 厳しいの転か 厳しい 激しい 強烈である 容赦ない 食べ物の味の刺激が強い 厳格である 険しい (志 (布施田)、上、阿) 2) 吝だ (飯) [会話] 1) キブイ、人使いな (が) キブイなあ。人使うのん (のに) 時間な (が) 有るうちん (間に)、これもして あれもして言うの (のを) キブイ。学校いいても (へ行つても)、先生な (が) キブイ言うて、先生ん (に) 怒られると、キブイ先生やなあ (だ) 言うて。2) 勘定高いやなんや (けちくさいだとか) 言うのは、よくしんぼ (欲張り) で 勘定高おて、言うて キブイ言うのと 又、違うね (違うのです)、勘定高おて しぶちんの事を、しぶちん言う と 欲で (欲張り) けちんぼで 出ししぶるのを そげん言うやんかい (そんなに言います)。

きぶうて きびしくて 吝で

きふく (気伏) 【名詞】 気持ち 思った通り 承知する事、納得する事 [会話] キフク言うな (のは) わがとな (自分の) 気持ちでまあ わがとなおもた (自分が思った) よおにする言う事をなあ、こんだけ (これだけ) 寄付しょお、おもたら (思つたら) あんたな おもた (貴方が思った) 通りん (に) して呉れ言うのなあ キフクにまかす言うてなあ。まあ キフクん (に) 任すわい (任せます) 言うてな まあ わがと (自分) 迷よた (迷つた) 時にや (には) そげん言うんなあ (そんなに言うのです)。キフク言う と 気持ちやなあ (です) あんたな、おもた 通りん (に) してくれや ええやんかい (くれればよろしい) 言うてな。

きふくにまかす 思った通り 心のままに 気持ち通りに [会話] 寄付貰うのん (のに) 幾ら言うて言われやせんし (言えないし) まあ あんたな (貴方の) キフクニマカスわい。きふく通りん (に) してくれえ (して下さい) とかな 思い通りん (に) してくれえ言うのを。

きぶくれ (着膨)。きぶとり (着太) 【名詞】 1) 着物を着ると太って見える事 2) 厚着をして太って見える

事 [会話] ₂) きもん、よけ (着物沢山) 着て 体は瘦せておってな (居るのに) きもん (着物) で ふとって、キブトリな (が) しとる (している)。きもん、よけ 着て、太とんの (ているのを) キブトリ言うんな (言います)。

きぶとん (着布団) 【名詞】 掛け布団 上に着る布団 上布団 (飯) [会話] 掛け布団の事 キブトン 敷くのを 敷布団。

きぶり (着振) 【名詞】 衣服などを着た時の様子 [会話] キブリな (が) よおて (よくて) 言うて。

きぶる 吝吝する 出し惜みする

きふるし (着旧) 【名詞】 着て古くなった着衣、古着

きぶん (気分) 【名詞】 心持ち 気持ち [会話] キブンな (が) ええ (よい) 言うて、今日は、頭もええし (よいし) 腹のかげん (調子) もええし キブンな (が) ええ 言うのな 気持ちな (が) ええ 言う事。

きべや (木部屋) 【名詞】 薪を入れておく部屋 きびや 参照 (志 (甲賀、浜島)、鳥 (長岡)、熊)

きばく (木木) 【名詞】 堅くてまっすぐな物

きばくんなとる 体が硬直している。陰茎を硬くしている

きばね (気骨) 【名詞】 心遣い 気苦労 心配 [会話] キボネな (が) おれる言うて 人な (が) おって (居て) あげんもせなはざん (あんなにもしなければいけない) こげんもせなはざん (こんなにもしなければ駄目だ) おもてなあ (思って) キボネな (が) おれる言うのなあ。人な (が) おると (居ると) キボネな (が) 折れんなあ (る) 言うて。

きばねおる 心掛ける 注意している 気に掛けて心配する (員) [会話] キボネオル 言うな (のは) 気使いする 言う事やわいな (です) 注意しとる (している) きい (気) にかける。

きばねなおれる 気苦労だ (志 (布施田))

きまい。きまえ (気前) 【名詞】 気持ち 性質 気性 (上、阿、尾) [会話] キマエよお (よく) 皆、くれておこした (くれてよこした) 言うて、さっぱりとこれもくれる (やる・与える)、あれもくれる、言うの (のです)。キマエよお、なんもかも (よく何も彼も) 皆、くれて言うて、物を惜しんどらんと (惜しんで居なくて) キマエよおて (よくて) なんもかもくれておこした 言うて。

きまかせ (気任) 【名詞】 その時の自分の思いのままにふるまう事 [会話] わたしや (私は) お前のキマカセや (だ) 言うてな 心まかせ キマカセも一緒やわ

いな (です)。

きまつた 1) 決定した 約束が成立した 婚約が成立した (鳥) 2) 仕事が終わった 終了した [会話] ₂) 仕事な (が) キマツタナア 今日は、あれもしてこれもしておもたや (思ったら) そんでも (それでも) 皆、キマツタナア言うて 終わる事をなあ (です)。

きまつて (決) 【副詞】 1) 必ず いつも 動詞きまる (決) の連用形に接尾助詞でのついたもの (志 (布施田)) 2) 仕事が終わって [会話] ₁) キマツテ 今日は来るおもとたてや (思っていました) 言うてな、絶対な (です)。間違い無く、キマツテ言うこた (事は) 間違いなく。

きまつとられ きまつている 当然だ きまつとる 参照

きまつとる 当然だ 当たり前である (志 (甲賀)) [会話] キマツトラレ言うのも キマツトル言うのも一緒やなあ (です)。そやなあ (それは) そげな (そんな) 事、言わんでてな (言わなくても) キマツトル事やんか (でないか) キマツトラレ言うてな 判つとる (ている) 言う事な (です)。そいな事言わんでも判つとる 言う事をな キマツトル そげな (そんな) 事言わんでて (言わなくても) 判つとられ (ている) キマツトル事やんかあ (でないか) 言うて。

きまま (気儘) 【名詞】 気持ちの向くままに行動すること 任意 我儘にふるまう事 [会話] キママにやつとけ (しておけ) 言うてなあ 我儘なことを キママな (だ) 言うんやろ (言うのでしょうか)。そして 気楽にする事をなあ キママに遊んでまあ言うて 好きなよおんしとる (ようにしている) 言う事をなあ キママ。

きままこき。きままもん (者) 【名詞】 気儘者 勝手者 (志 (神明、布施田)、鳥 (答志)、上、阿、張、名) [会話] キママコキ言うな (のは) 我儘言うて (言つて)、これもはざん (いけない)、あれもはざん、どげんせなはざん (どんなにしなければいけない) 言うて、わがとな思た (自分が思った) 事を、皆な (が) 思た (思った) 通りしょお (しましう) 言うのを、人の言うこた (事は) 聞かんと (聞かずに)、我儘言う言うやんかい (言うではありませんか)。我儘言うてわが (自分) 思う事ばつか しょお 言うにげ (人間) を、我儘で わがとばつか (自分ばかり)、よけやええね (良ければいいのだ) 言うて キママモンや言うて。

きまめ (気忠実) 【名詞】 諸事によく気がつき 気軽に立ち働くこと

きまもり 【名詞】 葉に隠れて見えなかったため取り残された梅の実。梅だけでなく、すべての果物に言う。

きまり (決) 【名詞】 1) 決着 終了 終る (上、阿)
2) 約束事 順序 3) 他人に対する気持ち 面目
[会話] 1) 仕事が終わりになった時とか、2) 物を これは、こげん (こんなに) してすんのな (するのが) きめや (だ) 言うて、キマリ言うのやなあ (です)。仕事な (が) 終わった時 きまった言うし (言います)。相談事な (が) きまる時でも きまる言うて まとまった (意見が一致した) 事を。相談事な (が) まとまる、キマリ (決定した) 言うし、えごときまったれ (完全に決着した) 今度の 何日になん (何) して、言うて、きめる事を いっかこや (何日には) どげん しょおやね (どんなにしましょう) 言うて、相談する事を きめたねよって (のだから) こげん (こんなに) して、しょおや (しましょう) 言うて。仕事な (が) 終わったの (のを) きまったなあ こんで (これで) ひときりやなあ (一区切だ) 言う時ん (ん) キマリ言う。

きまりきつとる 【自ラ五】 確定して居る いつも同じである 前からわかって居る 当然である [会話] そやまあなあ 言わんでてな (それは言わなくても) キマリキツトル事やんかあ (だ)。今日くんのな (来るのが) 判とんのおに (ているのに) 言うてな、判とる (ている) 事 キマリキツトル。

きまりしごと 【名詞】 1) それで終了する仕事 2) 始めから程度の判っている仕事 (志 (布施田))

きまる (決) 【自ラ五】 1) 当然である 2) 終る 仕事が一段落する 3) 婚約が整う [会話] 2) 終わる言うこと えごと (完全に) 仕事な (が) 終わった言うの (のを) キマル言うてな。

きみ 【名詞】 きみいわし きびなご うるめいわし科の魚 細長い小魚で全長10cm位にしかない 体側に銀白色の巾の広い縦帯が有りその背側に青色帯が有る。腹面は丸みを帯び稜鱗がない (志、鳥、度、北、尾、熊)

きみいも 【名詞】 炊いた時 身が黄色の薩摩芋 [会話] キミイモでも ちょいと (少し) こおな (粉が) ふくのおも (のもの) 有るし、びちよびちよ やいこいのおも 有るわい (柔らかいのも有ります)。キミイモ きいよい (黄ろい) 色しとるもんで (しているので) キミイモ言うて、きんこ 炊くと おいしいてなあ。甘い

の 甘味な (が) 有ってすんの (するのです)。きんこん (に) すると 美味しいてなあ そして 炊いても 甘かりおったけどなあ (甘かったのです)。

きみいわし 【名詞】 きみと同じ (志 (布施田)、鳥、度、北)

きみしらず 【名詞】 魚の類の部の肉

きみなご 【名詞】 きみに同じ (鳥、尾)

きみなり 着た姿 格好 [会話] キミナリな (が) 悪りと (悪いと)、人目な (が) わりわれ (悪い)、もつと、ええ (良い) 格好せえまあ (しなさい)。着なり言うんやんかい (言うのです)。着なりな (が) わりなあ 言うねんあ (言うのです)。

きみなわり 気味が悪い

きむくつとる。きむくる 厚着する [会話] きもんよ け (着物沢山) 着ると キムクツトル言うてな おおた 〇〇さん きもん (着物) キムクツトル言うて。
きむつかし (気難) 【形容詞】 自我が強くて神経質で容易に人に同調しない きむずかしい [会話] いろんな事 小言言うて むずかし事言うのを こむずかし、キムズカシ。

きむづかしや (きむずかしや) (気難屋) 【名詞】 気難しい人

きめ (肌埋) (木目) 【名詞】 1) 皮膚 (物の表面) の性質 2) 粉の細かさ (大小) [会話] 1) キメ、きじのええ (良い) のを キメな (が) こまかい (小さい) とか、着るもん (物) でも 薄地のもん (物) を キメな (が) こまかい、ドンゴロスみたいなのお (のは) キメな (が) 粗い2) メリケン粉やどけの (などの) キメな (が) こまかい (小さい)。キメな (が) こまかいて (小さくて) うまいなあ言うて こおなちっさいと (粉が細いと)。

きめ (決) 【名詞】 約束 さだめ 掟 動詞きめるの連用形の名詞化 (志 (布施田)) [会話] こやってして、きみよやんかあ (決めましょう) 言うてな、こえんして (こんなににして) キメた事やよってん (だから) その通りん (に) しょおやんかあ (しましょう) 言うてな キメた事を 約束した 約束を、キメたんよって (のだから) 言うてな。

きめごと 【名詞】 掟 皆で決定した事 [会話] キメゴトを さだめごと (掟事、決定)、なんやかや (いろいろ) こげんしょおや (こんなにしましょう) 言うて きめんのを (掟めるのを)。

きめこむ (決込) 1) きめつける 理を言いたてて人に物を言わせないようにする 2) 物事を決定する

3) おしゃれする (志) [会話] 2) なんやかやを こげん (こんなに) して、しょおや (しましやう)、今度の休みにや (には) 言うて、決める事 キメコム。
1) 人を やっつけるよおな時も、キメコム 言い負かしたる (てやる)、言いまげられた 言うけど (けれど)。そげん (そんなに) したらはざん (駄目だ) こげん (こんなに) したらはざん 言うて わが (自分) 言う事たてると (押し通す) 言いまげた (てやった) 言うて。

きめじ【名詞】 海魚 きはだまぐろの小 (鈴市)

きめたらん 仕上げてしまおう [会話] 今日は 此の仕事 キメタロン おもたけど (思ったが) 出来ざった (なかった)。

きめつける (極付)【他カ下一】 1) 強く叱りつける 問いつめる 2) 一方的にに断定する 命令的な言い方をする [会話] 2) きちっと はっきりと言うの (のを) キメツケル言うのなあ。此れは こげん して せえよお (こんなにしてしなさい) 言うて 言うのをなあ キメツケテ言うてなあ まあ 絶対ん (に) おんな (俺の) 言う通りん (に) せえよお 言うのを。

きめどこ【決所】【名詞】 1) きめどころ 物事の一大切な所 要所 2) 物事の決定をつけるのに都合のよい所 又、時期 [会話] 2) 此处が思案のキメドコロ 今し (今) キメドコやわい (だ) 言うやんかい (言います)。

きめる (決)【他マ下一】 1) 終る 済ませる (志 (布施田)) 2) 約束する [会話] 1) キメル 今日は こげん して (こんなに) して キメタラナ (てやらなければ) 言うてな、仕事を仕上げる事を キメル言うの な (です)。キメタラナマア 言うて こんだけ (これだけ) すると きまんねよってんなれ (終わるのだから) これ キメテから、おくわ (終ります) 言うて 終りん (に) なる事をな。2) 約束する 約束すんのも (するの)も、キメル言うなあ あした (明日) は何処そこい (に) 行こか (行きましょうか) 言うてな そして キマツタ時ん (に) いこ (行こう) 言うて キメんのを (るのを) 何時ん (に) いこ 言う キメん (に) したんよって (したのだから) 言うて。

きも (肝)【名詞】 1) 気持ち 2) 肝臓、又は内臓の総稱 [会話] キモクライよ そこな (そのの)、2) 魚のキモも、鰻のキモ飲むと めえなよお (目がよく) 見える 1) 子供らな (が) 言う事 聞かへんとな (聞かないと)、キモクライよ言うて 叱る時になあ キモクライや (だ) あや (彼は) 言うて そして と

とな (夫が) おぼ (情婦) 持ったりしてもなあ あや まあ (彼は) 嬢に キモくわして言うてな。

きもあえ (きもあへ)【名詞】 同じ魚の肝を味噌の中に入れ、その味噌で魚の身を合えたもの [会話] まんぼのきもと、味噌であえんの (あえるのを)、キモアエ言うてな。味噌あえん (に) するもん (するものを) 肝で、キモアエ言うんな (言うのです)。鳥賊でも ひつじ (墨) を 味噌とあえんのも (あえるのも) 肝と一緒にわいな (です) キモアエ言う。

きもいり (肝入)【名詞】 世話人 世話役 (志 (布施田)、北、熊) [会話] 世話してくれる人 キモイリドン言うて、あの人の キモイリで 世話してもろて (貰つて)。

きもいり (肝入)【名詞】 その魚の肝を味噌に混ぜ、身をその味噌であえたもの [会話] まんぼのきもみそまんぼのキモイリ言うてな まんぼの肝と味噌であえんの (和えるのを) きもあえ。

きもいりどん【名詞】 世話人、きもいり参照

きもいる (肝煎)【自動五】 1) 心配する 焦る 気持ちいらさせる 2) 腹を立てる 3) 世話する

きもいれ【名詞】 肩入れをする事 引き立てる 世話をする [会話] あの人な (の) キモイレで言うてな、世話してくれると これは こおしたらな (なければ) お前らこげんしとる (こんなにしている) これは こおしたれよお (しなさい) 言うて 言うてくれる人をな 世話やいてくれる人を キモイレ。

きもがち【名詞】 負けず嫌いの [会話] 負けず嫌いの にげ (人間) を キモガチ、人ん (に) 負けとんな (ているのは) 嫌いやもん (だ)。

きもがふとい 大胆で有る (張、阿)

きもくい。きもくらい【名詞】 心配ばかりかける者 面倒ばかりかける人 (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、甲賀、国府)) [会話] キモクライの のおたんよ (脳足りぬ、馬鹿者)、言う事聞かんで (聞かなくて) ものすごお、ごおなわいて (大変腹が立って)、肝もなんもかも食われたた (何もかも食べられてしまった) 言うて。キモクライよ そこな (の) のおたんよ 言うて、昔や (は) あんまり (あまり・大変) 言う事 聞かせんもんで (聞かないので)、ごんぞせかいて (苛らだたしくて) 肝も 皆食われたた (食べられてしまった) 言うて。男の子ら (は) 言う事聞かせんし (聞かないし) キモクライの はてん (最後に)。昔や (は) テレビや (は) 無いし、畠い (へ) いとると (行つて居ると)、わりことするやんない (悪い事す

るでしょう)。ふたんな(二人が)喧嘩して そおすと(そうすると) きもなよれるよおなんてや(ようです) ごおなわいて(腹が立って)来て。いくら 喧嘩すんな言うても(するな言っても) 喧嘩して、ごんぞせやれ(腹が立つ) のらに(お前) 言うて、キモクライの はてなしら(奴) 言うて。

きもくわす 驚かす [会話] ごおわかす(腹立てる) 言う事や(です)、腹立たす 言う事や。キモクワス 言うの(のは) 子供でも 言う事聞かへんと(聞かないと) 腹立って来るやろ(でしょう) その時ん(に) きもくらいよ言うて おこんの(怒るのです)。

きもたし(気) 勿体ぶって教えない 気を持たせる 期待させる [会話] 勿体ぶって 教えてくれやせん(くれない)、もたして(期待させて)、きもち(期待させて)して キモタシして 言うて。

きもたま(肝玉)【名詞】 肝力 気力 大胆 キモダマシイ(肝魂)の下略(大言海) [会話] 度胸な(が) ある人をな キモタマな(が) おっきい(大きい) 言うなあ。何事も おおば(大様) でしとんの(しているのを) 大様な人をな キモタマ。

きもち(気持)【名詞】 気をもたせる 期待させる [会話] きい(気) もたして なんもくれんと(少しもくれずに) 言うて キモチ させんのを(させるのを)。

きもちだけ 物を人にやる時の挨拶 少しだが [会話] ちよいと(少し) 志だけ言うのを キモチダケやけど(だが) これ取つといてくれえ(ておいて下さい) 言うのな(です)。少しの事を。

きもちなわり 1) 気分が悪い 2) 病気だ [会話] 1) 気分がわり(悪い) 言うの、今日は気分な(が) わりて(悪くて) 言うて。人ん(に) なんか(なにか) 言われて、今日は 気分 そこねた言うて、ごおなわく(腹の立つ) 事言われると。2) 何か 食べ過ぎて キモチガワリイ(悪い) とか、何か ちよいと(少し) いたんだもん(傷んだ物・腐った物)を いたんどるけどなあ(でいるが) 思て(思って) 食べた時に、キモチガワリなあ、なんやら(何か) なめなめ(べとべと)して キモチナワリなあ。つわりの時みたよおな(のような)それも キモチナワリ、そして 何か 食べて キモチナワリかった(悪かった) 言うし、なんも(何も) あたらんでも(中毒しなくても)、あたりもんな、せんでも(中毒も何もしなくても)、あれ 食うたや(たら) どいらい(大変) キモチナワリ。蛇 見たり むかで 見たりすると、キモチワリやろ(悪

いでしょう)、キモチナワリなあ あげなもん(あんな物) よお見やん(見ない) 言うて、キモチナワリて(悪くて) おら(自分は) よお見やんわれ(見ない)。

きもちのもん 気分次第 きものもん

きもつく(肝突) 驚く

きもと(肝取)【名詞】 病氣(結核)に人の肝が効有りと言う妄説から人の肝を取ると言う人(津、熊)

きもなふつとい 大胆である 度胸がある [会話] キモナ(ガ) フツトイ(太い) 言う訳や(です)。度胸な(が) 有るとか、腹な(が) おっきい言うな(大きい言うのは)。

きもなよれる 腹が立つ [会話] ふたんな(二人が) 喧嘩して キモナヨレルよおなんてや(ようなのです) ごおなわいて(腹が立って)来て。

きもぬかす 驚く

きもひやす 驚く(志(布施田))

きもみそ(肝味噌)【名詞】 まんぼうなどの肝を味噌であえ、火にかけたもの [会話] キモミソ まんぼうの きもいり言うてな まんぼうのきもと 味噌とあえんの(合えるのを) きもあえ言うてな なんでも 味噌和えん(に) するもん(物) 肝で きもあえ言うんな(言うのです)。なんでも(何でも) 味噌で和えるやんない(でしょう)。烏賊でも ひつじ(墨)を 味噌で和えんの(るのを) あれも 肝と 一緒やわいな(です)。キモミソ言う。

きもん。きりもん【名詞】 きもの 着物 着る物と言う意味から衣服と同義語として用いられる事も有るが洋服に対し在来の日本のきもの 即、和服を称する事も有る。(志(布施田、片田、畔名、志島、神明、安乗、御座、浜島、越賀)、鳥(桃取、坂手、答志、浦村、石鏡)、松、桑郡、桑市、三、四、鈴市、一、多、上、阿、度、伊、北、尾、南、熊)

きもん(鬼門)【名詞】 1) 東北の方角 鬼が出入りする門の意 2) 行くのがいやな所 その人にとって苦手な人、場所、事柄(志)

きもんあらい【名詞】 葬式の後、死者の身につけていた物を海で洗うこと。不浄を流す意。

きもんえしょんべ【俚語】 してはいけない事。その事をすると罰が当る。[会話] キモンエ ションべたれた(小便した) くらいやなあ(だ) 言うて、ずくなわり(根性の悪い) 人な(が) あると 怒ってなあ ものも言わせんね(言わないのです)。ぷんとしとるやんない(しているでしょう)。そすと あのひた(人は) なんか(何か) 言うたら(言ったら) キモンエ

ションベたれたくらいやどお(だ)言うてなあ、怒ったら聞かせんね(ないのだ)言うね(言うのです)。そやよって(だから)キモンエションベたれたのおより(小便したのより)えらいど(大変だ)あれ(彼)怒らしたら言うて、怒り強い人なあ(です)。怒ってなあ(ていて)なんも言わんと(なにも言わずに)なっと(なんと)言うても怒りっぽい人をなあ言うね(言うのです)。キモンエションベたれたのおよりえらいどあれ(彼)怒らしたら言うて、なかなかこおじく(強情)で聞かせんね(聞かないのです)。

きもんかけ【名詞】衣服を掛けて置く物。衣桁。衣紋竹。ハンガー。[会話] きもん(着物)掛けんのん(るのに)キモンカケ。今しゃ(今は)みなして(全部)置いとるよってんなあ(ているから)。

きもんかど(鬼門角)【名詞】その家、土地にある東北の隅 [会話] 裏鬼門、表鬼門言うてな 鬼門な(が)有るけど(が)あの家や(は)此处な(が)キモンカドやなあ(だ)言うて。

きもんこんじん(鬼門金神)【名詞】言う事を聞かない人 頑固者 [会話] 人の言う事聞かんと(聞かずに)わがとな(自分の)事 やりとおして じっきん(すぐに)怒って くの(来るの)あや(彼は)キモンコンジンや(だ)言うて。

きやあきやあ【感動詞】驚いたり、怖がったり、喜んだりて叫ぶ声 又、戯れあって、わめき騒ぐ声

ぎやあぎやあ【感動詞】やかましく騒ぎたてる声

きやあしや(華香)【形容詞】1)物の作りが細かったりして何となく弱々しいさま きやしや 2)姿、形が繊細で上品に感じられるさま [会話] 1)土堤積んでも あんまり(あまり)キャアジャン(に)、しとると(して居ると)雨な(が)降るとぐわれてくんど(くずれて来るぞ)。

きやあす。きやわす【自サ下一】同時に来て出合う来合わせる [会話] キヤアス 何処い(へ)みんなが落ち合う事をなあ キヤアス 何処で、キャアソ、行きあわそか言う事を言うんなあ(言うのです)、落ち合う事な(です)。

きやい(きやひ)(気合い)【名詞】精神を集中して事に当たる氣勢(南) [会話] えい言うて、キヤイ掛けて、キヤイかけて、やっとなねよお(しているのです)言うてな。元気な(が)無いよんしとると(ようにしていると)、キヤイもかけなはざんわれ(入れなければ駄目だ) まあ そげん(そんなに)元気な

(が)無いよおな事では言うて。

きやいまけ(きやひまけ)(気合負)【名詞】勝負の前、すでに敵の氣勢に圧倒されているさま

きやかす 1)来させる 2)着させる [会話] 1)此処い(へ)キヤカシテもおて(貰って)言うてな キヤシテもろて(来させて貰って)言うの(のです)。毎日、キヤシテもろて(来させて貰って)言うのをなキヤカシテもろて(貰って)言うてな。

きやかす 消す

きやがった 1)来たの卑語(桑郡、張) 2)着たの卑語 [会話] 1)キヤガッタ 好かん(嫌な)人な(が)来るとなあ あの人な(が)キヤガッタ 嫌いやなあ(だ)言うて 言うね(言うのです)。好きな人やったら(だったら)あの人な(が)来てよかったなあ言うけど(言うが)好かん人な(が)来ると あの人な(が)キヤガッタ いやらしなあ(嫌だ)言うて。

きやがって 1)来ての卑語 来た 2)着ての卑語 [会話] 1)すかん(嫌な)人やもんで(なので)此処い(に)キヤガッてとか、きくさって(来て)とか汚い言葉で。

きやがる 1)来るの卑語(員、三、久、張) 2)着るの卑語 [会話] 1)キヤガル言うな(のは)此処い(に)来た事を言うねんな(言うのです)。

きやがれ 1)来いの卑語(阿、張) 2)着よの卑語 [会話] 1)キヤガレも 此処い(へ)来い言う事や(です)。此処い(へ)キヤガレ言うて 来い言う事を、ごおなわいて(腹が立って)好かん(嫌な)人やもんで(なので)そや言うねんな(それは言うのです)。

きやく(客)【名詞】月経(津) [会話] オキヤクサン、月経 キヤクな(が)来た。キヤクな(が)来て どっこいもいかれやへんわれまあ(何処へも行けない)言うて。今日は宮さんえ 詣いってて(ていって)おもとたのん(思っていたのに)オキヤクサンな(が)来て、行かれやへんねよお(行けないのです)言うて。

ぎやく(逆)【名詞】逆縁 家族の中で年下の者が先に死ぬこと [会話] 年下のもんな(者が)死んでた(でいった)時は ギヤクやなあ(だ)言うてなあ。親よりこおな(子が)はよ(早く)死んでく(で行くのは)あの人まあ ギヤクやれ(だ)言うてな。

ぎやくえん(逆縁)【名詞】親より先に子供が亡くなる事

きゃくしょおばい (きゃくしゃうばい) (客商売) 【名詞】 人と接する職業 商店 サービス業すべてに言うが、特にサービス業について言う [会話] キャクショオオバイ言うな (のは) 水商売の事かい (ですか)。店屋の事やわい (です)。キャクショオオバイ言うなな あ (のは) 宿屋でもなあ キャクショオオバイやしなあ (ですし) 物、あきのても (売買しても) キャクショオオバイやしなあ。

きゃくじん (客人) 【名詞】 御客様 来客 [会話] お客さんの事 キャクジンな (が) 来て言うてな。

きゃくま (客間) 【名詞】 奥座敷 応接室 (南) [会話] お客さんのまあ (部屋)、キャクマん (に) しといて (しておいて) 此处でなんやかや (いろいろ) つねに しとくと (平素しておく) 汚しとくと (ておく) お客さんな (が) 来た時 わりよってん (悪いから) 言うて キャクマを別ん (に) おいて有る事を、今 (今) で言うて 応接間の事かいなあ (事でしょうか)。

きやしえん。きやせん 1) 来ない 2) 着ない [会話] 1) あの人 ふつつら (ふつつり) キヤシェン。

きやして 1) 来させて下さい 来させて (上) 2) 着せて下さい 3) 消して [会話] 1) 此处い (に) キヤシテ言うのな (です)。こさしてくれ (来させて下さい) 言うのも有るし 2) きもん (着物) も、キヤシテ言うしなあ 着せて貰う事を キヤシテ言う。

きやす (来、着、消) 【他サ五】 1) 来させる よこす (尾、熊) 2) 着させる 3) 消す キユ (消ゆ) の他動詞 (大言海) (松、桑郡、員、三、鈴市、安、久、一) [会話] 1) ここい (に) 来いまあ (来なさい)。なんやかや (何も彼も) あらけたれまあ (片付けてやれ)。ここい (に) キヤスよおん (ように) 言うて、なんやかや 物が邪魔ん (に) なる時ん (に) キヤスよおに言うのを キヤスよおん ここも あらけて (片付けて)、えごとしとけまあ (立派にしておきなさい)。2) きもん (着物) の キヤス。

きやすい 【形容詞】 1) 気楽でうちとけた様子 心やすい 気安 2) 来るのに楽である 3) 着るのに楽である [会話] 2) キヤスイ 此处い (へ) くんな (来るのは) 誰んも (にも) えんりよせんでよおて (遠慮しなくてよくて) キヤスイなあ言うて、よその家い (へ) 行くと いえぬしな おるよってん (家主が居るから) えんりよなけど (遠慮だが) 此处いくや (へ来れば) おらへんねよってん (居ないのだから) キヤスウ きやれる (気安く来れる)。3) 着るもん (物) も

仕立てな (が) ええとなあ (よいと) キヤスイ、仕立てな (が) わり (悪い) と 着のくい (着ぬくい)。1) 心安い 心な (が) ええもんで (よいので) つきや い (交際) やすい言うのをな キヤスイ人やなあ (だ) つきやいが、しやすい言う事をな あの人と きやすうしとんねよって (心安いしているのだから) つきよとる (交際している) 言う事やな (です)。

きやすめ (気休) 【名詞】 気を休める事。物事の心配をしばらくの間慰める事。根本的な解決にならない。

きやせ (着瘦) 【名詞】 着物を着ると瘦せて見える事

きやせ 【名詞】 気瘦。心配事が有って気を使って痩せる事 [会話] 心で痩せる言うて、あやまあ (彼は) キヤセな (が) しとんねよって (しているのだから)、わがと (自分が) 心、病んで痩せてく (ていく) 人を、キヤセな (が) しとんねなあ (しているのだ) 言うのは言うけど。あの人まあ キヤセな (が) しとんねや れ (しているのだ) 言うて、わが (自分) 心でまあ 痩せんねやれ (痩せるのだ) 言うて あやまあ (彼は) こんじょくさりやもんで (意地悪だから) キヤセ。せんでもええ (しなくてもよい) 事を心配したり ご おわかしたり (腹立てたり) してなあ する人を キヤセ言うね (言います)。

きやせん 1) 来ない (志、員、安、津、久、飯、度、伊) 2) 着ない [会話] 1) 来ない 言う事 キヤセン。

きやせんか 1) 来ませんか 2) 着ませんか

きやせんかい。きやせんかな (女性語) 1) 来ませんか 2) 着ませんか

きやせんかった 1) 来なかった 2) 着なかった

きやせんない 1) 来ない 2) 着ない [会話] 1) 待つとも (ていても) 来んとさいご (来ないと) 待てど暮らせどキヤセンナイ 待ちほおけたれ言うて。

きやせんね。きやせんねない 1) 来ないのだ 2) 着ないのだ

きやだった 1) 来なかった 2) 着なかった

きやへん 1) 来ない (上、張、名、度) 2) 着ない

きやみ (気病) 【名詞】 耐えず心配して居る事、又それに依って生ずる心身の不調

きやよかい。きやよかな (女性語)。きやよかれ 1) 来られない 2) 着れない

きやらった 1) 来なかった 2) 着なかった [会話] 1) キヤラッタ こだった (来なかった) 言うのを ほかの人ら (は) こなんだ (こなかった) 言う。

きやれやせん 1) 来られない 2) 着られない

きやれらった 1) 来られなかった 2) 着られなかった

きやれる 1) 来られる (志、鳥、桑市、三、鈴市、亀、津、一、飯、多、阿、張、名、度、北) 2) 着られる
[会話] 1) 此処い (へ) キヤレルカイ (ですか) 言うて 此処い (へ) 来られますか言うのを キヤレルカイ言うね (言います)。2) きもん (着物) も おつきいて (大きくて) キヤレル ちっそおて きやれやせん (小さくて着れない) 言うね。

きやれるかい。きやれるかな (女性語) 1) 来られますか きやれる参照 2) 着られますか

きやれん 1) 来られない (員) 2) 着られない (員)
[会話] 1) 此処い (へ) キヤレン (来れない) 言うの、2) して (そうして)、きもんな (着物が) ちっそおて キヤレン (小さくて着られない) とか、おつきいて キヤレン (大きくて着られない) とかな。

きやわせる 来合せる、期せずして会う (南)

きやん 1) 来ない (阿、張、名) 2) 着ない

きやんいうた。ぎやんいうた 悲鳴をあげた。徹底的にやり込められた

きやんかい。きやんかな (女性語)。きやんかれ 着なさい

きやんせ 1) おい出なさい 2) 着なさい

きやんと 着ずに 服キヤント裸でおる

きゅう (きう) (旧) 【名詞】 旧暦 陰暦 大陰暦 一般に暦法を変更した時に、以前の暦を旧暦と言う。日本では明治五年の大陰暦から太陽暦への改正を主眼とするので、旧暦と言えば明治以前の大陰暦をさす。現在は農業や漁業の便利のため地方で用いられて居る大陰暦 陰暦 月の満ち欠けを基準として定めた暦を言う [会話] 昔の暦、キウ正月やとか (だとか) なんでも キウですか 新ですか言うて。お月さんのあれも 皆 キウで言うところ (言っている) わけやなあ (です)。お月さんとか 潮時見んのは (潮の干満見るのは) 皆 キウや (です)。網掛けやなんかも (伊勢海老漁とか) 皆 キウでせな (しなければ) 潮時や (は) 月な (が) 変ってくやんない (いくでしょう)。ひにちな (日が) 一日いつ (ずつ) 変ってくよって (いくから)。年でも 四年目に一回 閏年言うのな (が) 出来る。キウは そおいうもん (ものが) 無いよって (から) 潮時みんのも (見るのも)、キウやなけな (でなければ) 判らせんの (判らないのです)。キウは 月に閏が有んの (有るのです)、今年や (は) しんがつ (四月) うる

やよって (だから)、六月うるやよって言うやんかい (言います)。閏年ん (に) になると。しょんがつ (正月) の御供えもん (物) を十二重ね、普通の年は 十二月やよって (だから) すんねけど (するのだが)、閏は ひと月多いもんで (ので) 十三重ねえつ (ずつ) 閏年ん (に) になると神さんに供えんね (供えるのです)、正月に。今年や (は) 閏年やよって (だから)、一重ねよけ (多く) せなはざんど (しなければ駄目だ) 言うたねやった (言ったのです)。五月閏は かぼちやも孕む言うて、閏に子もおけると (出産すると) 五月閏やよって (だから) 子もよおけもおけたな あ (多く産んだ) 言う。子持ちな (が) よけ (沢山) 有ると 閏年や (は) かぼちやも孕む言うて 子供な (が) よけ (多く) 出来るんてわな (そうです)、閏年は。

きゅうきゅう 【形容詞】 1) ゆとりが無い程一杯のさま 2) 貧乏で暮らしに余裕が無いさま 3) 腹の痛むさま [会話] 3) 腹な (が) キウキウと、いとなつて (痛くなって) 来て、腹な (が) きゅつと いと おて (痛くて) なん食べたんかいなあ (何食べたのか) 言う時も有るしなあ。

ぎゅうぎゅう 【形容詞】 1) 全く余裕の無い程一杯のさま 2) カ一杯押しつけるさま [会話] 2) ギウギウ押しつけてくれ (下さい)。力入れて、カ一杯言う事をギウギウ。ギウギウ締めてくれとか、ギウギウ叩いてくれとか、ギウギウ押しつけてくれとか、ギウギウ言うのな (です)。

ぎゅうぎゅうづめ 全く余裕の無い程詰め込んで居るさま ぎちづめ

きゅうきん (給金) 【名詞】 雇主から使用人に労働の代償として与えられる金 給料 [会話] キウキン言うのは、賃金貰う事な (です)、キウキンも決めんと、働いて言うてな、賃 決めんと (賃金決めずに) 言うな (のは)。一日幾らとか、月幾らとか言うのなあ、賃金も決めんと働いて、しまいにや、やすうて (終わりにには安くて) 言うてな ごおわかして (腹立てて)、秋い (秋の収穫の手伝いへ) いてもなあ (行っても)。

きゅうくれ 大変忙しい 急 流れの早いさま 前触れもなく物事が起こるさま さしせまっているさま 急がなければならぬさま 急ぐこと 急がなければならぬ事 差し迫った事態 危険な事態。暮 日が沈みかけて、あたりが暗くなる事 明るい時間や時節の

終りの頃 (志 (布施田)、伊、度) [会話] 忙して忙して (忙しくて)、めえな (目が) 回るほど忙して (忙しくて)、言うのを キュウクレ言うの (のです)。
きゅうくれまい 大変忙しく立ち働く事 急ぐ事 (志 (浜島)、伊、度) [会話] キュウクレマイしたなあ 忙して、ものすごく (すごく) 心が忙し時を言うんなあ (言うのです)。キュウクレマイ言うのは。
きゅうくれまいくれ。きゅうくれまいり きゅうくれまいに同じ 大変忙しい ささぶね参照
きゅうしき (きうすき) (旧式) 【名詞】 古い物、事を表現するのに用いる 古いしきたり [会話] 昔の式を キュウシキなあ (です)。昔、しとた (していた) 事を、そのまましとると (していると) あやまあ (あれは) キュウシキで言うてな。
きゅうしゃくがり (急借借) 急にする借金 [会話] 急に金な (が) いって (必要になって) 来て、借りん (に) 行くのをなあ キュウシャクガリして言うてなあ、まあ、じっきんもてくるよって (すぐに持って来るから) 借してくれえ (下さい) 言うて、かんのを (借りるのを) キュウシャクガリや (だ) 言うて。
きゅうしょ (きふしょ) (急所) 【名詞】 1) 体の中で、そこを犯されると生命にかかわる所 2) 物事の最も大切な所 要所 要点 [会話] ₁₎ てえ (手) 一杯背中へ回したとこ (所) キュウショやよってん (だから)。
きゅうしょお (きうしゃう) (旧正) 【名詞】 旧正月 陰暦の正月 [会話] 旧のしょうがつ (正月) キュウショオ。
きゅうしょどこ 【名詞】 大切な所 (員) [会話] キュウショドコ、押しておこして言うて、大事のとこや (所です)。キュウショドコ言うの (のは) キュウショドコ 押されて言うて、よお言うやんかいな (よく言います)。
きゅうす (きふす) (急須) 【名詞】 取っ手のついている小さな土瓶 湯をさして茶を出すのに用いる きびしよ参照 [会話] キュウス ちゃあ (茶) 汲む キュウス。
きゅうすえる 【動詞】 1) 叱る 罰を与える 2) 灸をや (志、松、員、鈴市、鈴郡、亀、津、一、多、上、阿、張、名、度、伊、北、尾、南) [会話] ₂₎ やいと (灸) やく言うの、やいと やかれて言うてな。 ₁₎ そいな おっちゃん (そんな横着) したら、やいと やいたんだお (灸やいてやる) 言うて 子供らんも (にも) 言よおったなあ (言っていました)。 ₁₎ キュウス

エル 言うの (のは) 叱る時、も一つ、灸すえとかな はざんわれ (すえておかなければ駄目だ) 言うてなあ、おっちゃん (乱暴) すると それをなあ、やいとすえ たんだお (灸やいてやるぞ) 言うてな。
ぎゅううち (牛乳) 【名詞】 牛乳 牛の乳汁 (南、熊) [会話] 牛乳の事をギウウチチや (だ) 言うなあ (言います)。
ぎゅうと 【副詞】 1) 力を入れて強く締めたり、押さえ付けたり、握ったりするさまを表す しっかりと (上、阿、張) 2) 沢山 [会話] ₁₎ ギウウトしめとけよお (ておけ)、ギウウト抱きしめてくれとかなあ、ギウウト縛とけ (ておけ) 言うたりなあ ギウウト言うと、しっかりと言う事やわな (です)。ギウウト締めとけよお そや ほどけてかんよん (ていかないように) 言うてな ギウウト縛とけ。
きゅうどお (きうだう) (旧道) 【名詞】 古くからの道
ぎゅうなべ (ぎうなべ) (牛鍋) 【名詞】 すき焼 (張、南)
きゅうに (きふに) 不意に 突然 (志 (畔名)、上、名) [会話] キュウニ 腹な (が) いとなって (痛くなって) 来て言う時も有るし、キュウニ どこかな (が) わり (悪い) なって来てまあ言う時も有るし 突然にして来た事を キュウニ言うんやろなあ (言うのでしょうか)。
きゅうば (きふば) (急場) 【名詞】 急いで処置をしなければならぬ時、場面 せっぱづまった場合 急いでいる時 [会話] 食うもんな (物が) 無い時んなあ (に) キュウバ 凌ぐのん (のに) そや (そや) 荒布も にかえい (二階へ・屋根裏の物置へ) 詰めとけ (ておけ) 言うてなあ、さあ言うた時、キュウバや (だ) 言うてなあ。荒布も入れとけ、ひじきも詰めとけ 言うて キュウバのなんに (ために) きんこやどけでも (芋の煮切干なども) 炊いて、ものきい (物置へ) 入れとかな (ておかなければ) 言いおったな (言っていました)。
きゅうびよお (旧病) 【名詞】 古い病氣 生来の悪癖 [会話] キュウビョオ わり (悪い) 癖、あや (彼は) キュウビョウな (が) 出たんなあ (出たのだ) 言うて、人のもん (物) をとて (盗って) 来ると。その病氣や (は) 一番 おとしねよってんなあ (怖いものだから) 遺伝すねよってんなあ (するのだから)。
きゅうびよお (きふびやう) (急病) 【名詞】 急に病氣になる事 [会話] 突然に病氣ん (に) なって言うのを キュウビョオやな (です)。キュウビョオで、死んで

たんでわれ 言うてな。疔、癩で、もみきってたんでわれ (いったそうだ) 言うてな。疔、癩で ひとよさ (一晚) で、もみきってたね (ていった) 言うてな よお言よおったわい (よく言っていました)。

きゅうめえ (窮命) 【名詞】 苦しい思い 辛い思い (志 (浜島))

きゅうりょう (きふりょう) (給料) 【名詞】 賃金 給金
に同じ [会話] 賃金 キュウリオも貰らわんと (貰わずに) 働いて言うてな、賃金も 貰わん事をな 賃 (賃金) も 貰らわんと言うて よお言よおったな (よく言っていました)。キュウリョオ言わんと (言わずに) 賃も貰らわんと 言うて。

きよ 1) 着る (三重県南部) 2) 着なさい (三重県南部) [会話] 1) キヨ言うと 自分で着る。2) キヨ言う と 命令しやれて (されて) キヨ言うとさいご (その時は) 人に言う事で キヨ言うと 自分の事や (です)。

きよい 1) 着やすい 2) 来やすい、訪問するのに心配しなくてよい [会話] 1) きもんな (着物が) 此の きもん 上手んこさえて (に作って) あって キヨイ なあ言うし、服でもなあ 仕立てな (が) ええと (よいと) この服キヨイ言うて。

きよう (きおう、きほう) 気負うの訛 いきごむ 張り切る

きよお (きよう) (器用) 【名詞】 食べ物に慎み深い ロキョオ (志 (布施田))

きよお (けふ) 【名詞】 今日 本日 けふ、コヒ (此日) の義 (大言海) (志、鳥、松、員、四、安、一、飯、多、上、度、北、尾、熊) [会話] こんにち (今日) の事を、キョオ言うて 朝の事をけさ (今朝) 言うて そして、よさり (夜) の事を こいさ 言うて。

きよおき (きょうき) (狂気) 【名詞】 気が狂って居る事 正常で無い心

きよおぎ (きやうぎ) 【名詞】 経木 杉、桧などを長方形に薄く削ったもの

きよおぎ (ぎやうぎ) 【名詞】 素行 立振る舞い (南) [会話] ギョオギナ (が) ええ (よい) ギョオギナ よおて (よくて)、ギョオギナ (が) わりいて (悪くて) 足ばつか (ばかり) 延べたり 曲げたり ギョオギナ (が) わりいて。行跡な (が) わりのも (悪いのも) ギョオギナ (が) わりいて (悪くて) 成績のわり のが、おなご (女) なら、男道楽するとか 男なら、おなご道楽するとか。

きよおぎざいく 【名詞】 経木細工

ぎよおぎなわり (ぎやうぎなわり) 身持ちがよくない (熊) [会話] 身持ちのわり (悪い) 言うのも、有るしだ。体の姿勢な (が) わり のもなあ ギョギナ (が) ワリ。足、投げ出したり、横に出したりしとるやろ (しているでしょう)、おた、ギョオギナワリイデなあ (悪くて) 言うてな。

ぎよおぎよおすわる (ぎやうぎようすわる) 正座する (名) [会話] 正座しとんのなあ (しているのを) きちんと座って かしこまっとる (ている) 正座しとる (している) 言う事をな、ギョオギョオスワル言うて。

ぎよおぎよし (ぎやうぎやし) (仰々) 【形容詞】 仰々しい おおげさである キョウキョウシ (輕輕) かるはずみの語を軽率に過ぎたりと、さげすむ意より移り、口汚く言うより濁言となった (大言海) [会話] ギョオギョシ言うな (のは) おっきい (大きい) 事言うと 大袈裟な事を ギョオギョシ。

きよおくん (けうくん) (教訓) 【名詞】 教諭する事 いましめる事、又、その言葉や事柄 説教 [会話] がつこい (学校へ) 行く時んなあ (に)、月曜キョオクンや (だ) 言うて、じよつく (いつも) 月曜日ん (に) になると 運動場い (へ) 並んで、校長せんせな (先生が) 話ししてなあ、そして 前の人な (の) 頭い (に) しらめなほおとる (風がはっている)、しらめ 取ったり しよおったやんかい (して居たで有りませんか)。

きよおげん (きょうげん) (狂言) 【名詞】 1) 芝居 俄芝居 2) 仕組んだ事柄 人をおとし入れるための企み [会話] 2) キョオゲンやなあ (だ)、あんな (彼の) キョオゲンやれ (だ) 言うてな、指図でする事をなあ あやまあ、あんな (あれは彼の) キョオゲンでまあ言うてなあ。なんでも (何でも) 指図してさすと (させると)、あや (あれば) キョオゲンやどお (だ) 言うて、指図してなあ、さすこと (させること) キョオゲンや (だ) 言うて 1) 芝居もキョオゲンな (です)。

きよおざめがお (きょうざめがほ) (興醒顔) 【名詞】 興味をそがれた顔付き 面白くない顔つき 不快、驚き、不審などある事実を知った時の顔つき 驚いた顔 [会話] 驚いた顔しとると キョオザメガオ 言うて。ものすごお (大変) びっくりしてなあ 顔見ても まつさお (真青、蒼白) な顔して 行くやんな (でしょう)。おおた まあ、キョオザメガオしとられ (して居る) 言うて おどけて (驚いて) キョオザメガオしとる (して居る)。

ぎょおさん (ぎやうさん) (仰山) 【形容詞】 1) 大袈裟なさま おおぎょう ケウ (希有) さにの略 (大言海) (桑市、上、阿) 2) 沢山 多いさま 数量や程度が甚だしいさま (志 (鶴方、浜島、布施田、立神)、鳥 (浦村、国崎)、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、津、安、一、上、阿、張、名、度、伊、北、南) [会話] 2) ギョオサン 沢山言う事、ギョオサン もろて (貰って)、ものすごおよけ (ものすごく沢山) 有る事を ギョオサン。物がよけ (沢山) 有っても、ギョオサン₁₎ 言葉でも、大風呂敷する人を ギョオサンな事言うて はっぱ (ほら) 言う人を。

ぎょおさんなこと 大袈裟な事 沢山

ぎょおじする (ぎやうじする) 指図する [会話] 采配振る、あしこい (あすこへ) 来たよって (から) 網舟あつちやいまあれ (あちらへ廻れ) こつちやいまあれ (こちらへ廻れ) 言うて 指図せななあ (しなければ)、魚のおるとこむいて (居る所むかつて) それをギョオジスル。

ぎょおせき (ぎやうせき) (行跡) 【名詞】 行つて来た事柄 行状 みもち [会話] いつもの おこないな (が) わり (悪い)、あの人な (の) ギョオセキや (だ) 言うて じっぱ (立派) な 仕事したのおを (のを) ほめる時ん (に) あの人のギョオセキ。

ぎょおせん (ぎょうせん) (地黄煎) (凝煎) 【名詞】 上質の水飴 ギョオセンはジョウセン (濃煎) 地黄煎とも書く (物類稱呼) 普通の水飴より濃い (員) [会話] ギョオセン言うて 飴、真つ白な ええ (よい) 飴をなあ ギョオセンや (だ) 言うのなあ (です)。ギョオセンアメ言うてなあ しろおい (白い) 飴な (が) 有るわい (有ります) 水飴みたよんしとんのなあ (のようにしているのです) ええ 飴。

ぎょおそお (ぎょうそう) (形相) 【名詞】 顔つき 恐ろしい感じを受ける顔つき [会話] あの人な (の) ギョオソオな (が) わりよお (悪いです) 見よまあ (見なさい) 言うて、顔色な (が) わり (悪い) のを見て、言う時も有るけどの、おとろし (怖い) 様な顔しとる (している) とか言うて あの人な (の) ギョオソオ見よまあ 言うて言うなあ。

きょおだい (きょうだい) (兄弟) 【名詞】 男同士で、同年の者を呼び合うのに用いる [会話] ほおばい (朋輩) とか、キョオダイ言うて、友達のを言いおった (言っていました)。

きょおだいせりふ (きやうだいせりふ) (兄弟科白) 【名詞】 兄弟喧嘩 兄弟が争う事 [会話] 兄弟喧嘩すん

のをな (するのを) キョオダイセリフ言うてな、ふたんな (二人が) 沖いいて (へ行つて) へえ (屁) して喧嘩して戻つて来た言うて。兄貴な (が) へつたてや、弟な (が) へつた 言うて ふたんなおつて (二人が居て) のしな (主が) 判からん 沖から戻つて来たね。

きょおだいぶん (きやうだいぶん) (兄弟分) 【名詞】 身内の兄弟でなく、兄弟の約束を結んだ者 きょおだいと呼ぶ事も有る [会話] キョオダイブン言うな (のは) ほおばい (朋輩、友人) の事 友達の親しい人をキョオダイブン。きょおだい言うやんかい (言います)。キョオダイブン 言うな (言うのは) たまに言うけど、おかた (大体) きょおだいやよつてん言うのお (だから言います)、きょおだい言うて、べつんも、あんで (特別にあれで)、親しい人を言うんやろなあ (言うのでしょうか)。

きょおった 来て居た 過去には来て居たが最近は来ない

きょおった 着て居た

きょおてん (ぎやうてん) (仰天) 【名詞】 非常に驚く事 あきれかえる事 [会話] びっくりギョオテンした言うてな びっくりして 驚く事をな ギョオテンした言うんなあ (言うのです)。びっくりギョオテンや (だ) 言うて、おおた (ああ) まあ あの人な (が) 死んでたね (行つたのだ) 言うて まあ、ギョオテンしたんよお (しました) 言うてな おどける (驚く) 事をな。

きょおとい (きけうとい) (気疎い 愕然) 【形容詞】

1) 程度が甚だしい 驚きあきれ様だ けうとしのイト (厭) はしき意よりの転 (大言海) 2) けたたましい [会話] 2) キョオトイ言うな (のは) けたたましい。あんまりおどけた (驚いた)、おどける (驚く) 事を。おどけたなあ (驚いた) キョオトオテ、おどけた言うねよつて (驚いた言うのだから) おっきい (大きい) 事言うんやろ (のでしょうか)。おおた (ああ) あんまり キョオトイので おどけたよお (驚いた) 言うて。1) キョオトイ言うて、びっくりして、とびやがった時ん (飛び上がった時に) キョオトオテ、声な (が) おっきいて (大きくて) 言うて キョオトイ時ん (に)、大きな声、出したりするやんない (するでしょうか)。そすと (そうすると) キョオトオテ、声な (が) おっきいてまあ 言うて。

きょおどおべんじょ (きょうどうべんじょ) 【名詞】

1) 公衆便所 (熊) 2) 転じて誰とでも寝る女性

きょおねん 【名詞】 昨年 去年 (志、鳥、松、員、三、

四、鈴市、鈴郡、久、一、上、張、名、伊) [会話] キョオネン言うな (言います) 去年言うのを キョオネン言うてな、こや (これは) キョオネン獲れた芋やれ (だ) キョオネンから 置いてあんのやれ (有るのだ) 言うてな キョオネンのひねやれ (古い物だ) 言うてな。

きよおび (けふび) (今日日) 【名詞】 今日この頃 近ごろ 今時 (志 (布施田、浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (加茂)、松、桑市、鈴市、三、安、久、一、上、阿、張、北、尾、南、熊) [会話] キョオビ言うな (のは) 今し (今) 言う事やなあ (です)。キョウビの子らは (子供は) 言うて言うんよって (言うから)、今しの子らは言うの (のを) キョウビの子ら言うて。

きよおびら (けふびら) 【名詞】 最近 今日この頃 (志、鳥 (答志)) [会話] 今日でも あした (明日) でも言う様な事やなあ (です)。キョオビラ あれしたる とええんなあ (してやるとよいのだ) 言うて。

きよおびんぼ (きょうびんばふ) (器用貧乏) 【名詞】 何事も一応は上手に出来るため、かえって大成しない事、又、その人

きよおふ (きょうふ) (驚風) 【名詞】 小児のひきつけ 恐れて小児がけいれんを生ず事 [会話] キョオフノムシな (が) 出た言うて、今しや (は) そいなこた言わせんなあ (そんな事は言いません)。昔や (は) キョオフな (が) よお出よおった (よく出て居ました)。昔や (は) キョオフノムシで ひきつけて言うて、よお (よく) 言うけど、今しや あいな (今はあんな) 事言わせんなあ (言いません)。キョオフ言うな (のは)、ひきつけてくの (ていくのを)。目ひっから かして (光らせて) キョオフノムシな (が) おこった、ひきつけてくと (て行くと) キョオフノムシな (が) 出て言うて うちかた (背中) 押えて、たちかた (背中) 押ええ (えなさい)。

きよおふのむし 【名詞】 ひきつけ (員) [会話] キョオフノムシな (が) おこって言うて あやなつと (あれは何んと) 言う事どい (ですか)。キョオフノムシ言うな (のは) 昔、よお きよおふな (が) おこりおつたなあ (おこって居ました)、ひきつけ 疳虫なあ (です)。疳虫でひきつけてた (ていった) 言うて、よお言よおつたなあ (よく言っていました)。あや まあ (あれは) 熱な (が) よけ (沢山) してくると あげんなんねかい (あんなになるのですか)。

きよおもどり (きょうもどり) (京戻) 【名詞】 魚名。あ

かはた スズキ科マハタ属の海魚。体長約30cm、体は朱赤色で体側に不定形の白い斑紋が有る。京に送っても未だ新しく、新し過ぎるので、不気味な魚だ言ので戻されたので、此の名がついた

きよおもん (きょうもん) 【名詞】 器用者 (鳥) [会話] 器用な人言う 利口な人なあ キョオモンや (者だ) 言うてな。

きよおら (きょうら、けふら) (今日) 【名詞】 今日あたり 今日 らは接尾語 [会話] キョオラ まあ、いこか (行こうか) あしこい (あすこへ) 言うてな、キョオラ あれしたるとええんなあ (してやるとよいのに) 言うやんかい (言います)。キョオラ まあ あれしたるとええんなあ 言うて、今日やなけな (でなければ) ならん 言う事やない (ではありません) 言う事やるなあ (でしょう)。キョオラ言うんよって (言うのだから)、今日でも あした (明日) でも言う様な事やな (です)。きよおびら まあ あれしたるとええんなあ 言うて、最近のうちんすや (間にすれば) ええことをなあ、キョオラ まあ、あれしたてもええんけど (してやってもよいが) 言う様な調子でなあ。今日やのおても (で無くても) ええねけど (よいのだが) 仕事の都合で キョオラ あれしたてもええんけどなあ 言う時も有るわい (有ります)。

きよおらん (狂乱) 【名詞】 気が狂い乱れて常態を失う事、又その状態。

きよくちょお (きよくちやう) (局長) 【名詞】 船の無線通信士。郵便局長 [会話] かとぶね (艀船) の無線のあれ (無線士) も、キョクチョオさん言うしなあ (言います)。

きよくつとる からかう、馬鹿にする きよくる参照

きよくば (木置場) 【名詞】 かまど近くの薪を入れる所 きおきば (木置場) の訛った語 (方言俗語語源辞典) (志 (布施田、鶴方、神明)、鳥、度) [会話] きい (薪) 入れるとこ きびや (木部屋) 言うのをなあ キョクバ言うの。きびや (木部屋) の事 キョクバ。

きよくる 【他ラ五】 人をからから ちゃかす 馬鹿にする キョク (曲) を活用した語 (大言海) (志 (布施田)、上、阿) [会話] キョクル、ひよくる、ちよくる、おんなじ (同じ) 言葉やけど (だけど)、人をキョクットテ (て居て)、人をなめとる (て居る) 言う意味やわい (です)。

きよし 【名詞】 気性のよい人 他人を疑う事を知らない人 気好しの意 (方言俗語語源辞典) (志 (浜島 志島)) [会話] あやまあ (彼は) キヨシやれ (だ) 言

うてな、おなご（女）なら、ててなしご（私生児）むねやれ（のだ）言うてな 心のええ（よい）人を
キョシ、なん（何）言うても、怒らせんし（ないし）
あやまあ（彼は）キョシやれ（だ）言うてな。

きよしまる（気好丸）【名詞】 気性のよい人。他人を疑
う事を知らない人。まる、丸をつけて擬人化したもの。

きよつけ 気をつけ（松、尾）【会話】 きおつけえ言う
て、号令かけて きおつけえもするし。あんた、まあ、
体な（が）これ 風邪引いとんのん（ているのに）気
をつけなはざんでえ（なければ駄目です）言うて、心
得ええ（なさい）言うて きい（気）つけなはざんで
え 言うて きおつけ言う人も有るし キョツケ言う
て、その人の言葉のなあ。

きよった 1) 来た（張、松） 2) 着た

きよった 網の修理をした

きよっぱ【名詞】 将棋の駒 香車

きよときよ【副詞】 落ち着かない様子であたりを見
るさま 落ち着きのない人（志（浜島））

きよねん（去年）【名詞】 前の年 昨年 【会話】 キョ
ネンと今年、キョオネン言うなあ、キョネン言うのを
キョオネン言うてな。

きよめる（清、浄）【他マ下一】 穢れや汚れを取り除く
綺麗にする 【会話】 塩、撒いたり せえすい（清
水）でキヨメル言うてな、ついつい（御祈り）してな
あ キヨメル言うてな 不浄などこを（所を）キヨメ
ル言うて、あらしお（新塩）でキヨメルとか せえす
い（清水）で、キヨメルとか言うてな。

きよる【動詞】 魚網を修理する（志（布施田、志島、甲
賀、国府）、鳥、度、北、南）【会話】 網キヨル、網
そそくる、破れとんのを（ているのを）直すのを 網
キヨル言う、新しのおを（新しいのを）作る時や
（は）網すく言う。

きよる（来寄）【自ラ五】 来る（上、南）

きよろきよる【副詞】 そわそわして落ち着きがないさま
落ち着かない様子で、あたりを見回すさま キロキロ
（炯炯）はキラキラの転 眼の動き光る様（大言海）
キロキロの転 【会話】 キョロキョロ あっちゃ（あ
ちら）見い こっちゃ（こちら）見い キョロキョロ
人の顔見て、あれ見い此れ見いして キョロキョロし
て、人の顔ばっか（ばかり）見て。

ぎよろぎよる【副詞】 大きな目玉で、にらみまわすさま。
目を光らすさま（志（布施田））【会話】 めえひっか
らかしとんのをな（目を光からしているのを）、ギョ
ロギョロして めえひっからかして（目光からして）

あっちゃ（あちら）見い こっちゃ（こちら）見いす
んのを（するのを）ギョロギョロして言うてな ギョ
ロギョロ 人、にらめやあるいて（睨んで）言うてな
あ。

きよろつく【自カ五】 きよろきよろする 落ち着きがな
く、いつもきよろきよろしている。きよろきよろ 何
かを探し求めたり、とまどったり、あわてたりして、
あたりを落ち着きなく 見回すさま。（志）【会話】
あっちゃ（あっち）見い、こっちゃ（こっち）見い、
きよろきよろするのを キョロツク。きよろきよろと
人の顔見て言うやんかい（言います）。あんたの顔見
てな（見ては）又、わしの顔見いしてすと（すると）、
きよろきよろと、人の顔ばっか（ばかり）、好かん
（嫌だ、好ましくない）人やなあ（だ）、あのひた
（人は）きよろきよろと ひとづら（人面）眺めて。

ぎよろめ【名詞】 ぎよろぎよろとしている大きな目
【会話】 めえ（目）ひっからかしてしとんの（光から
してしているのを）ギョロメ。

きよわ（気弱）【名詞】 気の弱い事 気の弱い性格 又、
その人

きよわい（気弱）【形容詞】 気の弱い事、気の弱い性格
【会話】 キョワイ、気な（が）ちっそおてなあ（小さ
くて）、人な（が）ちよいと（少し）言うても それ
気にしたり 泣いたりする人を 気な（が）よおおて
（弱くて）言うてな。人な（が）ちよいと 言うと
じっきん（すぐに）泣いてくんねない（来るのだ）言
うてな、ほんとん、あやなあ（本当に彼は）気な
（が）弱い人やわなあ（だ）、あんだけの（あれだ
け）事ん（に）泣いてくんねない 言うてなあ。

きよんきよん【副詞】 痩せているさま 【会話】 痩せて
ぎっちょんみたよなあ（のようだ）。痩せて キョ
ンキョンや（だ）言うけどな（言います）。痩せて
キョンキョンみたよんしとる（のようになっている）言
うけどな きよおびや（最近）はその痩せて キョ
ンキョンしとんな無いやんかい（しているのは無いので
す）皆 ぞぶくろ猫みたよん（野良猫のように）肥え
とてなあ（ていて）。

きらう（きらふ）（嫌）【他ハ五】 嫌がる 【会話】 キ
ラウ、あの人嫌いやわ（だ）言うてキラウ。好かん
（嫌な）人をな あの人の、嫌いな人やなあ（だ）。

きらかす（切） 切らす 無くする

ぎらぎら【名詞】 海魚 ひいらぎ 口を大きく伸出さ
せる事が出来る 上顎前骨の上部と顴骨を摩擦させて、
強い音声を発する。食道をとりまく発光腺をそなえ、

発光バクテリアが寄生して発光する (志)

ぎらぎら【副詞】 1) 油の多いさま ぎたぎた参照2)
目が疲れる [会話] 2) めえな (目が) ギラギラする
言う事も言うやんかい (言います)。なんかや く
たばって (疲れて) 来ると、仕事して 疲れて来ると、
めえな (目が) ギラギラして 来たんよお (来ました)
言うて。 じい (字) よっけ (沢山) 書き過ぎて、めえ
な (目が) ギラギラして。

きらす【切】【他サ五】 貯えて居た品物をすっかり無く
す 切るの他動詞 (大言海) [会話] 今日は 米キ
ラシテ ゆうめし (夕飯) 炊くおもや (思えば) 米な
(が) キレトルヨオ (無い) とか、 しょいな (醤油
が) 無いわれ (無い) とか、 すう (酢) も キラシタ
レたら (とか) 言うてな。

きらす【不切】【雪花薬】【名詞】 豆腐の絞りかす お
から うのはな 料理する時に切らずに、そのまま使
える意 (志 (越賀、浜島、立神、甲賀)、鳥、貝、津、
飯、張、尾、南) [会話] キラズ言うな (のは) おか
らの事、とふ (豆腐) の からの事。

きらせん【切】 切らない

ぎらつく【自力五】 光が強くぎらぎらと光る [会話]
めえな (目が) ギラツク言うてな、めえな (目が) ま
あ ギラツイテ めえやせんわれ (見えません) 言う
て、老眼になって来るとなあ、使うと きらきらして
来てなあ めえやせんの (見えないのです)。波な
(に) 日が 当たって ぎらぎらすのな (するの
です)。

きらよおった。きらよおって 嫌った 嫌がった [会
話] この人すかざるやわ (嫌な人だ) すけべ (助
平) で言うて、すけべな事言う と どいらいキラヨオ
ッタ (大変嫌いました)。

きられ 1) 切ります 2) 着ます

きられられ 1) 切る事が出来る 2) 着る事が出来る

きらわれもん (きはれもの) (嫌者) 【名詞】 人に愛さ
れないで、いやがられる人間 他人から嫌われる人間
嫌られ者 [会話] あの人嫌いや (だ)、大嫌いや
(だ)、お喋りで ええ (よい) 事 わり (悪い) 事、
囀ずって (喋って) 嫌いやなあ (だ) 言うて 嫌われ
る事な (です)。何処い、いても (へ行っても) 嫌わ
れる人、キラワレモン。

きり【切】【名詞】 1) 区切り 際限 限度 終り (志
(布施田)、張) 2) 線、筋 [会話] 1) キリ 仕事
のキリがついた。仕事な (が) 終わると、ひとキリつ
いた言うて。仕事な (が) キリン (に) なったら、昼

ん (に) しょおやんか (しましよう) 言うて。こっか
ら (ここから) ここい (へ) しょおと思とるとこ (思
って居る所)、そこまで いた時ん (に) キリがつい
た言うんや (言うのです)。キリまでしたら 昼しょ
おとか、ゆざけ (おやつ) にしょおとか。

ぎり【義理】【名詞】 義とは、正しい道筋と言う意味で
義理と言われた 従って人間社会の生活形式の上の相
互協調のようにも解釈されるべきもので、広義の礼で
ある。民族語としての義理 交際関係の拘束を意味し
て居る [会話] ギリジユウギ ギリと禪かかな 通
らん (通らない) 言うて。人の家ん (に) 何かもろた
ら (貰ったら)、又 礼に なんかせんならん (何か
しなければならぬ)。百円の傘い (に) 編笠 一か
い (一本・かい、傘の数え方) でも言うて、何か貰う
と 貰いずて出来やせんし (出来ないの) 言うて。
そげんすんの (そんなにするの) ギリする、ギリもし
やせん (しない) 言うて。そげな (そんな) 事せんと
(せずに)、ギリも なんもすんねないし (何もする
のでなくて) 言うて、ギリ知らずやよってん (だから)、
人の物 もろても (貰っても)、なんも返さらっ
たり (何も返さなかったり) すると、ギリシラズや
(だ) 言うて。

きりあげ【切上】【名詞】 季節漁の終る事 今年の漁の
終る事 [会話] 九月ん (に) になると キアゲやなあ
(だ) 言うて、朝鮮行くと九月ん (に) になると、期限
な (が) 来て、キアゲや (だ) 言うて、キアゲル言
う事を キアゲ 九月の一日で 締切りん (に) なる
事を、キアゲ。キアゲて帰るやよってん (だから)
言うて、かとぶね (鯉船) も 春の鯉な (が) 済むと、
キアゲて こんだ (今度は) 仙台へ行くとか言うや
んかい (言います)。

きりあげいわい【名詞】 一つの仕事が終わった時にす
る祝宴 (志) [会話] あがりごっつおの事やわいな
(です) キアゲイワイは。のきわの 事やわい (で
す)。今日は仕事な終わって、なんぼくの、のきわや
(だ) とかなあ、さいら舟 (秋刀魚舟) の、のきわや
とか (だ) 言うてなあ ごっつお (御馳走) してなあ
仕事な (が) 終わった時 んなあ (に)。

きりあめ【切飴】【名詞】 飴を棒状に伸ばし3cm 位に切
った菓子 [会話] キリアメ言うんかい (言うのです
か)。てえい (手に) つばき (唾) つけといて (てお
いて) 飴 きんのも (切るのも) つばきで ねぶと
いて (舐っておいて) 糸で切りおったなあ (切って居
ました)。

きりあわせ (きりあはせ) 【切合】 【名詞】 調節 [会話] 塩な (が) 効いとるとこ (ている所) と、効かんとこな (ぬ所が) 有るやんな (でしょう)。そやもんで、こんだ (それで今度は) それを 漬け替えるのと、しょからいとこ (塩辛い所) と うっすいとこ (薄い所) と、いりまじってくもんで (入り混じるもので) そげんして (そんなにして) キリアワセして本漬けんすんの (にするのです)。調節することな (です)。

ぎりがたい (義理堅) 【形容詞】 確実だ

きりかぶ (切株) 【名詞】 木を切った残りの部 [会話] きい (木) のキリカブとか、きい (木) 切ったあとのキリカブ、麦刈った キリカブや (だ) とかなあ。

ぎりぎり (限限) ぎりぎりいっぱい 【形容詞】 それを限度として、それ以上、又それ以外に余地の無い事 カギリカギリ (限限) の略 (大言海) (上、阿、張、名) [会話] ギリギリイッパイ。今日はまあ 仕事ひい (日) 一杯言うのなあ (です)。ギリギリイッパイ 今日働いたなあとか、ギリギリイッパイ 決まったなあ (終わった) とか言うてな、帯とか、ひぼ (紐) とかでもな ギリギリイッパイで結ばれやへんねよお (結べないのだ) 言うたりな、限度一杯。今日は ひい (日) 一杯働いた言うのなあ ギリギリイッパイやったなあ (だった)。

きりきりどんばら 【名詞】 太きな腹

きりきりばあ 【名詞】 1) 精神状態の正常で無い人 (上、阿) 2) 馬鹿

きりきりまい (きりきりまひ) (旋回舞) 1) 大忙し (志 (布施田)) 2) 急ぐ 3) くるくると回転して居る事 [会話] 2) キリキリマイしてた (していった) 言うて 急に 死んでたり (いったり) するとなあ、キリキリマイしてたなあ (していった) 言うて言うし、3) きりきりぼんぼん めえな (目が) もおてこい (廻って来い) 言うてなあ。自分で、もおととと (廻っていると) ほすと、えごつと (すると完全に) めえなもおて (目が廻って) 来てな それを、キリキリマイした。ちっちゃい時分にや (小さい頃には) きりきりぼんぼん めえな もおてこい 言うて きりきりまよおってな (廻って居て) そして めえな (目が) くらくらして来て、どすわっててなあ (座って行て)。1) 忙して 今日 キリキリマイやったよお (だった) 言うのな (です)。ものすごい (大変) 忙し時をなあ 忙して忙して、キリキリマイしたよお (しました) 今日は。

きりきる 線を引く [会話] キリキル あんた (貴方) これ こっから (ここから) こっちゃやんな (こちらです)。わしや (私は) こっから こっちゃや (ここからこちらだ)。荒布のだいわり (荒布の干し場をきめる) で きりつける言うてなあ、荒布のだいわり (場所ぎめ) すると キリキッて、なあ (縄) 張って 場所とんのを (とるのを)、場所割りすると、キリキッてなあ キリキッカナ判らせんわい (ておかなければ判りません) 言うて、キリキッイテ なあ (縄) 張って こっから こお おらげ (私の家) の場所、こっから こんな、あんた家 (これが貴方の家) の場所言うてなあ。

きりくち (切口) 【名詞】 切った所

きりこ (切子) 【名詞】 切子灯籠の略、盆灯籠の一種で、角形灯籠の隅を切り落としたような物、隅ごとに造花を飾り、紙片をたれ、下部には四方に白紙の幡を張り下げて、それに、透模様や六字の名号を入れる事が多い。[会話] 盆にさがらかす (吊す) のを キリコ。キリコ さがらかして じっぱなのお (吊して立派ですな) 言うて。キリコドウロウ 灯籠やけど (だが) なんごお、なんやらかやら (長く色々) 飾な (が) よっけ (沢山) ついてしとんのを (しているのを)。

ぎりごと (義理事) 【名詞】 どうしてもしなければならぬ交際 結婚、葬式、新築、出産 餞別など (四) [会話] ぎりせななあ (しなければ) 言うて、あの家も なんかもてて (なにか持ていつて) せなはざんわれ (しなければ駄目だ) あの家も、やったか 言うて。ぎりと揮や (は) かかな (かななければ) 通らん言うてなあ。ぎりはせな (しなければ) 食わんとおてもなあ (食わずに居ても) ぎりはせんとおられやせんで (せず居れないので)、あの家 香資もしたか、餞別もしたか言うてな、そいなのおを (そんなのを) ギリゴト 言うのなあ。

きりさく (切裂) 【他カ五】 切ってばらばらにする [会話] 切って、きさくの、キリサイタレ (てやれ) 言うてな、なんやかや (いろいろ) 物が有ると、そやま、キリサイタレ 言うてな 切ったれ 言う事をな キリサク。

きりし 【名詞】 色紙 当て布 [会話] むつきを キリシ 当てて 糸で へんばん (蜘蛛の巣に) さいて (刺して) 刺子ん (に) つんで、しとるもんで (縫ってしているので) むつきみたよななあ (ようだ) 言うて、つんであると (縫ってあると)。

ぎりじゅうぎ 【名詞】 義理順義の訛った語 義理 交際

関係の拘束、順義 道義に従うこと、他に対する務、世間に対する義理、義理順義として用いる事が多い。

〔志（布施田）〕〔会話〕 ギリジュウギ言うな（のは）餞別もせえ（しなさい）おぶぎ（初着）も着せて、ゆわい（祝い）も言うてすんのを（するのを）ギリジュウギなあ。ギリジュウギな（が）えろおて（大変で）言うて、ほして（そおして）みやげもん（土産物）でも 旅行いきたねよって（行って来たのだから）あしこいも（あそこいも）やれ、ここいも（ここにも）やれ、おじさんげもやれ、従兄もやらなはざんわれ（やらねければいけない）言うのを、ギリジュウギ言うの（のです）。ギリジュウギ なんもしやせんねもん（少しもしないから）言うて それせん（しない）家なあ ギリジュウギ、なんも つねしてねえもんなあ（平素してないのだから）言うて言われんね（言われるのです）。

ぎりしらず（義理不知）【名詞】 吝 人と交際しない人
〔志（志島）〕〔会話〕 ギリシラズ言うな（のは）人とつきあいしやせん（交際しない）言う事やわい（です）。なんをもろても（何を貰っても）返ししやへん（しない）事やわい。

きりだし（切出）【名詞】 先が尖って、斜めに刃のついた小刀（志（甲賀）、鳥、上、阿、張、南）

きりだす 話し始める 物事を始める

ぎりだて（義理立）【名詞】 本心でない交際、義理を立てること、義理を重んずること、義理を守ること。
〔会話〕 ぎりじゅうぎも 一緒やわい（です）ギリダテは。

ぎりつきやい（ぎりつきあい、ぎりつきあひ）ぎりづきやい（義理付合）【名詞】 世間への義理で、やむを得ずつきあう事。しかたなしに交際すること。〔会話〕 いやいやでまあ 嫌やけど（嫌だが）義理ん（に）つきよとかな（つきあっておかなければ）言うのも有るし、つきやいな（つきあいが）有って言うて 義理ん（に）つきよとかな 言うばやい（場合）も 有るなあ ギリヅキヤイ 言うて。

きりづけ（切漬）【名詞】 1）沖で漁獲した魚に 切れ目を入れ 塩をまぶした物、小魚は骨をつけたまま、鰹などは刺身にして塩をまぶす。2）大根や蕪などを切って漬けた物。（桑市）〔会話〕 ① 魚のキチヅケ、鰹のキリヅケ、たかべのキリヅケ、沖で たかべのキリヅケ よお（よく）して来る。② だいこ（大根）も、キリヅケん（に）する。

きり、つける（限付） 終わらせる 決着させる 一段落

させる 区切りをつける けりつける 〔会話〕 けり（決着）つける。けりつけて言うけどな、こげな（こんな）商売けりつけて こんだ（今度は）商売がえせなはざん（しなれば駄目だ）、なんもこや（少しもこれは）儲からん こいな（こんな）商売しとらんと（してなくて）、こればな（これを）けりつけてまた なんか（なにか）他の事しよおやんか（しましよ）言う時んなあ（に）、キリツケル言うんな（言うのです）。これは まあ、蹴っといて（やめておいて）他の事する覚悟をする言う事んなあ（です）。けりつける言うのなあ。キリツケル言うのでも きめてする言う事が有るわな（有ります）。キリツケタラないかんわれ（駄目だ）ちゃんと決めたらないかんわれ（てやらなければ駄目だ）きちんとせえ（しなさい）言う事をな、キリツケル言うのな。いろいろ問題が出来た時に、喧嘩したりしとんのもなあ（しているのも）ちゃんと おさめな（納めなければ）いかん言う事をなあ はっきり、きめたる（てやる）事を けりつけるも キリツケルも一緒やなあ（です）。

きりづめ かなづめ ぎりぎり一杯 必要最小限（志（布施田））〔会話〕 きちっと 計ったよおんすののを（ようにするのを）キリヅメカナヅメ言うてなあ、キリヅメん（に）すると わがとらな（自分達が）くうとんのん（食べているのに）人な（が）来ても もる（よそう）事な（が）出来やせんよって（出来ないから）ちよいと（少し）余分にすんのをなあ（するのを）キリヅメカナヅメん（に）したら、はざんどお（駄目だ）言うて。

きりつめる（切詰）【他マ下一】 俟約する、節約する

きりとおしてくる（雑通） 直立して居る 〔会話〕 麦でも播くと じゃんじゃん キリトオシケルと、おおた今し（今）生えたてで、見事なよおな言うて。

きりない（限無） 際限が無い。果てしない。

きりぬける（切抜）【他カ下一】 困難な状態から脱する

きりば（切板）【名詞】 まな板（志（甲賀、国府）、鳥、安、度、南）

きりばな（切花）【名詞】 枝、茎をつけたまま切った花

きりばん（切板、切磐）【名詞】 まな板（志（浜島、鶴方、神明、立神、国府）、鳥（加茂）、松、桑郡、桑市、員、三、多、上、名、度、伊、北、尾、南、熊）〔会話〕 キリバン言うな（のは）まな板の事かい（ですか）。餅とる時んのおも（ののも）有るし、うどん打つ時んなあ（に）キリバンや（です）。そば打つ時のキリバンや（だ）言うて、大きなおな（のが）有よ

おったなあ (有りました) キリバンや (だ) 言うて。

きりひ。きりび (切火) 【名詞】 1) 神に供える物と、一般の物とを区別するため 一度火を消すこと。餅搗の時、神佛に供える餅 三臼を搗いた後、一般と区別するため一度火を消す事 普通、燗を一つ取って消す。ふじょお参照 2) 月経 (志、度) [会話] 1) 餅、搗いても 供えの分や (だ) 言うて 餅、喰うたらはざん (食べたらいけない) 言うて、供えとったと (取ってやると) ひい (火) 消せ言うて おき (炭火) を一つじゅつと、水の中い (へ) 入れて ひい (火) 消したと (てやると) そんで (それで) キリビになる わけや (わけです)。ええ (よい) のと わりのおと (悪いのと) 区別つけたるわけや (つけてやるのです)。キリビ言うのは そこで 区切切ったんのなあ (切るのです)。みいうす言うて みいうす搗くうちや (間は) 神さんへ供えるのやもんで (のだから) みいうす搗くと キリビしとけ (しておけ) 言うて 燗を一つ水で ちゅつとして消すんでや (のです) そすと (すると)、ひい (火) 消したよって (から) くえ (食べなさい) 言うて みいうすのうちは食わせんの (間は食べないのです)。

きりばし (切干) 【名詞】 生の芋、大根を細く薄く切って干した物 (上、阿、張、名、南、熊)

きりまあし (切廻) 【名詞】 1) やりくり、特に家計のやりくり。2) 中心となって事を行うこと。[会話] 2) キリマアシして言うて、仕事をなあ、ざい (采配) 振る事をなあ、キリマアシ せえなはざんわれ (しなければ駄目だ)、仕事のキリマアシな上手でなあ、仕事な早い言うてな、段取な (が) ええ (よい) 言う事 やわい (です)。あの人 キリマアシな (が) よおてなあ (よくて) 言うて、田植えやどけ (など) 特別やわな (です) はよ、なあ (早く縄) 張って、まち (目印) 打って 植えるよん (ように) 段取な (が) ええと 次、次と仕事な (が) 早いけど (けれど) 段取りな (が) わり (悪い) となあ はざんもんで (いけないので)。

きりまくる (切捲) 【他ラ五】 盛んに切る まくるは盛んに行なう意

きりみ (切身) 【名詞】 魚肉などを適当な大きさに切った物 [会話] 鯖のキリミ、鯉のキリミとかなあ、切って刺身ん (に) するよん (ように) してあんのを (有るのを) キリミ言うのなあ (です)。

きりめ (切目) 【名詞】 1) 切り口 2) 区切り

きりもち (切餅) 【名詞】 のし餅を切って小さくした餅

(志)

きりもり (切盛) 【名詞】 仕事や家事をさばく事 切りまわし 計画や実行 [会話] 切り回しと一緒や (です)。キリモリ付ける 言うのなあ (のです)。よお似た言葉や (です)。

きりもり 【名詞】 折目切目 [会話] 後始末もせんと (せずに) 引き摺りさがして たれながしみたよな (のような) 仕事して言うてな キリモリつけんとなあ (つけずに) すると たれながしみたよな 仕事のしいかたや (仕方だ) 言うて。

きりもん (着物) 【名詞】 着衣 きもん参照 (志 (鶴方、神明、立神、甲賀、国府)、鳥 (加茂、坂手)、松、桑郡、桑市、員、三、鈴市、鈴郡、多、上、阿、張、名、度、尾、南、熊) [会話] 着物の事 キリモン。

きりやい (きりあい、きりあひ) (切合) 【名詞】 きりあい、刃物で互いに切ろうとして争う事、棒切れを刀に見立てて遊ぶ子供の遊び (熊)

ぎりやい (ぎりあい、ぎりあひ) 【名詞】 義理合い。義理にからんだ関係。

きりやう (きりあう、きりあふ) 【自五】 切り合う

きりよお (きりやう) (器量) 【名詞】 顔 かたち 形姿、又、そのすぐれて居る事 [会話] キリヨオな (が) ええ (よい) 美男子やよお (だ) 言うてな、お おた (ああ) キリヨオな (が) ええなあ (よいなあ) 言うてな。

きりよおなわり (きりやうなわり) 1) 野菜などの形の悪いこと (南) 2) 容姿の悪い事 [会話] 2) キリヨオナワリ言うなだ (のは)、いもくさの (あばたのある) しわくちや (皺) だらけののおを (のを) まあキリヨオワリ (悪い) 言うの。今しの (今の) 子らきりよおな (が) ええわり (よい悪い) 言わせんなあ、ブスや言うてな キリヨオナワリのおを (のを)。1) なすびや (茄子とか) 胡瓜な (が) 曲がとたりすんのを (ていたりするのを) おおた こや (これは) キリヨオナワリなあ言うてなあ、芋でも かめ (甕) の ふちん (側に) 行くとなあ でこぼこん (に) しておた 此の芋な (が) キリヨオナ (ガ) ワリヨ (わるいです) 言うて。

きりよおよし (きりやうよし) (器量好) 【名詞】 美人顔立ちの美しいこと (津、松) [会話] 器量な (が) ええ (よい) 人 別嬪さんの人 キリヨオヨシ。

きりよる 1) 寄せ集める 2) 調節する [会話] 2) 何でも、うよ (植えよう) 思うと、こまかい (小さい) 土 寄せて、堆肥と キリヨッテ植えときやええ

われ（ておけばよろしい）言うて 土こしやえんの（作るのです）。

…きる【補助動詞】力一杯している 泣きキル（員、鈴市、安、津、北、尾、南、熊）[会話] 一番 終わりにキル言うの 走りキル 泣きキル言うて 泣ききってた（ていった）言うてな、こおな（子が）ぎちぎち言うて 泣いとるとなあ（ていると）。そして くちびろな（口唇が）えびせん色（暗紫色に）なつて来てなあ そいなの（そんなのを）泣ききってく（て行く）言うのなあ（です）。笑いきって言うのも あるしなあ わろて（笑って）わろて（笑って）笑いきってたよお言うて。

きるもん【名詞】着物

きるもん 着ます

きれ（布、裂）【名詞】布（志（布施田、甲賀））[会話] キレな（が）なあがいの（長いので）肩上げする言うて。はぎれ（端布）とか きもん（着物）のキレ。

きれいさっぱり 完全に

きれいしゃ【名詞】綺麗好きな人。いつも綺麗にしている人。きれんしゃ参照

きれいや 美しい（鳥、鈴市、一、多、伊、南、熊）[会話] キレイヤ言うな（のは）美しく、キレイヤなあ あの人言うて。おおた、ええよお（よいのに）見よまあ言よおったなあ（見なさい言っていました）きれいな事を。

きれえ【形容詞】立派 キレイ（綺麗）の訛

きれえずき（綺麗好）【名詞】特に綺麗なのを好む人。少しの汚れも気にして嫌う事、又その人。

きれえな 綺麗だ（熊）

きれえなかった 綺麗だった（北）

きれえに 1）綺麗に（志、鳥、鈴郡、度、南）2）完全に残らず

きれえや 綺麗だ（鳥、鈴市、一、多、伊、南、熊）

きれくち（切口）【名詞】物の切れた所 切れた断面

きれつぎ 着物の破れなどをつくろうのに当てる布切れ（鳥（鳥羽））[会話] しきしばっか（当て布ばかり）キレツギばっか（ばかり）破れたとこい（所へ）当てると、もつぱつぎや（だ）言うて。

きれと（切所、切処）【名詞】1）足の指の関節の裏側、線上になつて居る所が切れたもの、指（趾）の股 あしなか参照 2）物と物との間の狭く深い所 裂目（志（布施田、鵜方））[会話] 2）キレト 云うな（のは）島と島との あいに（間に）割れ目な（が）あつて、そなふっこおて（それが深くて）、キレト

な（が）ふっこおて取られんで（深くて取れなくて）おおのみ使こた言うの（のです）。めえとんねけどな（見えているのだが）まあ てえ（手）も、たらわせん（たわらない）体は入ってかれやせんし（入っては行けないし）そいな時に その キレトな（が）ふっこおて（深くて）おおのみ使こた（使った）言うの（のです）。島な（が）大きいのを 割れてしとると こん（している所に）又 おおび（鮑）や 海老な（が）すまうんでや（住まうのです）。そすと それを取んのに（取るのに）おおのみ 使う時な（が）あんね（有るのです）。¹⁾ キレトデ もお一つ 足の指が切れる 足のキレトな（が）痛おて（痛くて）そして、また（股）のこれをなあ、キレトな（が）かいいて（痒くて）言うて、いび（指）の股や（と）言うけど そんでも、キレトも使うわいな（使います）いび（指）のまたな（股が）かいいて（搔くくて）言うて キレトは言うと ふっこおしとんのを（深くしているのを）キレトや（だ）言う（言います）。

きれもん（切物）【名詞】物を切るのに用いる道具 刃物（志（布施田）、三）[会話] キレモン言うな（のは）、薄刃や ほつちよ（包丁）や 鉋や 鎌や言うて、切れるもん（物）を、キレモンや。そこいら（そのへんに）キレモンおいとくなよ（置いておくな）危ないよつて（から）。

きれもん（切者）【名詞】頭の良い人 [会話] 頭のええ（いい）人 賢い人も、頭な（が）きれる言うの。あやどいらい（彼は大変）頭な（が）きれて言うて、頭のええ人の事 キレモン。

きれる（切）【自ラ下一】1）品切れになる 使ったり売れたりして、それまであったものがなくなる 2）金銭を惜しみ無く出し、気前のよい所を見せる（志、鳥）3）頭の働きが鋭い又、仕事をてきぱきと片付ける能力がある。（志、鳥）4）交際をしなくなる 続いているものに間を生ずる（雲が切れる） 5）弁説がさわやかで有る [会話] 4）彼女と彼氏やっても（であつても）、別れた事を あやまあ キレタんで われ（切れたそうだ）言うし、綱な（が）キレンのも（るのも）有るし、¹⁾ 今日は 米な（が）キレとか、ぜん（銭）も キレとか言うて 物な（が）無いよんなつてく（いく）事を キレル 品切れや（です）。⁵⁾ 口もキレルし、気前がよおて（よくて）言うて、よお（よく）しゃべんのも（喋るのも）口な（が）よお（よく）キレル。あや（彼は）口な（が）よお切れんねよつて（よく切れるのだから）。³⁾ 頭な（が）ええ

(いい) のも 頭がキレル なんでもえろおて (偉くて) 言うて。

きれんしゃ【名詞】 綺麗好き いつも綺麗にして居る人 何事も丁寧にする人 きれいしゃに同じ (志 (布施田)、阿、張) [会話] 綺麗者 じっぱん (立派に) 美ししとると (美しくしている) あの人 キレンシヤやな (だ) 言うて 何時も美し (美しく) して きちんとしとる (している) 人をなあ、あの人 キレンシヤで 何時でも じっぱん 綺麗にしとんなあ (している) 言うて。

きれんずき【名詞】 綺麗好き 綺麗にするのを好む人 (阿、名) [会話] きれいしゃやなあ (だ) 言うて 綺麗好きの事を あや (彼は) キレンズキで あの家行くと じっぱんしとられ (立派にしている) 言うてな。

きろう (きらう、きらふ) (嫌)【動詞】 嫌うの訛 嫌がる (鈴市、多、伊)

きろた 嫌った (津、鈴市、伊) [会話] 好かん (嫌な) 事をなあ、キロタまあ おらばな (俺を) 言うて。除けもん (者) にすると おらばな キロテまあ言うて キロタ言うな (のは) 好かん事。

きろて 嫌って いやがって (三、鈴市、伊) [会話] 除けもん (者) にすると おらばな (俺を) キロテ言う。

きわ (きは) (際)【名詞】 まぎわ (時間的 空間的) 境目 あたり (辺) 時 波打ち際 端辺 (志 (浜島、布施田)) [会話] キワ言うて、はしくれ、こんな (これの) キワ のおとけ (縫っておけ) 言うて、はしくたの事、キワ。キワい (に) まで いて (行つて) 危ないやんか (でないか)、キワ迄 えごとしとけ (立派にしておけ) 言うて、はしを キワや (だ) 言うな (言います)。波打ちキワい (に) 迄、流れて来たな (来ました)。

きわころ (きはころ) 量や額は少しだが、誠意が込められて居る事 贈物などをする時に使用する [会話] キワココロ、心持ち、たいしたこた (大変な、立派な事は) よおせんけど (できないが)、ちょっとした事すんのを (するのを)、キワココロ。人ん (に) なんやかや (いろんな物) じょおつくもろても (いつも貰つても)、なんもよおせんけど (何もよくできないが)、キワココロ こいなもん (こんな物) でもやろか (やろうか) 言うて すんのを (するのを) キワココロ。

きわだ【名詞】 魚 きはだ鮪 きはだ参照 (北、熊)

きわどい (きあどい) (際疾)【形容詞】 もう少しで、仕損じる所だ 危い (志 (布施田)) [会話] キワドイ言うな (のは) はしくたい、いて (端に行つて) 危い。ものすごお (大変) 危いとこまで 行く言うの (のです)、キワドイとこ 迄いた (行つた) 言うて。手芸しとても (して居ても) おおた、キワドイとこ迄やよお (だ) 言うて、丁度ええとこ (良い所) まで いた (いった) 言う意味もあんねやろなあ (有るのでしょう)、キワドイとこいいた (所へ行つた) 言うもの。丁度ええとこいいた。キワドイとこやったよお (所だつた) 言うて、すつてのこと (すんでのこと) すつてのこと言うのと 一緒やわい (です)。

きん (金)【名詞】 金 金たまたま 男性器 金たまたまの略 (大言海) (津) [会話] キンかい (金ですか) 金持ちやなあ (です)。キン二万両言うて 金二万両や (だ) 言うて まあ、そんだけかい言うたや (それだけでですか言ったら) ええい (いやいや) まら有る言うて。

きんうり (金瓜)【名詞】 まくわうり 熟すると黄色になる、ウリ科ツル性の一年草。全体にとげ状の毛を散生する。葉は長柄を持ち、くつ形で浅く、掌状に裂け各裂の片の縁に不規則な鋸歯が有る。雌雄同株、夏、先が深く五裂した黄色の花を開く。果実は卵状楕円形か円形で長さ10～15cm、黄、緑、白色に熟し、芳香と甘味が有る。岐阜県本巣郡真桑村のものが最上とされた。(志、南) [会話] 黄いな (黄色い) 瓜、黄いな (黄色い) 瓜な (が)、有つて キンウリ言よ おったやんか (言つて居たで有りませんか) 今し (今) でも 有るけど。

きんか (金柑)【名詞】 きんかん (金柑) 頭の略 はげ頭 きんか頭、きんかは金皮の略 (大言海) (志 (志島)、尾、南) [会話] 頭な (が) キンカや (だ) 言うて、禿げとる (ている) 人な (が) あると、頭 キンカやなあ (だ) 言うて、キンカやとか (だとか) きんからかんやとか (だとか) 言うの。あの人頭 見よまあ (見なさい)、あやあれ (あれあれ)、きんからかんやない (だ) ものすごお (ものすごく) 禿げとんの (ているのを)。

きんかい (近海)【名詞】 陸地に近い海 遠洋に対して [会話] 近い海、言う事やろ (です) キンカイ。

きんかいもん (近海物)【名詞】 近海で漁獲した魚 [会話] キンカイモンや (物だ) 言うてな 鰹な (が) そこの沖で釣つてくんのをな (来るのを) 沖な (が) ちっこおて (近くて) キンカイモンで 言

うてな 沖な (が) ちっかい (近い) と近海、キンカイモンでうまいね (美味しいのだ) 言うてな。

きんかくし (金隠) 【名詞】 1) 樺 (上、阿) 2) 便器の前にある突き上がったもの (志、鳥) [会話] 1) 赤樺 けつわり (樺) は、キンカクシは六尺五寸 越中は三尺でええんけど (よいのですが)。

きんかざんおどり 【名詞】 鯉船の漁師が金華山の近くで踊り

きんからかん 【名詞】 禿げ頭 よく禿げて居るさま [会話] キンカラカン、禿げて 頭な (が) 禿げて きんかんや (が)。

きんからこ 【形容詞】 よく光っている状態 [会話] 鍋も ひい (火) 焚くもんで (ので) 炭な (が) つくやんない (つくでしょう)。軽石でこすって 鍋も、キンカラコん (に) して。

きんかんばら (金柑腹) 【名詞】 手、足、体は痩せて腹だけ大きい状態、病気、栄養失調 はらなおつきい参照 [会話] キンカンバラ、体な (が) ほっそおておって (細くて居て)、足も てえ (手) も、ほっそおて (細くて) 腹ばっかおつきいて (ばかり大きくて) 臍な (が) 飛び出して。

きんぎよく (きんりょうく、きんれふく) (禁漁区) 【名詞】 漁業が禁止されて居る区域 [会話] キンギョクは 活けて有るとこ (所を) をなあ。たていそ ん (に) して 活けて、これからは入いられやせん (入られない) くちあけやなけな (でなければ) 獲られん言うとこ (所)。キンギョク言うのな 禁漁区言うのを 短こお言うたんの (短く言ってやるのです) キンギョク言うて。

きんきんぼし 【名詞】 飛蚊症 (志 (布施田)) [会話] めえ (目) から キンキンボシな (が) 飛んだ、目な (が) きらきらと 飛びもんな (物が) して来るわい (して来ます)。内な (体が) 弱ったりすると。目使い過ぎると キンキンボシな (が) こないだ、よけ (この間沢山)、書いたや (たら)、きんみたよん (のように) こおして来たんやんかい (して来たのです)。ひいな こおするよおん (火の粉が飛ぶように)、わしゃ (私は) キンキンボシ出したよお (出しました) 言うて、わろて (笑って)。めえ (目) が疲れる なんやかや きらきらとすん (する) のを キンキンボシ。飛びもんな (物が) して来ん (来る) のを、キンキンボシな (が) 飛んで来た。

きんきんみず (金金水) 【名詞】 よく澄んだ綺麗な水 湧き水 [会話] 水な (が) 美し (美しい) と、キン

キンミズやなあ (だ) 言うて 水な (が) 澄んどると (でいると) キンキンミズや (だ) こや (これは) 言うて。

きんこ 【名詞】 さつま芋の煮切干 (志 (浜島、神明、立神、安乗)、伊) [会話] 芋の炊いたの 切り干し、ここで キンコ。キンコ言うたら 和具のキンコが有名なよってなあ (だから)。キンコ 芋 炊いて干したの。

きんこいも 【名詞】 芋の煮切干を作る芋 [会話] キンコイモは 今し (今) は 南瓜芋やけどな (だが) 前のキンコイモは きみいもやったやんかい (でした)。きみいも言うて 甘味な (が) 有ってすんの (するのです)。きんこん (に) すると おいしいてなあ。炊いても 甘かりおったけどなあ (甘かった)。

きんこたき 【名詞】 芋の煮切干しを作ること [会話] きんこ (煮切干) 作る 鍋で炊くのを 大きな鍋で、ろくしょ (六升) 釜やたらな (だとか)、一斗釜やたら 言うて 炊きよおった (炊いて居ました)。炊いといて (ておいて) それを かあ (皮) 剥いて 薄刃 (菜切り包丁) で切って、せえろい (簀へ) 干してすんの (するのを) それ キンコタキ。

きんこめし 【名詞】 きんこを入れて炊いた飯 (志) [会話] キンコメシ 芋のかんころで炊くと、芋のきんこをなあ、こんだ (今度は) 炊くねやんかい (のです)。御飯え入れて 長崎でかんころ飯 キンコメシやうまいんけどな (美味しいのだが) 切干やな (は) 日向くそおそて (臭くて) うまないの (うまくないのです)。

ぎんこや 【名詞】 銀行 [会話] あの家 てえとおん (に) 入れて 金かったんでわれ (借りたそうだ) 言うて。今し (今) でも ギンコヤ でも 財産な (が) なけな (無ければ) 借られやせんねよってん (借りれないのだから) その値打 だけの ぜんより (銭より) 借さんねよってんなあ (借さないのだから)。

きんざい (近在) 【名詞】 近くの土地 [会話] キンザイ言う と 近いとこ (所) を 言うんやろ (言うのでしょうか)。

きんさく (金策) 【名詞】 さまざまに工夫して入用な金をととのえる事

ぎんしもと 【名詞】 会計 会計人 集会の責任者 [会話] ギンシモト言うて 金のかんじょ (勘定計算) 出したり入れたりするもんで (ので) 言うんやろなあ

(言うのでしょうか)。ギンシモトで あの人な (が) なんもかも (すべて) 皆 してくれとんね (してくれているのだ) 言うて。ギンシモトは 出したり入れたり 会計を扱う人を。葬式でも 皆、帳面 (通帳) で とて (取って) 来て、買う時や (は) 葬式な (が) 済んでから かんじよ、はらいん (勘定払いに) 行くや んない (でしょう)。何処そこい 幾らはろてきた (払って来た)、どこそこで 幾らもろて (貰って) 来た言うて それすんのを (するのを) かいけえ (会計)、葬式で あの人な (が) かいけえしとる (会計している) 言うて、今し (今) では言うけど (が) 昔 あの人な (が) ギンシモトで なんもかも (すべて) 出し入れしとんねよって (しているのだから) あの人ん (に) 言わなはざんわれ (なければ駄目だ) 言うて。

きんじよまあり (きんじよまはり) 【名詞】 結婚した嫁が隣家を訪ねてする挨拶。(志、松)

きんせんないのよわり 【俚諺】 金銭無いの弱り、貧乏で困っている

きんぞぐい 【名詞】 一度に沢山食べる事 [会話] キンゾグイ、飯をよけ (沢山) ひとくらん (一度に) 食うと、キンゾグイ。きんぞ (金蔵) 言う人な (が)、食うて食うて食いまくよおって (まくって居て)、ひとくらに (一度に) 腹もなんも、うちやれてく (壊れて行く) 程 食うもんで (もので)、ひとくらんよけ (一度に沢山) キンゾグイすんなまあ (するな) 言うて。一升飯炊いて そのひた (人は) ほぼったるやろん (頼張るでしょう)。その人の 食うの (のを) 見やせんけど (見ないが) そやけど、よけ (しかし沢山) 食うと、キンゾグイやなあ (だ)。キンゾグイして ひとくらん 食いまくって言うて。

きんた 【名詞】 魚 きんめ鯛 キンメダイ科の海魚。涙骨の前端に側方に突出する一棘がある。側縁は尾鰭上まで延長する。鱗の露出部の内面に肉質のこぶ状物が有る。腹鰭は胸位で一棘と十一條によりなる。体高は低く体長は体高の2.4～2.8倍 (志、鳥、北、尾) [会話] 魚のきんとき、キンタ言うわい (言います)。かげきよ。平家の大將景清。あの、きんとき言う魚は、美し魚やわなあ、美味いやんかい。

きんだい 【名詞】 近頃 [会話] キンダイ 回って来やせん (来ない) 言うてな。

きんだか (金高) 【名詞】 物の値段 収入合計 支出合計 計算した金の合計 金額 [会話] キンダカ かねだか。キンダカ言うと これは幾ら、此れは幾ら言うて かねだかを決める事をキンダカ言うて言うんや

ろ (言うのでしょうか)。

きんたま。きんだま 【名詞】 睾丸 男子の生殖腺 精子を作る場所 陰囊の内に左右一対ある、楕円形で精管に続く

きんたまなし 意気地無し (志 (鵜方)、鳥 (桃取)) [会話] キンタマナシ言うな (のは) 度胸な (が) 無い 言う事やろなあ (でしょう)。度胸な 無い事をキンタマナシよ (者)、ふんぐり無しよ言うて。

きんだまのななふしぎ 【俚諺】 陰におれども色黒い 縫い目あれどふくろべず 袋あれども口がない いくら若うてもしわが有る 金はあれども通用せず 竿は有れども物干せず かりは有れども利子いらず

きんたろさん (きんたらうさん) (金太郎) 【名詞】 乳幼児の腹当て 菱形で上部と左右の両端に紐がつき、首に掛け左右の紐を背で結ぶ (南) [会話] 腹当てなあ三角のなあ 金太郎な (が) 着とたもんで (着ていたの) そんで (それで) あれを キンタロや (だ) キンタロや 言うて。

きんちゃく (巾着) 【名詞】 財布、布 または革などで袋状に作り、口に緒をめぐらして引きくくる様にした物 中に金銭や小物を入れる 荷包を巾着と書いた。手巾に着けるので言う。燧袋の遺製 (大言海) (志 (布施田)、安、南、熊) [会話] レース糸でなあキンチャクこさえよおった (作って居ました)。毛糸やなあ、編んで吊がらしとりおったの (吊して居ました)。お金も入れたり、食うもん (物) も入れてなあそら豆や、あられ入れてなあ 吊がらかしとりおった (吊していました)。

きんちゃくきり (巾着切) 【名詞】 人込みに紛れて、又、人とすれ違う時、他人の懐中物をすり取る者 すり (志 (御座)) [会話] キンチャクキリ言うたら 掏模なあ。

きんちゃくふぐ 【名詞】 河豚の一種 きたまくら キタマクラ科のフグの一種。全長約20 cmになる。皮膚は強毒、肝臓と腸は弱毒、肉と卵巣は無毒、体色は暗褐色で背方に多くの青緑色の不定形の細線が有る。

きんとき (金時) 【名詞】 1) 赤い顔の人 2) 砂糖で煮た小豆にかき水をかけた物 3) くるまだい きんときだい科の魚 体は鮮紅色で腹びれの後縁あたりは黒い。鱗は粗雑で大きい。全長30 cm位になる。きんた かげきよ参照 (志 (志島、甲賀、安乗)、鳥、北、尾) [会話] 1) あつかいのなあ (赤いのです)。〇〇 キントキ、〇〇 じゃばら、向いの 〇〇〇は色男言うて。〇小父や (は) キントキみたよん (のよ

うに) 顔な (が) あっこおて (赤くて)、いかつうて (強くて)、どいらい (大変) おとこまいやけど (男前だけど)、顔な (が) 赤ら顔で。○○○じゃばら 腹な (が) おっきかったもんで (大きかったので) せえ (背) は、ちっさいし (小さい)。向いの ○○○ は 色男言うて。○○○小父や (は) じっばなかつたもん (立派だった)。²⁾ 米の中へ 小豆入れんのも 餡 入れると キントキ、小豆掛けると キントキや (だ) 言うて、つばあん (粒餡) にしといて (しておいて)。³⁾ 魚のキントキ かげきよ 平家の大將景清、キントキ言う魚は 美し (美しい) 魚やわなあ (です)。美味いやんかい (です)。

きんときいも (金時芋) 【名詞】 赤みを帯びた薩摩芋 [会話] キントキイモ言うな (のは) 中な (が) あつかあいのおな (赤いのが) あよおったやんかい (有ったで有りませんか)。赤芋言うのな (が) 有ったわい (有りました)。ぜんこじと 同様なおな (のが) まっかな (真っ赤な) あれを、キントキイモ言うたね (言うのです)。

きんときのかじみまい 金時の火事見舞 【俚諺】 顔の赤い金時が火事見舞に行ったら炎に映えて、ますます赤くなる事から、酒呑んだりして 顔が真っ赤な事の例。(志 (浜島、布施田)、上、阿) [会話] キントキノカジミマイ言うて、あっかい (赤い) 人を見るとなあ。あのひた (人は) キントキノカジミマイみたいな (のようだ) 言うて。金時や (は) 真っ赤ん (に) しとるやんない (しているでしょう)。そすと (そうすると) その人も 顔な (が) あっかいとさいご (赤いとその時) あのひた キントキノカジミマイみたいな 言うて。一杯呑んで あっこお (赤く) なって、しゅうてんびん (赤く) となると、キントキノカジミマイみたよなったなあ (のようになった) 言うて。取り立ての (取ったばかりの) 猿みたよななあ (のようだ) 言うたり。あっかいのおを (赤いのを) 取り立ての猿の尻、あんまり あっかい (あまり赤い) 顔の人見ると 取りたての猿の尻みたよななあ。

きんときまめ 【名詞】 隠元豆 (三重県全域) [会話] キントキマメ言うな、今しの (今の) かきまめ さがってくんのなあ (来るのです)。あんな あかるで (あれが熟して) するとなあ あつかあいのおな (赤いのが) 有ってなあ きんときは まっかしとる (真っ赤にしています)。みい (実) 剥くとな あや、あも おてな (あれは甘くて) きんときは 甘い。

きんとと 【名詞】 金魚 幼児語 (上、阿) [会話] 金魚

のこと キントトや (だ) 言うてなあ。キントトこおてくれ (買って下さい) 言うて よお (よく) 言うやんかい (言います)。

きんな 昨日は

きんにや 昨日は

きんによ 【名詞】 昨日 きのうの変化した語 (志、鳥 (加茂)、松、員、三、鈴市、鈴郡、津、久、一、飯、上、阿、張、名、伊、尾、北、熊、南) [会話] キンニョ 昨日言うのを、キンニョ言うの (のです)。

きんによのよさ 【名詞】 昨晚 (志) [会話] その夜のよさり (夜) の事、キンニョノヨサ 言うて キンニョノヨサ、昨夜の事 キンニョノヨサ (夜)。

きんによのよんべ 【名詞】 昨晚 (志 (御座))

きんによやきよお 昨日今日、最近

きんね 着るのだ

きんねん (近年) 【名詞】 最近の数年間

きんの 【名詞】 昨日 きんによ参照 (志 (浜島、鶴方、神明、立神、甲賀、国府、安乗)、鳥 (神島、坂手、国崎)、松、桑郡、桑市、員、三、四、鈴市、鈴郡、安、津、一、松、多、上、阿、張、名、度、伊、尾、南、熊) [会話] きのう (昨日) 言う事を キンノ。きんによ言うて きんによなれ (です) 言うて きんによ言うたり、キンノ言うたり、するなあ (します)。

きんの 着るのです

きんのおととい 【名詞】 一昨日 おとつい (志) [会話] おととい、キンノオトトイの事やったやんか (だったですよね) 言うて。

きんののよさ。きんののよさり 【名詞】 昨晚 (志 (国府)) [会話] きんによのよさ、きのうの晩言う事を キンノノヨサや (だ) 言うてなあ。

きんのな 着るのが

きんのや (着) 着るのだ

ぎんのり 【名詞】 上等の海苔 [会話] 浦の海苔、浦いつくのは ギンノリで、前いつくのは あまのり言うてなあ。くうろいし (黒いです)。浦んなあ (のは) ギンノリで ちよいと (少し) 茶色みたよんしとてなあ (のようにして) 銀みたよん 色しとんのなあ (しているのです)。そして 匂いな (が) しやせんの (しないのです)。前んのみたよん 前んのはなあ 匂いなよおて (がよくて) 甘いんけど (のだが)、ギンノリはやいこおて (柔らかくて)。どいらい さぶいひい (大変寒い日) に、浦い (へ) ギンノリ 捕りん (に) いこや (行きましょう) 言うて。

きんばい (金蠅)。 **ぎんばい (銀蠅) 【名詞】** 双翅目 ク

ロバエ科の蠅 金緑から青緑色に光る 体長8～9mmと大きい くそばえ(志(布施田)、尾)[会話]
おっきいて(大きくて) 青いよおな きんきんしたよ
おなのおなあ(のです)。キンバイ、ギンバイ、あく
ばい言うてなあ 糞にわくな(のは) キンバイ。

きんぱく【名詞】 河豚 かなふぐ フグ科サバフグ属、
体の腹面に小棘が有るが背面にない。鰓穴が黒い。体
長90cmにも達する事が有る大形種。

きんぴ(金肥)【名詞】 金を出して買う肥料 かねごえ
化学肥料 [会話] こやし 尻からでんのも(出るの
も) しもごやし(下肥)、しもごえ そすと 金、出
すのはキンピ、かねごえ(金肥)をどっさり(沢山)
して言うて 磷酸やてやら(だとか)言うて。

きんぴら。きんぴらづけ【名詞】 干し大根を薄く切って、
三杯酢に浸した物 [会話] キンピラ キンピラツケ
言うなあ(言います)。干しだいこ、うっすう(大根
薄く) 切ってなあ 醤油とすう(酢)で 三杯酢ん
(に)して 漬けとくと(ておくと) ものすごお(大
変) 旨いんてや(のです)。あんな(あれが) 酒の肴
ん(に) すんのんええ(するのによい) 言うて よお、
こさえるわい(よく作ります)。

きんぷぐ【名詞】 さばふぐ キフグ科の海魚。体長35
cmに達する。体はやや長く、頭部に小棘が密生し、
腹面にも小棘がまばらに有る。体色は背が黒色で、腹
は銀白色。尾鰭の上下端が、三角状に白い。無毒だが
不味い。(志、鳥、伊、南)

きんぺん(近辺)【名詞】 近い所

きんまい【名詞】 近海に同じ。陸地に近い海。

きんまんか(金満家)【名詞】 金持ち

ぎんみ(吟味)【名詞】 1) 相談 協議 評議 2) 考
を深くする よく考える よく調べる [会話] 2) ギ
ンミ言うな(のは) 調べる事、ギンミな(が) 厳して
(厳しくて) 言うて、調べるのおな(のが) きつつい
と(きついと)、ギンミな(が) きつついて(きつく
て) 言うて。1) よお(よく) 考えたか よお ギンミ
したか。そや(それ) わり(悪い) 品な(が) 無いか
言うて、よお 調べる事を、ギンミや(だ) 言うて、
えごと(充分に) ギンミせな(しなければ) わりのお
な まぜっとんど(悪いのが混ざっているぞ) 言うて。
なんやかやでも よお 調べんの ギンミ。ギンミし
て ものを 喋って。1) いろんな事を 決める時でも
よお ギンミせないかんなあ(しなければいけない)
言う。ギンミな(が) たららったやんかあ(足りなか
ったではありませんか) 言うな(のは) ちょいと(少

し) 多かった ギンミな(が) 多かったなあ言う
て。

きんめ(斤目)【名詞】 重さ 目方 一斤は約600g
(志(浜島、布施田))[会話] キンメな(が) 無い
われ(無い) 言うて、目方な(が) 無い 言うのをな、
めえかずいても(若布探しても) おおた(ああ) この
めえや(若布は) うっすうて なんも(薄くて少し
も) キンメな(が) 無いんなあ(無いのだ) 言うて、
目方な(が) なんも 無いわれ言うな(無い言いま
す)。キンメな(が) 無いわれ 言うて。

きんめ。きんめだい【名詞】 きんときだい きんた、き
んとき、かげきよ参照

きんもち(金餅)【名詞】 粟を入れて搗いた餅

ぎんもち(銀餅)【名詞】 米のみを搗いた餅 [会話]
米の餅との栗餅と はやして(切るの忌み言葉) キン
モチ ギンモチ言うて。

きんやのおこ【名詞】 夫 しやじまのおこ参照 [会話]
キンヤノオコ とと(夫)の事を キンヤノオコ。

きんれんか(金蓮花)。ぎんれんか(銀蓮花)【名詞】 金
紙、銀紙で作った蓮の花 葬式、初盆の時、仏前に供
える。